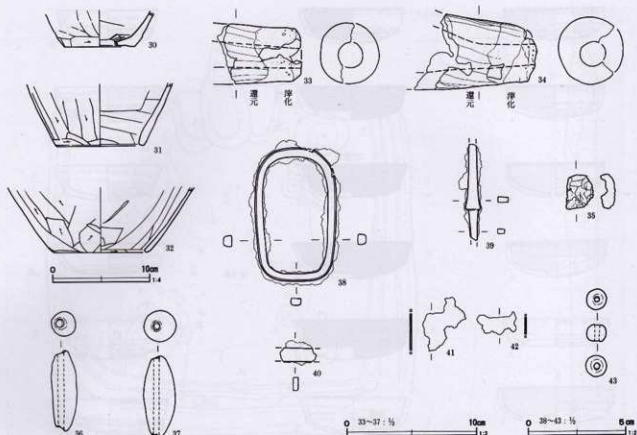




第146図 第56号住居跡出土遺物(2)

い板状製品の残欠である。43は床面から出土した丸玉である。石材は滑石。その他、図化した以外に羽口が62.53g、碗形滓872.83g検出されている。

出土遺物は時期的に幅があるようだ。23は混入として措くにしても、18～20のような口径12～13cm大の大振りの有段口縁環を含むこと、続比企型に転換する前の段階の比企型環を残すこと、更には北武蔵型環が伴出していないことから、7世紀前半と考えておきたい。

第57号住居跡(第147・148図)

第57号住居跡は調査区北端のB・C-4・5グリッドに位置する。第61号住居跡と重複し、本住居跡の方が新しい。

壁溝が二重に巡っており、一度相似形に拡張して建て替えたことが判明した。拡張前の住居跡を第57b号住居跡、拡張後のそれを第57a号住居跡と呼称した。

第57a号住居跡は歪みをもつため、平面形は台

形で、規模は長軸長6.00m、短軸長5.76m、深さ0.30mである。主軸方位はN-25°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏がある。カマド前面から住居跡中央部付近が硬く踏み固められていた。また、住居跡中央付近が一部被熱していた。

覆土は焼土粒子が目立ったが、自然堆積に近い印象を受けた。

カマドは北壁に設置される。袖部先端を掘り過ぎたが、全長は1.50m前後となる。燃焼部と煙道部は明確な段差を持たずに連続している。壁外の掘込みは約0.90mである。左右の袖部の中ほどには砂岩の切石が据えられていた。右袖の先端部(砂岩の手前)には土師器長甕の口縁部の半分と胴部の一部を逆位に据えて、袖の芯としていた。また、焚口部付近には土師器長甕が散乱した状態で出土しており、天井部の架構材に使用された可能性もある。袖部及び天井部は、こうした砂岩や土師器長甕の周りを黄褐色の粘質土で被覆して構築されたと考えられる。

第53表 第56号住居跡出土遺物観察表 (第145・146)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(10.4)	3.3	—	25	G・H・I・K	良好	褐	№24(床+6) 比企型坏 口縁部外面及び内面赤彩
2	土師器	坏	(10.4)	3.5	—	35	E・G・H・I	良好	褐	№19(床+36) 口縁部外面および内面赤彩
3	土師器	坏	10.0	3.5	—	85	E・H・I・J・L	良好	明褐	№25+貯穴(床直) 赤彩 口縁内面比線 比企型坏
4	土師器	坏	(10.4)	3.7	—	25	G・H・I・K	良好	黒褐	№18(床+32) 比企型坏 口縁部外面及び内面赤彩
5	土師器	坏	(11.0)	2.8	—	25	C・G・H・I	良好	橙褐	
6	土師器	坏	11.8	3.5	—	20	H・I・J	良好	褐	赤彩 比企型坏 内外面赤彩
7	土師器	坏	(10.8)	3.7	—	20	A・H・I	良好	褐	内面黒色処理 外面はやや不明瞭
8	土師器	坏	(11.1)	3.1	—	45	C・G・H・I	良好	暗褐	有段口縁坏 黒色処理
9	土師器	坏	(11.1)	3.3	—	20	C・G・I・K	良好	黒褐	有段口縁坏 内外黒色処理
10	土師器	坏	(12.4)	3.8	—	35	C・H・K	良好	褐	有段口縁坏 内外面黒色処理
11	土師器	坏	(12.0)	3.4	—	20	C・G・H・I	良好	暗褐	有段口縁坏 内外面黒色処理
12	土師器	坏	10.9	3.9	—	65	C・I	良好	橙褐	カマド 横飯坏
13	土師器	坏	(14.0)	3.3	—	20	C・G・H・I	良好	褐	有段口縁坏 無彩
14	土師器	坏	(10.9)	3.6	—	20	C・H・I・K	普通	褐	有段口縁坏 無彩
15	土師器	坏	(11.0)	3.6	—	20	C・H・I・K	普通	橙褐	有段口縁坏 無彩
16	土師器	坏	11.3	3.2	—	65	C・H・I	普通	褐	貯穴 有段口縁坏
17	土師器	坏	—	3.2	—	25	C・G・H・I	良好	褐	№2(床+18)
18	土師器	坏	(12.0)	4.5	—	15	C・G・H・I	良好	明褐	有段口縁坏 無彩
19	土師器	坏	13.0	4.1	—	75	C・I	良好	暗褐	№8・12・13(床+4~16) 有段口縁坏
20	土師器	坏	(13.6)	4.1	—	50	C・H・I	良好	暗褐	有段口縁坏
21	土師器	坏	—	2.8	—	25	C・G・H・I	良好	明褐	
22	土師器	坏	(11.0)	3.7	—	25	C・G・H・I	良好	橙褐	貯穴+カマド袖 有段口縁坏 無彩
23	土師器	坏	(12.7)	5.5	—	30	C・G・H・I	良好	暗褐	№16(床+36) 口縁部に一部油煙が付着
24	須恵器	坏	(9.7)	3.3	—	35	G・I	良好	灰白	西毛産か 底部手持ちヘラケズリ
25	須恵器	坏蓋	(11.6)	2.3	—	20	G・I	良好	灰白	SJ56-24(坏身)と組み合う 西毛産か
26	須恵器	坏	(9.0)	4.4	(4.2)	35	I・K	良好	灰	№31(床+42) 坏H身 底部手持ちヘラケズリ 瀬西産
27	土師器	甕	(16.8)	7.0	—	25	C・G・H・I・K	良好	褐灰	№4(床+28) 口縁部に粘土組織み上げ痕有り
28	土師器	甕	(21.0)	6.4	—	20	C・G・H・I	良好	褐	№7(床+12)
29	土師器	甕	(19.7)	11.9	—	30	C・D・G・I	良好	淡褐	№9・29、カマド内(床+9)
30	土師器	甕	—	3.8	7.2	25	C・E・G・H・I	良好	淡褐	胎土砂粒子を多く含む ケズリ+ヘラナデ
31	土師器	甕	—	6.4	9.0	30	C・G・H・I・K	良好	淡褐	№10・20(床+6~40) 内面丁寧なヘラナデ
32	土師器	甕	—	6.7	9.5	20	C・G・H・I	良好	淡褐	№6(床+20) 内面丁寧なヘラナデ
33	土製品	羽口	長さ6.4cm	中心部内径1.0cm	中心部外径4.5cm	60.55g	胎土白色粒子多く含む			
34	土製品	羽口	長さ(9.4)cm	中心部内径1.9cm	中心部外径5.0~5.2cm	140.65g	胎土白色粒子・赤色粒子混入			
35	土製品	羽口	長さ2.7cm	幅2.1cm	厚さ1.1cm	4.62g	粘土質溶解物 ガラス質に薄化し、一部発泡する			
36	土製品	土縄	№1(床+33)	長さ6.2cm	最大径2.1cm	孔径0.4cm	残存率95%	21.59g		
37	土製品	土縄	長さ6.2cm	最大径2.5cm	孔径0.4cm	残存率100%	32.94g			
38	鉄製品	環状品	№30(床+17)	長さ6.8cm	幅4.7cm	環の幅0.4×0.5cm	用途不明			
39	鉄製品	鉄線	残長4.9cm	幅0.5cm	厚0.3cm	長頸鉄	開蓋被			
40	鉄製品	棒状品	残長1.8cm	幅0.7×0.2cm						
41	鉄製品	板状品	Pit1	破片	厚0.1cm					
42	鉄製品	板状品	破片	厚0.1cm						
43	石製品	丸玉	№32(床直)	長さ0.9cm	最大径1.0×1.0cm	厚さ1.0cm	孔径0.3cm	1.57g	滑石製	

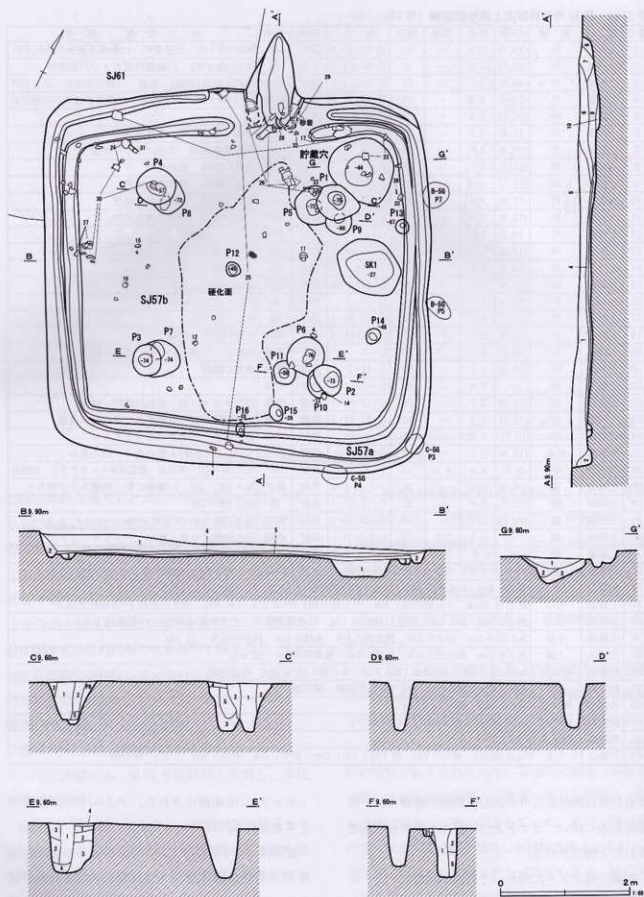
砂岩自体は内壁面以外の面も被熱痕が観察され、住居跡拡張に伴い、カマドを付け替えた際に再利用されたと推定される。

貯蔵穴はカマドに向かって右脇の北東コーナーに位置する。不整形で、規模は直径0.96～1.02m、深さ0.44mである。

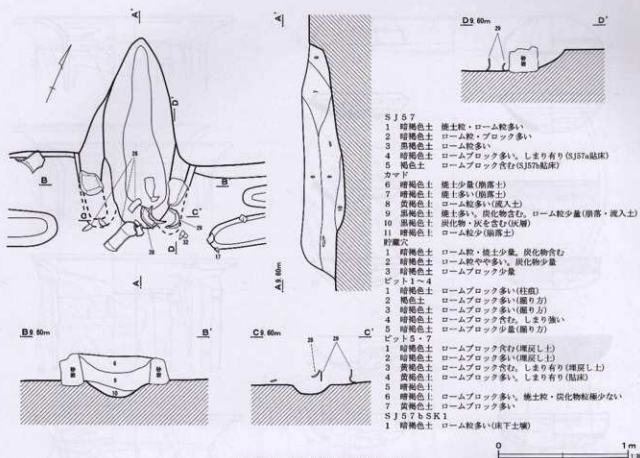
ピットは16本検出された。P1～P4が主柱穴と考えられる。

壁溝はカマドを除き全周する。深さ6～14cm。

第57号住居跡は57号住居跡の内側に入れ子状に入っている。規模は、長軸長5.52m、短軸長4.92mである。



第147图 第57号住居跡



第148図 第57号住居跡カマド

床面は残っていないため状況は不明である。カマドは削平されているが、第57 a号住居跡カマドと重なる位置に設置されたと考えられる。貯蔵穴も第57 a号住居跡のそれと共通するのであろう。

主柱穴はP1と重複するP5・P9、P2と重なるP6・P11、P3と重なるP7、P4と重なるP8が本住居跡の柱穴と思われる。

壁溝は全周する。深さは3～11 cm。

出土遺物は比較的多い。カマド周辺では床面、それ以外は覆土から出土したものが多く傾向にある。土師器環・甕・台付甕・壺、須恵器環・蓋、砥石、鉄製品、土玉、輪羽口がある (第149・150図)。

1・2は須恵器環H蓋である。1は東海産 (湖西) か。2はやや砂質の素地土で、薄いつくり。口縁と天井部の境に稜を持つ。第56号住居跡から出土した環H (第145図25) と酷似する。同一個体の可能性もあろう。産地は不明であるが、上野産と推定しておきたい。3は湖西産の環H身である。4は在

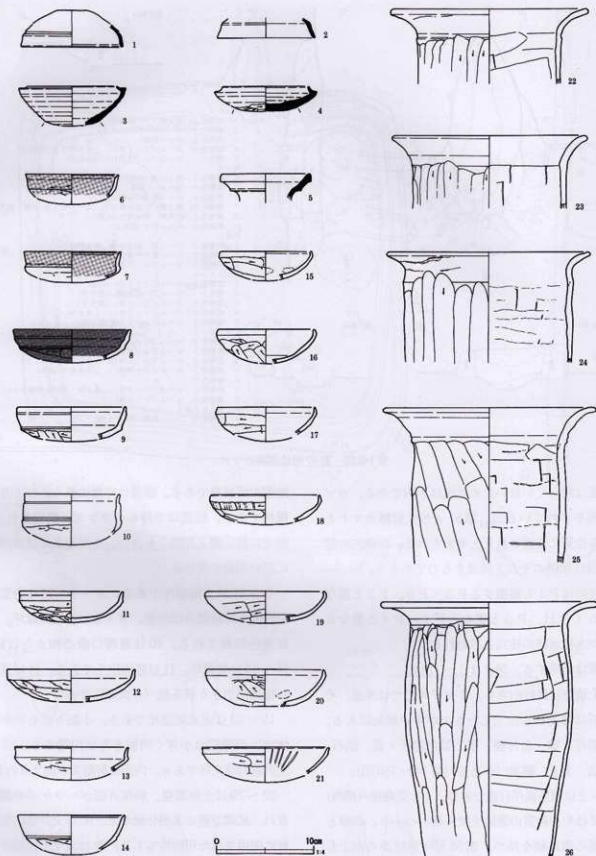
地産の環H身である。底部は非常に厚く、つくりは稚拙である。底部は手持ちヘラケズリ調整される。胎土に粗い礫と片岩?を含む。末野産または藤岡産に近い印象を受ける。

6～21は土師器環である。6・7は統比企型環で内面と口縁部外面赤彩。8・9は有段口縁環。8は黒色処理される。10は有段口縁の椀または鉢。11～14は模倣環。11は床面出土である。14は底部が極端に小さく異系統 (非武蔵) であろう。

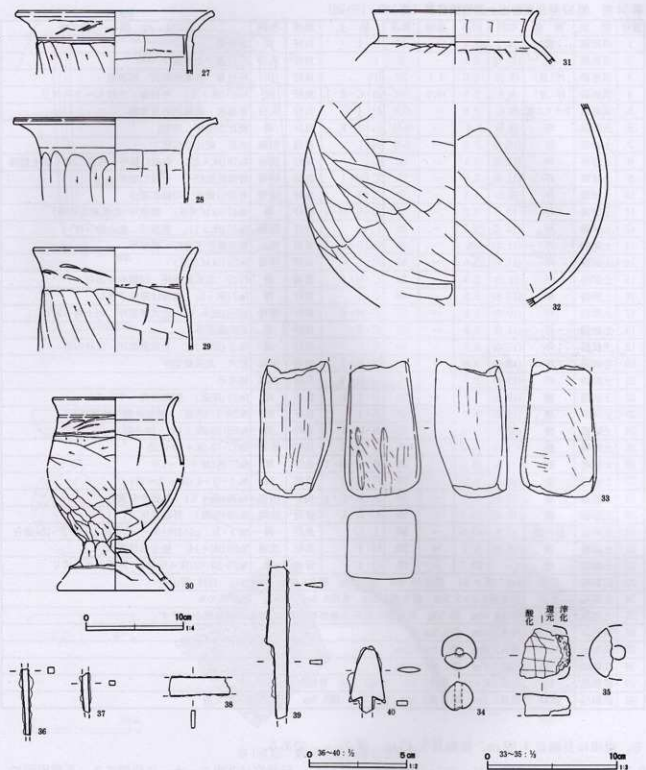
15～20は北武蔵型環である。小振りのものが主体で、口縁部は小さく内屈または内彎する。21は北武蔵型暗文環である。内面放射暗文が施文される。

22～29は土師器甕。胴部外面がヘラケズリ調整され、武蔵型甕の系譜に連なる。26は天井部の架構材に使用された可能性もある。29はカマド右袖の芯に使用された。30は小型台付甕である。31・32は壺。

33は砥石。四面が良く使用され、平滑。34は土玉、35は輪羽口である。36～40は鉄製品。39は鉄の可



第149图 第57号住居跡出土遺物(1)



第150図 第57号住居跡出土遺物(2)

能性がある。40は長三角形形式の鉄である。その他、図化した以外に粘土溶解物 94.60 g、椀形滓 181.98 g が出土している。

住居跡の時期は出土遺物の様相から7世紀後半(3/4期)頃と考えておきたい。

第58号住居跡(第151図)

第58号住居跡は調査区北端のC-3・4グリッドに位置する。重複遺構はなく、第59号住居跡の東に軸を描えて隣接する。

平面形は方形であるが、平行四辺形状に歪んでい

第54表 第57号住居跡出土遺物観察表 (第149・150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	須恵器	蓋	10.2	2.3	—	10	G・I	良好	灰	湖西産
2	須恵器	蓋	(10.0)	2.0	—	5	I	良好	灰白	坪H蓋 上野産?
3	須恵器	坏(身)	(9.2)	4.0	3.7	20	I	良好	灰	坪H身 外面に障灰 湖西産
4	須恵器	坏(身)	8.8	2.6	10.6	50	B・C・E・L	良好	灰	№20(床+6) 坪H身 手持ちヘラケズリ
5	須恵器	フラスコ類	(9.0)	2.8	—	小片	H・I	良好	灰白	東海産 淡緑色の自然釉
6	土師器	坏	(9.5)	2.4	—	小片	G・I・K	良好	褐	続比金型坏 赤彩
7	土師器	坏	(10.0)	2.8	—	小片	H・L	普通	明褐	赤彩 続比金型坏
8	土師器	坏	(12.0)	3.1	—	30	C	良好	液褐	№16(床+25) 有段口縁坏 沈線二条 黒色処理
9	土師器	坏	(11.0)	3.0	—	20	C・H・I	良好	明褐	雲母状微粒子 有段口縁坏
10	土師器	坏	(9.8)	4.1	—	20	C・I	良好	液褐	有段口縁坏 口縁部直立
11	土師器	坏	10.6	3.2	—	95	C・E・H・I	良好	褐	№41(ほぼ床直) 横紋坏(北武蔵型坏系)
12	土師器	坏	(13.2)	3.3	—	25	C・I	良好	橙褐	№12(床+11) 横紋坏 胎土粉っぽい
13	土師器	坏	(11.7)	2.5	—	20	C・D・H・I	普通	褐灰	雲母微粒子含む 横紋坏
14	土師器	坏	(11.0)	3.6	—	15	C・I	良好	明褐	№22(ほぼ床直)
15	土師器	坏	(9.2)	2.9	—	30	C・H・I	普通	褐	Pit5 北武蔵型坏 口縁やや歪む
16	土師器	坏	(19.8)	3.5	—	40	C・I	良好	褐	№7(床+5) 雲母状微粒子含む
17	土師器	坏	(10.0)	2.8	—	25	C・H・K	良好	橙褐	№84(床+3) 北武蔵型坏 胎土粉っぽい
18	土師器	坏	(11.0)	2.8	—	20	C・E	良好	褐	北武蔵型坏
19	土師器	坏	(12.0)	3.1	—	10	C	良好	褐	№9(床+11) 北武蔵型坏 口縁内屈
20	土師器	坏	(12.0)	3.8	—	20	C・H・I	普通	明褐	貯穴 北武蔵型坏
21	土師器	坏	(13.0)	2.7	—	5	C・H・I	良好	液褐	暗文坏
22	土師器	甕	(19.8)	7.7	—	20	D・I・L	良好	褐	№37(床面) 胴部外面ヘラケズリ
23	土師器	甕	(19.6)	7.4	—	20	B・I	良好	褐	№29・31(床直) 胴部外面ヘラケズリ
24	土師器	甕	(20.6)	11.4	—	30	B・H・I	良好	褐	№55・59(床+13) 接合痕
25	土師器	甕	(22.0)	16.0	—	45	C・D・I	良好	液褐	№17・70(床+10~22)
26	土師器	甕	(21.6)	26.2	—	30	B・C・H・I	良好	褐	№37他(床+1~13)
27	土師器	甕	(20.0)	6.5	—	25	C・H・I	良好	褐	№1・3・4(床+2~21)
28	土師器	甕	(20.8)	8.6	—	30	A・B・C・I	良好	橙褐	№76(床+5) 外面やや風化
29	土師器	甕	(16.6)	10.5	—	50	C・D・L	普通	液褐	№78(床直) 外面風化
30	土師器	台付罐	12.8	(19.8)	—	80	I・L	良好	褐	№1・5 pit4内(床-14)と床上(+12~18)接合
31	土師器	壺	(16.8)	5.4	—	30	H・I	良好	液褐	№56(床+14) 胎土肌目細かい
32	土師器	壺	—	20.7	—	60	C・I	普通	褐	№28・54・82(床+0~9) 外面ヘラケズリ
33	石製品	砥石	№27(床+5)	長さ10.4cm	幅5.8cm	厚さ5.7cm	463.31g	石材:安山岩		
34	土製品	土玉	最大径1.2×2.2cm	最大高2.2cm	孔径0.6cm	4.67g	残存率30%			
35	土製品	羽目	長さ3.8cm	20.50g	先端部には粘土溶解物が残る。体部外面は細かいナデ					
36	鉄製品	棒状品	残長3.4cm	幅0.3cm						
37	鉄製品	棒状品	残長2.0cm	幅0.3~0.2cm						
38	鉄製品	棒状品	残長3.1cm	幅1.0×0.2cm						
39	鉄製品	鉄	№26(床+5)	残長7.8cm	刃幅1.0cm	背幅0.2cm				
40	鉄製品	鉄線	残長3.2cm	線身長2.7cm	幅1.7cm	厚0.3cm	三角形線	両丸造		

る。規模は長軸長3.52m、短軸長3.42m、深さ0.27mである。主軸方位はN-26°-Wを指す。

床面はやや起伏がある。住居跡中央付近に大きく攪乱が入り、床面の状況は不明確である。覆土はローム混じりの暗褐色土を基調としていた。均質な土壌であったため、基本的には自然堆積と判断した。

カマドは検出されなかった。おそらく北壁に存在した可能性は高いが、攪乱によって破壊されたよう

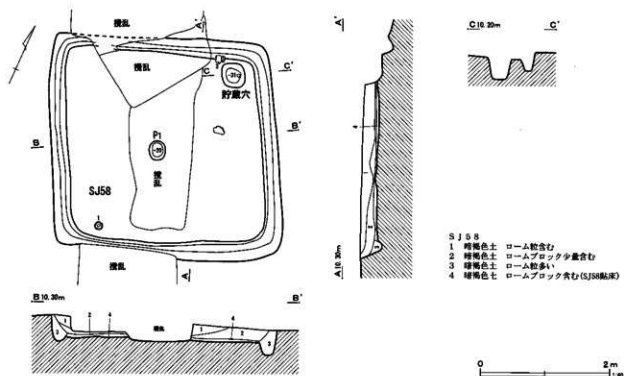
である。

貯蔵穴は北東コーナーに位置する。不整形円で、規模は直径35~36cm、深さ31cmである。

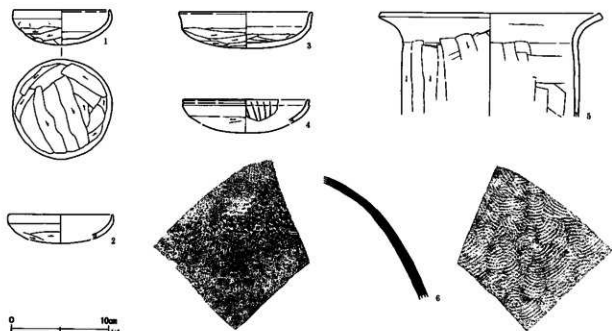
ピットは住居跡中央から1本検出されたが、住居跡よりも新しいものであり、主柱穴は存在しない。

壁溝は全周する。深さは7~22cm。

出土遺物は少ない。土師器坏・甕、須恵器甕がある(第152図)。1は南壁際のほぼ床面から出土し



第151図 第58号住居跡



第152図 第58号住居跡出土遺物

た北武蔵型環。丸底の深碗形態で、口縁部は小さく内彎する。3は北壁際の覆土から出土した。体部のヘラケズリで稜を作り出すタイプの模倣破片か。それにしても口径が13cm大と大きく、胎土に白色針状物質を多量に含むなど、違和感が大きい。4は北武蔵型暗文環で、内面放射射暗文が施文される。5は土

師器壁。攪乱内から出土したため、厳密には伴う保証はない。武蔵型で、胴部縦ヘラケズリ。6は須恵器大甕の肩部破片である。外面は明黄色～黒褐色の自然釉が厚くかかる。その下に平行カキ目が見える。内面はやや目の細かい同心円文当て具痕。器壁は薄めで黒色粒子が吹き出ている。大粒の石英粒や長石

第56表 第58号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(10.0)	3.6	—	95	C・H・I・K	良好	褐	No.3 (床+3) 雲母状微粒子を含む 北武蔵型坏
2	土師器	坏	(10.7)	2.5	—	15	C・E・I	良好	褐	SJ58攪乱, 北武蔵型坏
3	土師器	坏	13.4	3.7	—	85	C・G・H・I・J	良好	淡褐	No.1 (床+13) 底部内面不定方向のナデ
4	土師器	坏	(12.8)	2.5	—	10	C・E・H・I	良好	明褐	内面に放射暗文を施す 口縁不安定
5	土師器	壺	(22.4)	10.6	—	30	C・E・G・H・I	良好	褐	攪乱, 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ
6	須恵器	壺	—	—	—	10	D・G・I・K・L	良好	灰	攪乱, 外面平行引き接カキ目 内面同心円文当具

粒を若干含むが素地土は緻密である。産地は不明。東海産または上野産か。攪乱内出土である。

時期は1・4を基準に7世紀後半～末葉と推定しておきたい。

第59号住居跡 (第153図)

第59号住居跡は調査区北端のC-3・4、D-3グリッドに単独で位置する。東側約1.30mに第58号住居跡が隣接する。南壁部は大きく攪乱を受けており、遺存状態はあまり良くない。

平面形は方形である。規模は長軸長5.16m、短軸長5.10m、深さ0.18mである。主軸方位はN-25°-Wを指す。

床面は概ね平坦である。全体的には軟弱であったが、P4から北西コーナー部にかけての一角は硬く締まった硬化面が形成されていた。

確認段階で東壁部では床面が露出しており、また攪乱の影響も大きく受けており、埋没状況は不明確である。覆土は焼土粒子とローム粒子混じりの暗褐色土をベースとしていた。

カマドは検出されなかった。北壁中央部に焼土が少量分布していたため、カマドの可能性を想定して調査した(第1号土壌)が、カマドの痕跡は認められなかった。カマドは南壁部の攪乱部分に存在した可能性が最も高いであろう。北壁西部付近の床面が硬化していたことから、出入口部をここに想定して良いのであれば、それを傍証できるといえるのか。

貯蔵穴は検出されなかった。

ピットは7本検出された。P1～P4が主柱穴である。深さは60～82cmと深く掘り込まれている。

壁溝は全周する。深さは10cm以下である。

出土遺物は少ない。住居跡東半は床面が露出して

いたために遺物も残存しない。住居跡西部の床面または覆土下層から主に出土した。土師器坏・壺、須恵器高台坏・長頸瓶・壺、鉄製品がある(第154図)。

1～3は北武蔵型坏の小片である。3は攪乱部分から検出された。4は模倣坏か。覆土出土。5は須恵器高台坏(坏B)である。扁平な器形で底部は回転ヘラケズリ調整。精良な胎土で湖西産と考えられる。6は須恵器長頸瓶。頸部に浅い幅広の沈線が巡る。湖西産と推定される。7は須恵器甕胴部片。外面は格子叩き、内面同心円文当て具痕を残す。やや砂質で混和材の少ない胎土から東海産と推定しておきたい。8・9は土師器壺。10は角棒状鉄製品である。図示した以外に、製鉄系の炉内滓が110.30g出土している。

時期は7世紀末葉～8世紀初頭頃と推定しておきたい。

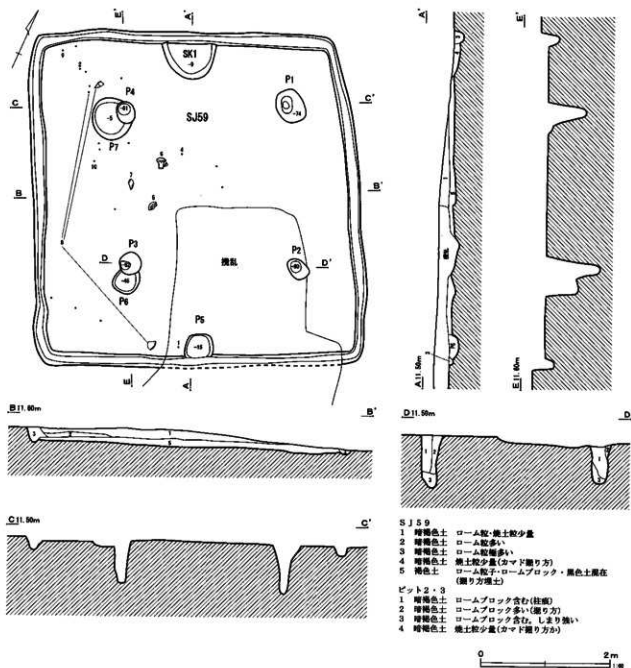
第60号住居跡 (第155～158図)

第60号住居跡はD-4・5グリッドに位置する。住居跡との重複はない。第62号土壌は本住居跡の覆土を切り込んで作られ、カマド煙道先端は第2号溝跡に切られていた。そのほか、住居跡中央部には床面に達しない攪乱が入っていた。

南東壁と北東壁には壁溝が二重に巡り、一度建て替え(拡張)られたことが判明した。建て替え前の住居跡を第60b号住居跡、建て替え後のそれを第60a号住居跡と呼称した。

第60a号住居跡は平面方形の大型住居跡である。規模は長軸長6.30m、短軸長6.15m、深さ0.62mである。主軸方位はN-36°-Wを指す。

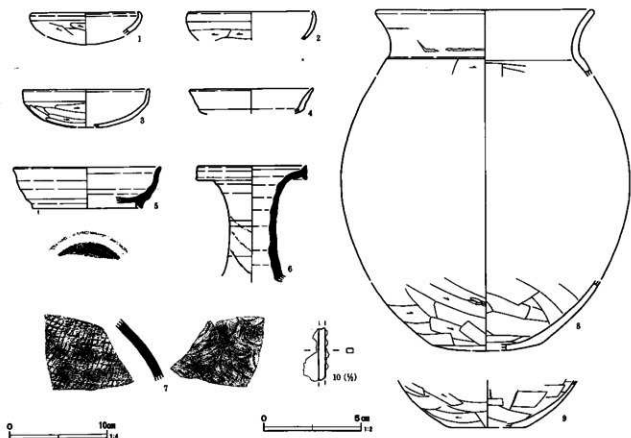
床面は概ね平坦である。カマド前面から住居跡中央部にかけては比較的硬いが、硬化したブロックが



第153図 第59号住居跡

第56表 第59号住居跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	杯	(11.0)	2.4	—	10	C・G・I・K	良好	褐	No.24 (床直) 北武蔵型杯 焼成堅緻
2	土師器	杯	(12.8)	2.9	—	10	C・H・I・K	良好	橙褐	No.3 (床直) 磨光顕著
3	土師器	杯	(12.9)	3.9	—	40	C・G・H・I	普通	明褐	攪乱。器面風化
4	土師器	杯	(12.6)	3.1	—	15	C・G・I	良好	褐	No.14 (床+11) 口径傾き不安定
5	須恵器	高台杯	(15.0)	4.3	11.3	30	G・I	良好	灰白	No.18 (床+7) 底部回転ヘラケズリ 貼り付け高台 湖西産
6	須恵器	フラスコ瓶	11.4	12.0	—	80	I	良好	灰	No.16 (床+4) 頸部に浅く幅広いの工具使用の痕跡 湖西産
7	須恵器	甕	—	—	—	10	G・I・K	良好	灰白	No.13 (床+13) 外面格子タタキ目 内面同心円文当て具
8	土師器	壺	(21.9)	—	(11.0)	25	A・D・G・H・I	良好	褐	No.6・7・25 (床直) 胴部下端ヘラケズリ 内面ヘラナデ
9	土師器	壺	—	4.9	(8.4)	25	C・G・H・I・K	良好	褐	No.2 (床直) 胴部外面被熱
10	鉄製品	棒状品	No.11 (床+5)	残長2.7cm	幅0.3×0.2cm					



第154図 第59号住居跡出土遺物

点々と連なる状況であり、硬化面が広がる状況ではなかった。壁際は全体に軟弱であった。

覆土は暗褐色土を基調としており、概ね自然堆積と思われるが、ところどころ焼土粒子や炭化物が集中する場所が見られた。おそらく人為的な埋め戻しや投棄行為が介在したと考えられる。

カマドは北西壁の中央付近に設けられていた。先端部は第2号溝跡に壊されていた。残存長は1.92 m、燃焼部は壁を20 cm程切り込んで構築されていた。燃焼部幅45 cm、底面は皿状に掘り込まれている。煙道部は一段高く、水平方向に延びている。

カマドの左右袖部には砂岩と土師器甕が芯材として使用され、その周囲を白色粘土で被覆していた。左袖には手前に土師器甕、奥に砂岩切石が2個、右袖には手前に土師器甕を縦位に2個体並べ、その奥に砂岩切石を2個並べられていた。土師器甕は逆位に設置されている。

また、焚口部から土師器甕が潰れた状態で出土し

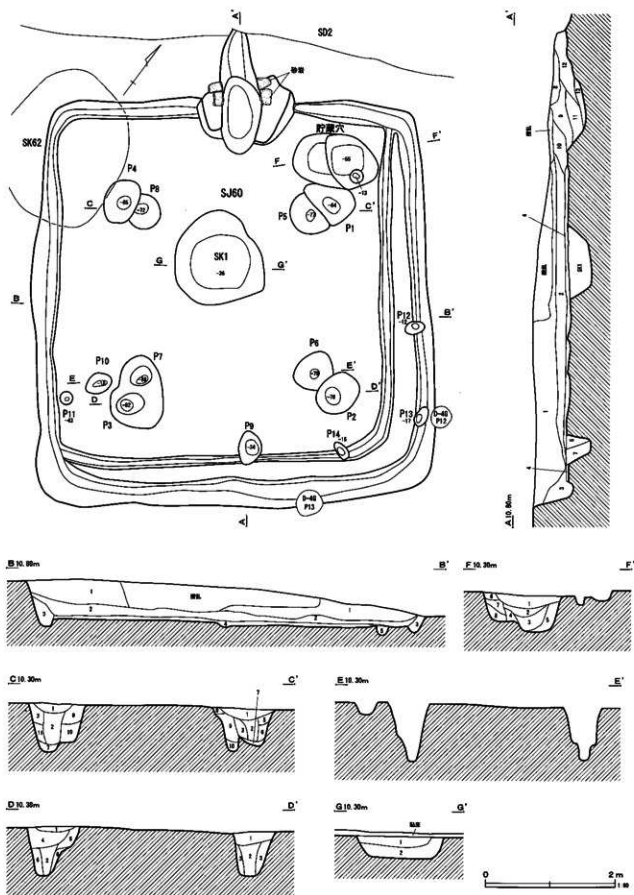
た。2個体あり、ソケット状に差し込んで天井部の架構材として使用されたと考えられる。

貯蔵穴はカマドに向かって右脇のコーナー内側に位置する。楕円形で長径1.32 m、短径0.84 m、深さ0.55 mであるが、断面観察により、二時期の重複を有することが判明した。住居跡の拡張に伴い、貯蔵穴も位置を僅かに北東方向にずらして掘り直したと考えられる。

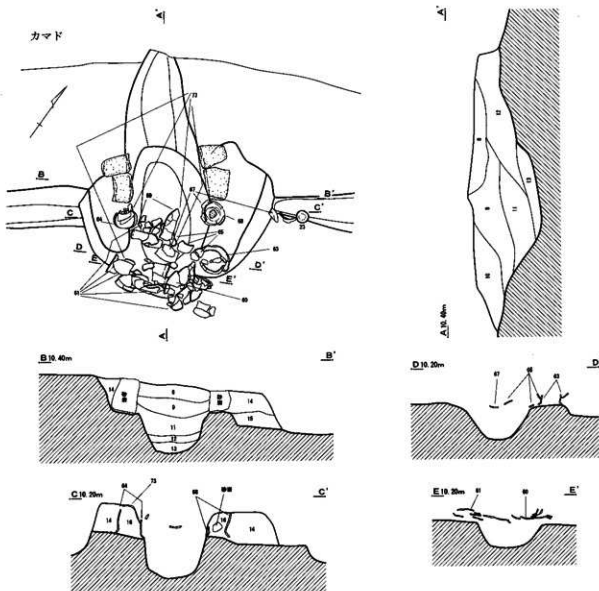
ピットは14本検出された。P1～P4が第60 a号住居跡の主柱穴と考えられる。第1号土壌は住居跡中央付近の床下から発見された。不整形円形で、規模は直径1.40～1.50 m、深さ0.36 mである。埋土中には焼土と炭化物、ロームブロックが多量に混在し、明らかな埋め戻し土であった。いわゆる床下土壌と考えられる。

壁溝は全周する。深さ7～15 cm。

第60 b号住居跡は平面方形形で、規模は長軸長5.67 m、短軸長5.57 mである。



第155図 第60号住居跡



SJ60

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。焼土粒多い
 - 2 暗褐色土 ローム粒多い。炭化物含む
 - 3 暗褐色土 ローム粒・ブロック多い。炭化物含む
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多い(炭灰)
 - 5 暗褐色土 ローム粒少量
 - 6 暗褐色土 ローム粒やや多い
 - 7 暗褐色土 ローム粒極多い
- カマド
- 8 暗褐色土 白色粘土多い。焼土少量(灰層土)
 - 9 暗褐色土 白色粘土やや多い。焼土多い(灰層土)
 - 10 暗褐色土 炭化物含む(灰層土)
 - 11 暗褐色土 焼土ブロック極多い。ロームブロック含む(灰層土)
 - 12 暗褐色土 ロームブロック含む(灰層土)
 - 13 暗褐色土 ローム粒少量(掘り方)
 - 14 暗褐色土 白色粘土多い
 - 15 暗褐色土 白色粘土含む。焼土少量
 - 16 白色土 粘土層(山形)粘性有り

SJ61

- 1 暗褐色土 ロームブロック極多い。焼土・炭化物含む(掘り方)
- 2 暗褐色土 ロームブロック多い(掘り方)

貯蔵穴

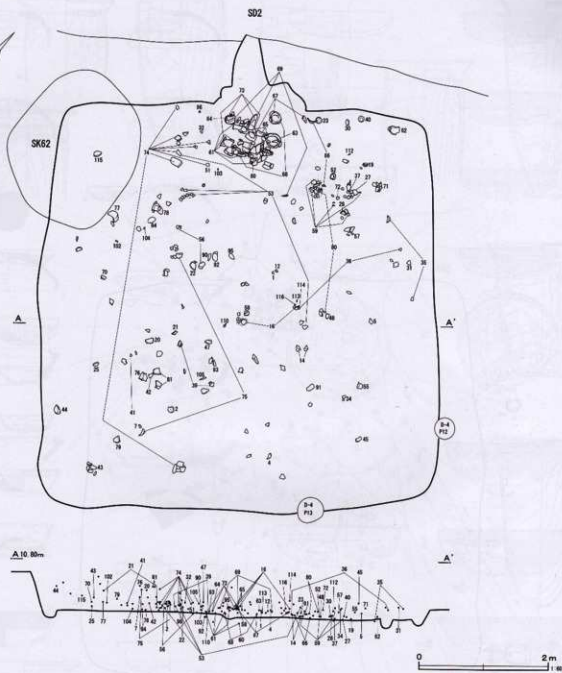
- 1 暗褐色土 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒多い。焼土粒少量
 - 3 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 4 暗褐色土 ローム粒極少ない
 - 5 暗褐色土 4層に似るがロームブロックを少量含む
 - 6 暗褐色土 ロームブロック多い。しまり有り(灰層)
 - 7 暗褐色土 ローム粒極多い。焼土粒・炭化物含む
 - 8 暗褐色土 ローム粒少量
- ビット1~5・8
- 1 暗褐色土 ローム極多い
 - 2 暗褐色土 ローム粒極少ない(掘り方)
 - 3 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多い(掘り方)
 - 4 暗褐色土 3に似るがロームブロック・ローム粒やや少ない
 - 5 暗褐色土 ローム粒少量
 - 6 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 7 暗褐色土 ロームブロック多い。しまり有り
 - 8 暗褐色土 ロームブロック多い(灰層)
 - 9 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多い
 - 10 暗褐色土 ローム粒多い
 - 11 暗褐色土 ローム粒極少ない

0 1 m

第156図 第60号住居跡カマド

床面は遺存せず様相は不明である。カマドは第60 a 号住居跡と同一地点に作られたと考えられる。

貯蔵穴も第60 a 号住居跡とほぼ同じ地点に作られたが、僅かに位置を変えていた。



第157図 第60号住居跡遺物出土状況 (I)

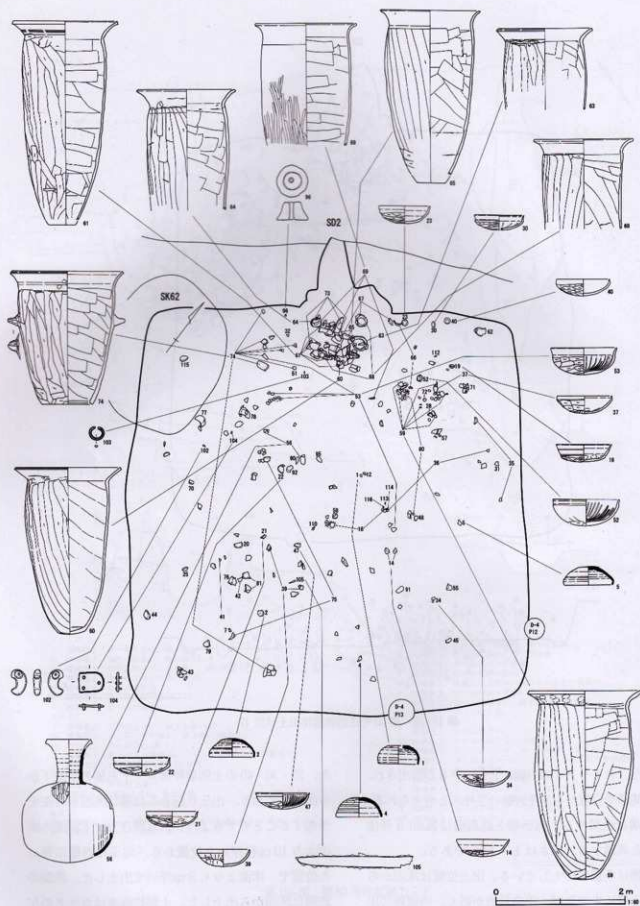
また、P1～P4の内側にP5～P8が検出され、重複関係や位置から本住居跡の主柱穴と考えられる。

壁溝は全周する。南西壁と北西壁は第60a号住居跡と共通する。深さは1～13cmである。

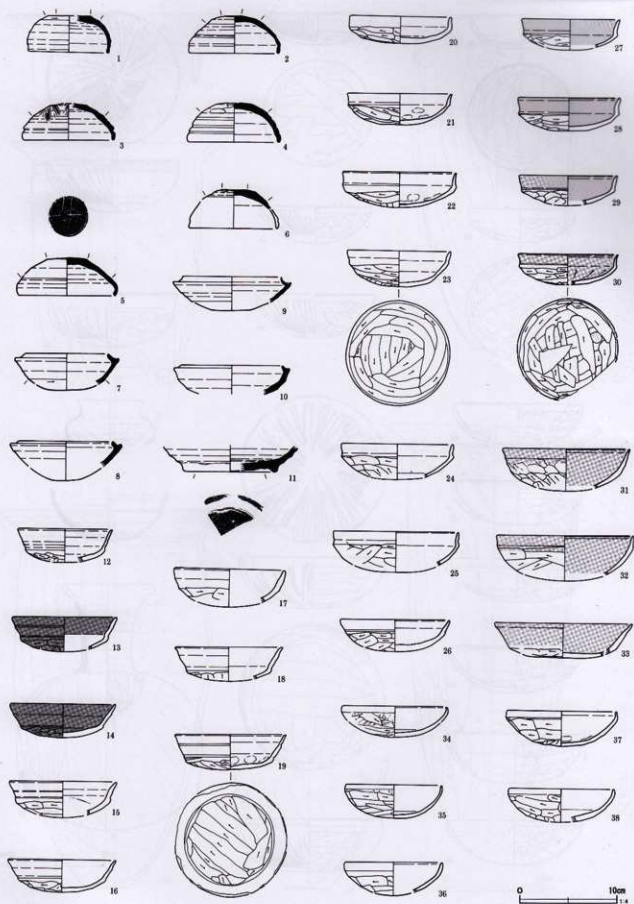
遺物は多量に出土している。出土位置は床面から覆土上層にまで及び、中央付近が低く、西壁周辺出土遺物の出土位置が高いことから、埋没過程で流入または投棄された遺物が多いことを示している。ま

た、23・30・40の土師器環はカマド右脇の壁直下から出土しており、出土状況からは棚状施設の存在を予想することもできようか。耳環はカマド前面の床面より10cm程浮いた位置から、勾玉は西壁に寄った位置で、床面よりも8cm浮いて出土した。鉄製の鉈尾は床面から出土した。土製紡錘車はカマドの左脇、床面から27cm浮いた位置から出土した。

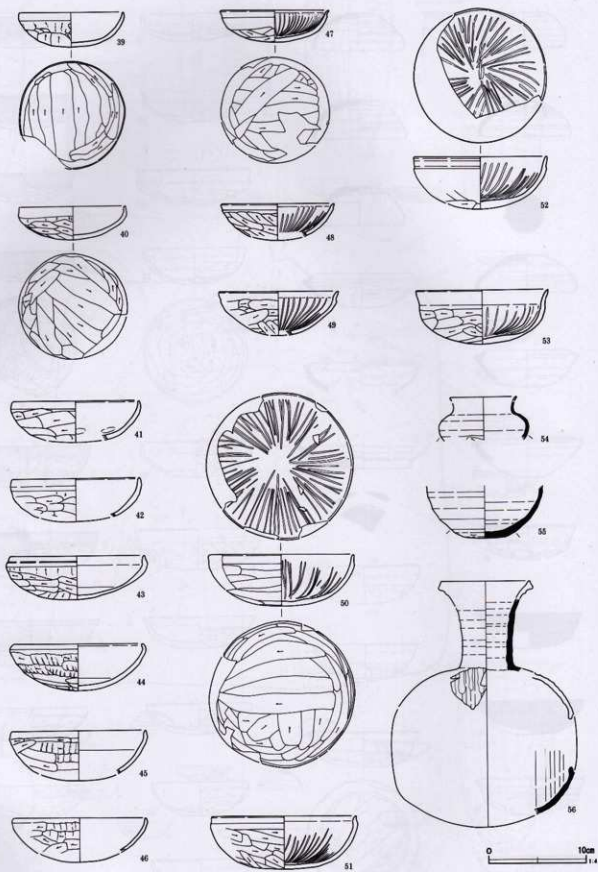
土師器環・甕・壺・甌・小型甕、須恵器環・蓋・



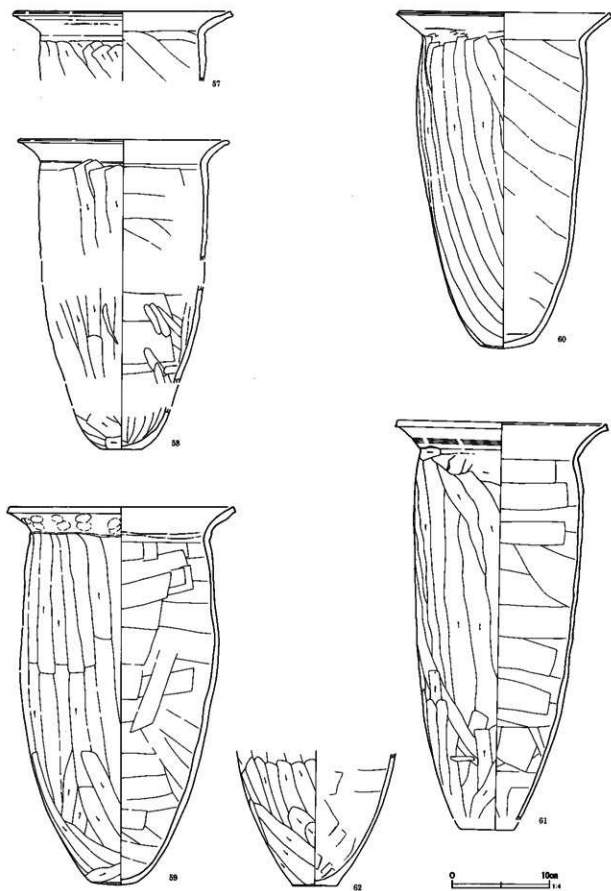
第158图 第60号住居跡遺物出土状況(2)



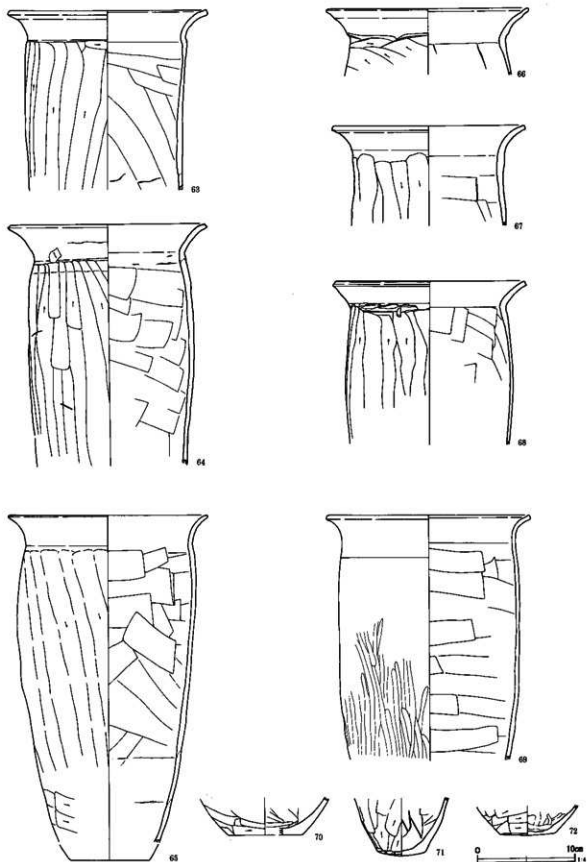
第159图 第60号住居跡出土遺物 (1)



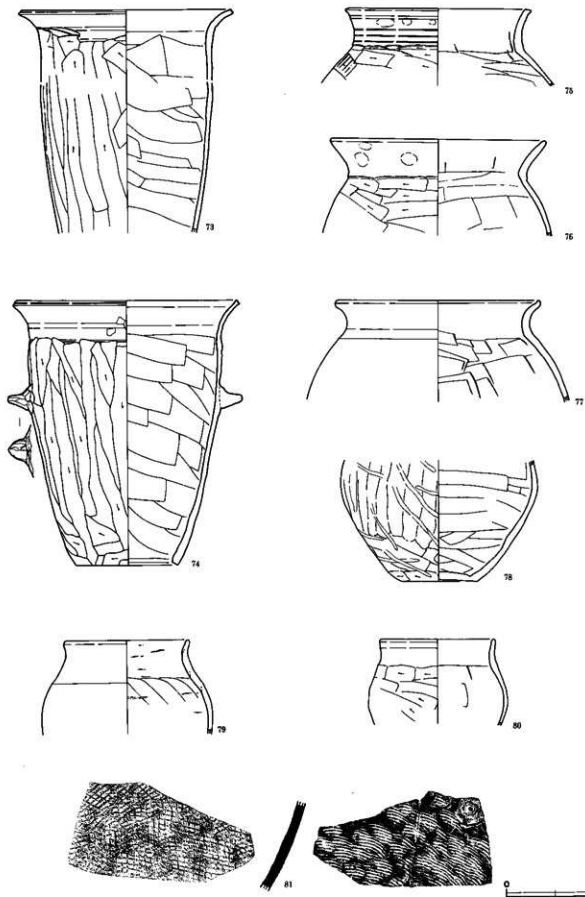
第160图 第60号住居跡出土遺物 (2)



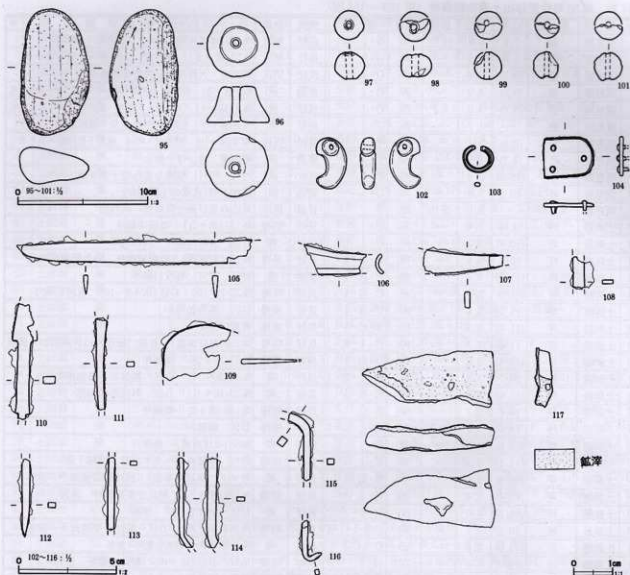
第161图 第60号住居跡出土遺物 (3)



第162图 第60号住居跡出土遺物(4)



第163图 第60号住居跡出土遺物 (5)



第165図 第60号住居跡出土遺物 (7)

小型壺・フラスコ瓶・長頸瓶・甕、籬羽口、砥石、石製紡錘車、勾玉、土玉、耳環、鉄製品、取瓶などがある(第159～165図)。

1～6は須恵器環H蓋である。いずれも湖西産と考えられる。3は二次的に刃傷状の擦痕(条線)が付く。砥石代わりに使用された可能性がある。3・4は同一個体かもしれない。5は天井部にヘラ記号がある。7～10は須恵器環H身である。8・9は湖西産。9は薄身でシャープなつくり。10は厚手で、胎土はやや粗い礫と白色粒子を多量に含む。産地は不明。在地産である。内面と外面にかけて自然釉が付着し、発泡する箇所もある。あるいはガラス化した鉄滓か。そうだとすると取瓶の可能性もある。11

は高台環(環B)で、湖西産と推定される。底部は出尻になるかどうかは不明だが、丸底風で回転ヘラケズリ。覆土出土。

12～19は土師器有段口縁環である。13・14は黒色処理される。20～26は模倣環である。20・23・24は体部ヘラケズリで口縁下の稜を表現している。26は口縁部下端に沈線を巡らす。27～30は統比企型の模倣環。口縁部外面と内面全面が赤彩される。31・32は統比企型環。同様に赤彩される。33は淡橙褐色で、粉っぽい胎土。口縁部は外反して大きく開く。底部手持ちヘラケズリで、内面と口縁部外面が赤彩される。口縁部の赤彩範囲は不明確である。落合型環と考えられる。34～46は北武蔵型環であ

第57表 第60号住居跡出土遺物観察表 (第159~165図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	須恵器	蓋	7.6	3.8	(4.0)	45	G・I・K	良好	明灰	№120(ほぼ床直) ロクロ右回転 湖西産
2	須恵器	蓋	9.0	3.9	—	90	G・K	良好	明灰	№72(床+6) 湖西産 天井部へう切り後ナデ
3	須恵器	蓋	(9.2)	3.8	—	20	G・I	良好	明灰	湖西産 天井部に2次の条線あり
4	須恵器	蓋	(9.2)	4.0	—	50	G・I	普通	灰	№38(床+4) 湖西産 天井部持ちヘラズリか 沈線2条
5	須恵器	蓋	(9.8)	3.9	4.2	70	G・I	良好	灰	№9(床+4) 天井部へう記号 湖西産 ロクロ左回転
6	須恵器	蓋	—	1.7	—	65	G・I	良好	灰	天井部ナデ 回転ヘラズリ 湖西産
7	須恵器	坏	(8.6)	3.1	—	20	I	良好	灰白	№73(床+19) 湖西産 坏H 体部下位回転ヘラズリ
8	須恵器	坏	(9.7)	2.7	—	10	I	普通	灰	湖西産 砂っぽい胎土
9	須恵器	坏	(10.2)	2.6	—	15	I・K	良好	灰	P1・5 坏H 堅緻な黒色粒子吹き出す
10	須恵器	坏	10.5	3.0	—	10	G・L	普通	灰	産地不明(武蔵or上野産か)
11	須恵器	高台坏	—	2.8	(9.0)	20	I	普通	灰白	見込み及び高台部磨減 湖西産
12	土師器	坏	(9.6)	3.4	—	30	C・I	良好	明褐	№121(床+3) 有段口縁坏
13	土師器	坏	(10.8)	3.3	—	30	C・I	良好	褐	D区 有段口縁坏 黒色処理
14	土師器	坏	10.8	3.5	—	75	A・C・I	良好	黒褐	№18・19(床直) 有段口縁坏 内外面黒色処理
15	土師器	坏	(11.0)	3.4	—	30	C・H・I	普通	橙	D区 野穴 有段口縁坏
16	土師器	坏	(11.0)	3.3	—	45	C・H・I	良好	淡褐	№22・25・150 D区(床+4~10) 有段口縁坏
17	土師器	坏	(11.3)	3.4	—	30	C・H・I	良好	淡褐	D区 黒色処理か
18	土師器	坏	(11.0)	3.3	—	20	E・H・I	良好	淡褐	有段口縁坏
19	土師器	坏	11.3	3.7	—	90	C・I・K	良好	明褐	№139(ほぼ床直) 有段口縁坏 口唇部細かく破損
20	土師器	坏	(10.4)	2.8	—	60	C・H・I	良好	橙褐	№57(床+28) 模倣坏
21	土師器	坏	10.7	3.2	—	95	A・C・E・I	良好	褐	№54(床+14) D区 模倣坏 器面風化
22	土師器	坏	(11.6)	3.7	—	75	C・H・I	良好	褐	№33(床+9) D区 外面器面剥落
23	土師器	坏	10.6	3.7	—	100	C・G	良好	橙褐	№146(床+6) 模倣坏
24	土師器	坏	11.4	3.2	—	55	B・C・G・I	良好	橙褐	D区 模倣坏
25	土師器	坏	(12.8)	3.5	—	25	C	良好	褐	№65(ほぼ床直) 模倣坏
26	土師器	坏	(11.1)	3.3	—	75	C・I	良好	淡褐	野穴 体部外面ヘラズリ 沈線1条
27	土師器	坏	(10.4)	3.0	—	35	E・H・I	良好	褐	カマド №127(床直) 鏡比企型模倣坏 赤彩
28	土師器	坏	(10.4)	3.4	—	50	H・I	良好	暗褐	№124(床+5) 鏡比企型模倣坏 赤彩
29	土師器	坏	(10.2)	3.0	—	30	H・I	良好	褐	D区 鏡比企型坏 赤彩
30	土師器	坏	10.2	3.1	—	80	E・H・I・J・K	良好	明褐	№144(床+20) D区 鏡比企型模倣坏 赤彩
31	土師器	坏	(13.0)	4.0	—	25	C・H・I	良好	褐	№5(床+16) 鏡比企型坏 赤彩
32	土師器	坏	(14.0)	4.0	—	20	H・I	良好	明褐	№107 D区(床+10) 鏡比企型坏 赤彩
33	土師器	坏	(14.0)	3.6	—	35	I	普通	淡橙	赤彩 肌目細かい胎土 落合型坏
34	土師器	坏	(10.7)	3.1	—	65	C・E	良好	褐	№12(床+8) 北武蔵型坏 底部黒斑あり
35	土師器	坏	9.8	3.5	—	90	C・I	良好	淡褐	№1・7(床+4~10) 北武蔵型坏
36	土師器	坏	(10.0)	3.1	—	30	C・I	良好	淡褐	№2 №14(床+3~11) 北武蔵型坏
37	土師器	坏	11.3	3.7	—	75	A・C・I・K	良好	褐	№128(床+3) 北武蔵型坏 雲母状微粒子目立つ
38	土師器	坏	(10.8)	3.4	—	30	C	良好	褐	SK62(床+13) 北武蔵型坏
39	土師器	坏	10.7	3.5	—	90	C・I・K	良好	淡褐	№45・53(ほぼ床直) 北武蔵型坏
40	土師器	坏	10.8	3.4	—	95	C・G	普通	橙褐	№143(床+10) 北武蔵型坏
41	土師器	坏	(13.0)	4.1	—	30	C・K	良好	橙褐	№67 D区(床+7) 北武蔵型坏
42	土師器	坏	(13.0)	3.9	—	20	H・I	普通	暗褐	№149(床+8) 北武蔵型坏
43	土師器	坏	13.9	4.5	—	50	A・I	良好	褐	№77(床+20) 雲母状微粒子目立つ
44	土師器	坏	(13.3)	4.8	—	55	C・E・I	良好	淡褐	№78(床+31) 北武蔵型坏
45	土師器	坏	(13.8)	4.4	—	25	C・I	良好	褐	№34(床+14) 北武蔵型坏
46	土師器	坏	(13.5)	3.6	—	35	C・E・I	良好	褐	北武蔵型坏 ノッキング痕あり
47	土師器	坏	11.1	3.3	—	70	C・I	良好	明褐	№46(床+10) 攪乱 D区 内面放射状暗文
48	土師器	坏	(11.8)	3.2	—	40	C・G・H・I	良好	淡褐	№10(床直) 内面放射状暗文
49	土師器	坏	(12.3)	4.5	—	20	C	良好	明褐	D区 内面放射状暗文
50	土師器	坏	14.8	5.3	—	85	C・I	良好	明褐	D区 放射状暗文 底部持ちヘラズリ
51	土師器	坏	(14.8)	5.4	—	25	C・H・I	良好	灰白	№110 D区(床+11) 内面放射状暗文
52	土師器	坏	(13.6)	5.4	—	60	C・I	良好	褐	№135(ほぼ床直) 放射状暗文 黒斑
53	土師器	坏	(13.5)	5.6	—	70	C・H・I	普通	淡褐	D区 №16・102・112・115(床+5~14)

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
54	須恵器	小型壺	—	3.9	—	10	B・I・K	良好	灰	産地不明 胴部手持ちヘラケズリ
55	須恵器	(長頸)瓶	—	5.4	4.4	30	I・K	良好	灰白	№11(床+4) 湖西産 底部回転ヘラケズリ
56	須恵器	フラスコ瓶	(9.0)	(25.3)	—	10	I・K	良好	灰白	№32-89(床+1~13) 湖西産 3片あり接合しない
57	土師器	甕	(22.0)	7.2	—	25	C・I・K	良好	褐	№6(床+7)
58	土師器	甕	(21.2)	31.9	(4.2)	10	E・G・H・I・J	良好	褐	№24(床+5) 白色針状物質多量に混入
59	土師器	甕	23.0	38.9	(4.5)	70	E・G・H	良好	灰褐	№122・125・127・130・133 貯穴(床直)
60	土師器	甕	21.4	34.6	5.5	80	C・E・G・H・I	良好	褐	№154 カマド(床+3)
61	土師器	甕	21.3	40.9	—	80	D・E・G・H・I・K	良好	褐	№153・154・155他(床+3~20)
62	土師器	甕	—	13.8	4.5	60	C・G・I	良好	褐	№142(床+9) 底部砂底 胴部ケズリ
63	土師器	甕	19.4	16.8	—	65	C・E・G・H・I	良好	灰褐	カマド№174(床+7) 右袖内
64	土師器	甕	20.0	24.9	—	80	C・G・H・I・L	良好	褐	№176 カマド(床直) 左袖内
65	土師器	甕	20.2	33.7	—	75	C・E・G・H・I	普通	褐	カマド№174 №170・171 D区(床+7) 胴部外面ナデ
66	土師器	甕	(20.6)	6.9	—	35	A・C・H・I・K	良好	褐	№134 №147(床直~+12)
67	土師器	甕	(19.6)	10.4	—	25	C・D・I	良好	褐	№148・168・175(床+6~9)
68	土師器	甕	20.2	19.5	—	60	C・E・G・H・L	良好	褐	№157・175 カマド(床+4) 右袖内
69	土師器	甕	(20.8)	25.3	—	20	C・E・H・I・K	良好	褐	№152・166・169 カマド(ほぼ床直) 胴部外面ナデ+ミガキ
70	土師器	甕	—	3.9	(7.5)	25	I	良好	黒褐	№61(床+10) 胴部下端~底部ヘラケズリ
71	土師器	甕	—	6.1	(5.0)	35	C・D・I・K	良好	暗褐	№137(床+18)
72	土師器	甕	—	3.1	5.6	40	C・H・I	良好	褐	№126(床+12) 内面指ナデ
73	土師器	甕	(21.4)	23.0	—	10	C・G・H・I	良好	灰褐	№155・166・170・176(ほぼ床直) 図上復元
74	土師器	甕	22.5	27.2	10.4	75	C・G・H・I・K	良好	褐	D区 №75・102・103・106・108・110(床+6~43)
75	土師器	壺	(18.2)	7.9	—	20	G・I	良好	褐	№74・86(床+12~29)
76	土師器	壺	(21.8)	9.9	—	20	C・D・G・I	良好	褐	№69(床+37) 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ
77	土師器	甕	(20.8)	10.5	—	25	E・G・H・I・J	普通	灰褐	№80・99(床+11) 胴部ナデ 白色針状物質含む
78	土師器	甕	—	12.5	7.4	60	C・D・G・I・L	普通	褐	D区 №94(床+6) 灰城西部域の壺 底部大きい
79	土師器	小型壺	(12.6)	9.7	—	20	C・D・E・I	良好	褐	№76 D区(床+13) 口縁部コソナデ 胴部ナデ
80	土師器	小型壺	(11.6)	8.9	—	45	C・G・H・I	普通	褐	№13・103(床+4~12) 表面風化により調整不明瞭
81	須恵器	大甕	—	—	—	—	I	良好	灰	№170(床+33~34) 外面指ナデ 内面同心文当て具
82	土製品	羽口	長さ11.5cm	中心部内径1.0cm	中心部外径4.5cm	胎土は白色粒子多く含む	517.74g			
83	土製品	羽口	長さ5.7cm	被熱により灰白色に還元	胎土はスサ・白色粒子を含む	37.10g				
84	土製品	羽口	長さ4.2cm	粘土質溶解物が酸化	胎土は赤色粒子の混入が多く含む	23.57g				
85	土製品	羽口	長さ4.0cm	先端部内径1.9cm	粘土質溶解物が酸化	胎土には白色粘土を多量に含む	30.25g			
86	土製品	羽口	長さ4.6cm	被熱により灰白色に還元	胎土は白色粒子・赤色粒子を含む	14.20g				
87	土製品	羽口	長さ3.0cm	幅1.9cm 厚さ1.2cm	粘土質溶解物	胎土にスサを多量に含む	2.96g			
88	石製品	皿	長さ4.0cm	幅2.7cm 厚さ0.9cm	12.62g	滑石製	表面中央部に3~4条の爪形の線刻が見られる			
89	石製品	砥石	長さ3.9cm	幅3.9cm 厚さ3.4cm	54.25g	石材:安山岩	正面に溝状の使用痕あり			
90	石製品	磨石	№23(床+4)	長さ12.3cm	幅4.2cm 厚さ2.6cm	223.91g	表裏面磨面 下部部敲打痕			砂岩
91	石製品	磨石	№36(床+2.5)	長さ11.3cm	幅5.4cm 厚さ4.5cm	192.6g	表裏面と両側面が磨面 特に裏面は良く使用			閃緑岩
92	石製品	磨石	№31(床直)	長さ11.4cm	幅6.0cm 厚さ4.0cm	468.11g	表裏面・両側縁と底面の一部磨面			砂岩
93	石製品	磨石	№49(床+4)	長さ10.0cm	幅8.5cm 厚さ5.5cm	515.37g	表面平直部及び側面磨面 上部部に敲打痕			砂岩
94	石製品	磨石	№93(床+5)	長さ12.6cm	幅9.7cm 厚さ3.9cm	632.48g	右側縁面取り 表裏面磨面 左側縁・下部部敲打痕			砂岩
95	石製品	磨石	№29(床+4)	長さ9.7cm	幅5.3cm 厚さ2.8cm	739.72g	表面・左側面を磨面			砂岩
96	土製品	鉢鉢車	№109(床+27)	長さ4.9cm	幅4.8cm 厚さ2.7cm	48.71g	孔の周辺にスレた痕跡			
97	土製品	土玉	最大径2.2×2.2cm	最大高2.1cm	残存率100%	孔径0.4~0.5cm	8.25g			
98	土製品	土玉	最大径(1.6×2.4)cm	最大高1.7cm	残存率60%	孔径0.5cm	6.05g			
99	土製品	土玉	Si60SKI	最大径(1.6×2.4)cm	最大高1.7cm	残存率60%	孔径0.5cm	4.05g		
100	土製品	土玉	最大径(0.9)×1.9cm	最大高2.1cm	残存率50%	孔径0.4cm	2.95g			
101	土製品	土玉	最大径(1.0×2.1)cm	最大高2.1cm	残存率50%	孔径0.4cm	3.47g			
102	石製品	勾玉	№62(床+8)	長さ2.6cm	幅0.9cm 厚さ0.7cm	4.86g	孔径0.3cm 石材:緑泥石 図の右から左に穿孔			
103	鉄製品	耳環	№111(床+10)	径1.4×1.6cm	環体0.3×0.2cm	1.55g	銅地 金・銀鍍金			
104	鉄製品	帯金具?	№92(床直)	鉤尾か						
105	鉄製品	刀子	№48(床+12)	現長11.8cm	刃幅1.1cm	背幅0.2cm				
106	鉄製品	不明品	現長3.2cm	幅1.4cm	厚0.1cm					

番号	種別	器種	備考
107	鉄製品	不明品	現長4.1cm 幅1.1~0.6cm×0.3cm
108	鉄製品	不明品	現長1.7cm 幅0.6×0.2cm
109	鉄製品	板状品	現長3.0cm 幅2.9cm 厚0.2cm
110	鉄製品	鉄鏃	№55(床+46) 現長5.9cm 幅0.6×0.3cm 長頸三角形鏃 開闔披
111	鉄製品	棒状品	現長4.7cm 幅0.3×0.2cm
112	鉄製品	鏃?	№140(床+13) 現長3.9cm 幅0.4×0.3cm
113	鉄製品	棒状品	№20(床+3) 現長3.7cm 幅0.3×0.2cm
114	鉄製品	棒状品	№21(床+21) 現長4.5cm 幅0.4×0.2cm
115	鉄製品	棒状品	№100(床+18) 現長3.4cm 幅0.4×0.3cm
116	鉄製品	釘	№151(床+6) 現長2.1cm 幅0.3cm
117		取瓶?	土師器の底部を二次利用したか 図上の上部と側面の一部が発泡している

る。小振りのものと大振りのものがある。口縁部は小さく内彎気味に収めるものが主体を占める。47~52は北武蔵型暗文環である。内面に放射暗文が施文される。53は内面放射暗文が施文されるが、器形が異なる。異系統であろうか。54は須恵器小型壺。胎土は精良。産地は不明確であるが、湖西産か。55は長頸瓶底部であろう。56はフラスコ瓶で、頸部と胴部片が3片あり、接合しない。湖西産。

57~73は土師器壺である。63・68はカマド右袖の芯材、64はカマド左袖の芯材として使用された。60・61は天井部の架梁材として使用されたものである。

57~64・66~68は武蔵型長頸壺と考えられる。58は胎土に白色針状物質が含まれ、他の武蔵型壺と胎土が異なる。比企地方で製作されたものと考えられる。59はカマド東側の床面付近に潰れた状態で出土した。砲弾形の壺である。57・59~61・64・68は口唇部に鋭い面を作る。61は最も器高が高いもので、40cmを超える。65は器面が荒れているが、胴部ヘラナデ、下位は一部ヘラケズリと思われる。69は胴部ナデ後、ヘラミガキが加わる。内面は指頭によるナデ後、軽いヘラナデが施される。いずれも胎土・調整が類似する。東関東系であろうか。70はケズリ壺であるが、底径が大きく違和感がある。

74は瓶。胴部に把手が付く。75~77は壺。77は胴部ナデ調整。口唇部は上方に摘み上げられる。胎土に砂粒と白色針状物質が入る。南比企産か。78は丸胴形の壺。胴部ヘラナデと弱いヘラケズリ。一

部ヘラミガキも加わる。東関東系（常陸西部域か）の壺であろう。

79は小型壺、80は小型甕。胴部ナデ調整。東関東系であろう。81は須恵器甕。外面格子叩き、内面同心円文当て具。第59号住居跡に同一個体と思われる破片がある（第154図7）。東海産か。

82~87は轆轤口の破片。88は滑石製の垂飾。両面穿孔される。縄文時代の所産であろう。89は砥石。

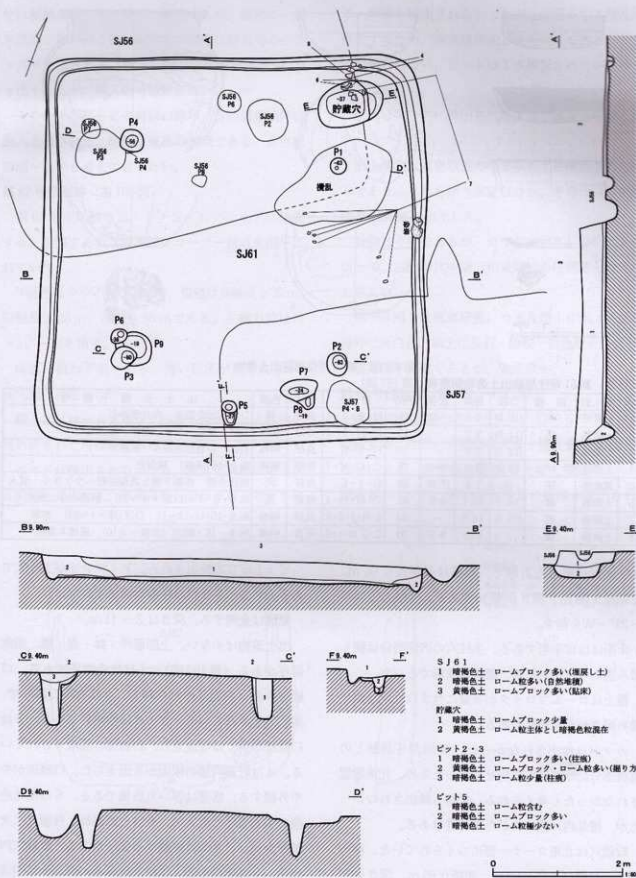
90~95は磨石か。96は土製紡錘車。97~101は土玉。102は勾玉。石材は緑泥石。103は耳環。銅の地金に金銀メッキが施される。金と銀の構成比は約2:8の比率となり、銀が主体である。104~116は鉄製品。104は帯金具蛇尾か。3ヶ所留金具が付いている。105は刀子。残存長11.8cm。110は長頸開闔披長三角形鏃である。112は鏃または鏃・釘の先端か。116は釘であろう。117は土師器環類の底部片と思われる。内面と側縁の一部に藍滓が付着する。緑青と思われる緑色の物質が点々と見られることからおそらく銅滓と思われる。取瓶に転用されたと考えられる。

図化以外に碗形滓が1675.68g、轆轤口が53.74g、羽口先端部に由来する粘土溶解物が185.43g出土した。

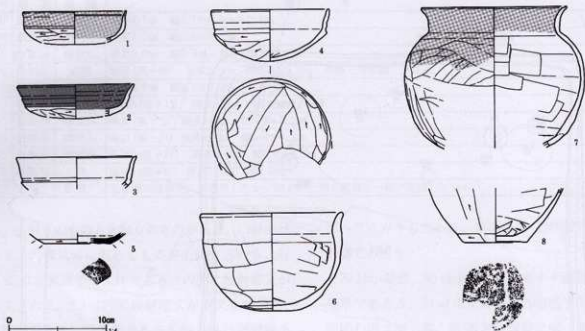
時期は7世紀後半代が中心である。

第61号住居跡（第166図）

第61号住居跡はB・C-4グリッドに位置する。第56号住居跡、第57号住居跡に切られているが、床面は遺存するため、規模は確定できる。また、住居跡東側に第53号土壌が隣接する。



第166図 第61号住居跡



第167図 第61号住居跡出土遺物
(第167図)

第58表 第61号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(10.5)	3.2	—	10	H・I・J・L	良好	褐	D区 比企型坏 内外面赤彩
2	土師器	坏	(11.9)	3.2	—	15	C・H・I・J	良好	明褐	D区 攪乱 有段口縁坏 黒色処理
3	土師器	坏	(12.3)	3.3	—	10	H・I・K	良好	明褐	D区 口唇部面取り 模倣坏
4	土師器	坏	12.2	5.3	—	75	C・G・H・I	良好	明褐	Na.3・16(床直) 模倣坏
5	須恵器	坏	—	1.1	(7.0)	20	G・I・K	良好	灰	南比企産 体部下端と底部回転ヘラケズリ 混入
6	土師器	鉢	14.3	10.1	6.5	65	C・G・H・I	普通	褐	Na.5・6・7・9(床+4~13) 器面全体に風化
7	土師器	壺	(15.0)	14.5	—	30	E・H・I・J・K	良好	明褐	Na.8・10・11・13~15 D区(床+1~23) 赤彩
8	土師器	甕	—	5.3	6.7	70	C・G・H・I・K	不良	明褐	Na.4・16・貯穴(床直~+10) 底部木葉痕

平面形は整った方形で、規模は長軸長6.06 m、短軸長5.94 m、深さ0.48 mである。主軸方位はN-21°-Wを指す。

床面はほぼ平坦である。主柱穴の内側部分は硬く踏み固められていたが、壁際は軟弱であった。

覆土はロームブロックが多量に含まれ、人為的に埋め戻された可能性がある。

カマドは検出されなかった。第56号住居跡との重複部分には痕跡も見出せなかったため、元来設置されなかったと考えられる。炉跡も検出されなかったが、攪乱内に設けられた可能性はある。

貯蔵穴は北東コーナー部につくられていた。楕円形で、規模は長径1.02 m、短径0.65 m、深さ0.37 mである。底面は二段に掘り込まれ、土師器鉢と壺の破片が出土した。

ピットは9本検出された。P1~P4が主柱穴である。P2・P3では柱痕が確認された。

壁溝は全周する。深さは2~11 cm。

出土遺物は少ない。土師器坏・鉢・壺・甕、須恵器坏がある(第167図)。1は比企型坏である。口縁部外面と内面は赤彩される。2は有段口縁坏で、黒色処理されている。3・4は模倣坏である。3は口縁部が長くほぼ直立し、口唇部は面取りされている。4は貯蔵穴脇の床面から出土した。口縁部がやや外傾する。底部は深い丸底風である。5は南比企産の須恵器坏で混入品。6は土師器鉢。外面は二次被熱を受け、器面は剥離する箇所がある。貯蔵穴内出土。7は土師器壺。口縁部内面と口縁部から胴部上位の外面は赤彩される。比企型の壺である。8は土師器甕で、胴部は膨らみをもつ。底部から胴部下

位は被熱が著しく、器面が剥落するが、底部に一部木葉痕と思われる痕跡を残す。胴部は縦方向のヘラケズリと思われる。図示した以外に橢円形が32.34 g出土したが、混入の可能性が高い。

1の比企型環と2の有段口縁環、5の須恵器環は混入と目される。時期は鬼高期初頭である。6世紀初頭～前半と考えておきたい。

第62号住居跡 (第168図)

第62号住居跡はE・F-5・6グリッドに位置する。重複する第3号溝跡にコーナー付近を削平されていた。

平面形はやや不整な方形で、規模は長軸長3.79 m、短軸長3.28 m、深さ0.50 mである。主軸方位はN-10°-Wを指す。

床面は概ね平坦である。薄い貼床が見られるが、硬化面は存在しない。

覆土にはロームブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻された可能性がある。

カマドは検出されなかった。第3号溝跡に壊された痕跡も見出せず、本来存在しなかったと考えられ

る。炉跡も検出されなかったが、床面を切る攪乱が存在するため、本来は存在した可能性もある。

貯蔵穴はない。ピットは1本検出されたが、伴うものではない。

壁溝は部分的に検出された。深さは1～8 cmと浅い。

出土遺物は須恵器蓋のつまみが1点検出されたのみである。これも伴う保証はない。その他には橢円形が134.36 g出土した。

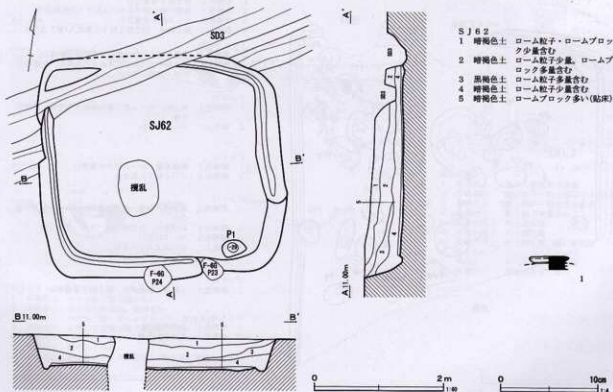
時期は不明であるが、カマドが存在しないことによって、古墳時代中期(和泉期)の住居跡と考えておきたい。

第168図1は須恵器蓋。つまみ径4.0 cm。焼成は良好で灰白色。胎土に長石・砂粒・白色粒子を含む。

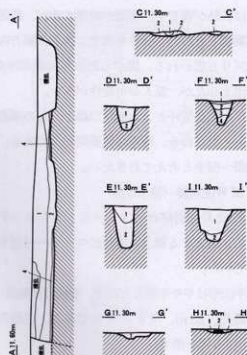
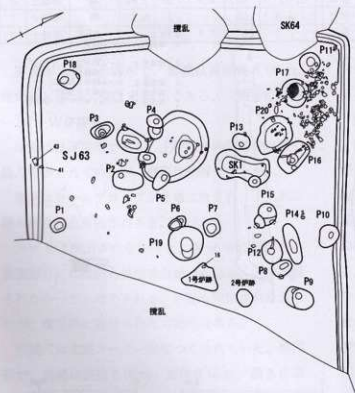
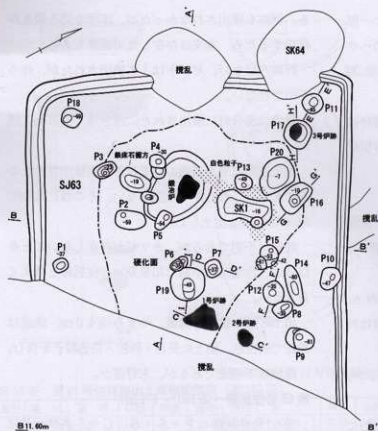
産地は不明確であるが、末野産か。

第63号住居跡 (第169～171図)

第63号住居跡はF-5・6、G-5グリッドに位置する。住居跡東壁部は大きく攪乱を受け遺存しない。また、西壁部は第64号土壌と攪乱によって破壊されていた。鍛冶炉と多量の鉄滓が検出され、



第168図 第62号住居跡・出土遺物



SJ63

- 1 暗褐色土 焼土粒子多量含む
- 2 暗褐色土 多量の焼土粒子とローム粒子・炭化物含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量含む
- 4 褐色土 焼土粒子・白色粘土粒子少量混入(細り方埋土)

1・2号炉跡

- 1 黒褐色土 多量の焼土と炭化物粒子含む炭化物含む
- 2 赤褐色土 粘土板状。表面は床面よりも高い。白色粘土が強く被覆したもの

ビット7

- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒子やや多。鉄屑を含む
- 2 褐色土 ローム粒含む

ビット11

- 1 暗褐色土 鉄屑多量、ローム粒子少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量含む

ビット12

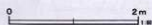
- 1 黒褐色土 鍛造剥片多量、鉄屑少量含む、ローム粒子少量含む
- 2 暗褐色土 鉄屑含む、炭化物・ローム粒・焼土含む
- 3 暗褐色土 ローム粒含む
- 4 褐色土 ロームブロック含む

ビット16

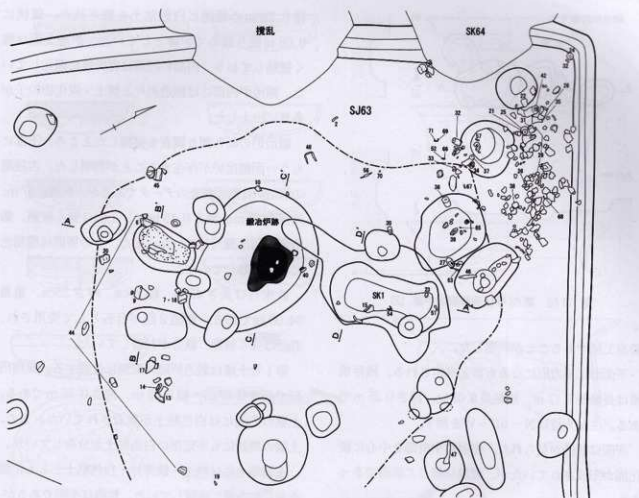
- 1 黒褐色土 小鉄屑・鍛造剥片、焼土粒子多量含む

ビット19

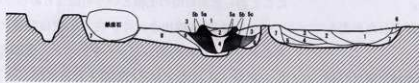
- 1 黒褐色土 鉄屑多量含む
- 2 黒褐色土 鍛造剥片多量



第169図 第63号住居跡

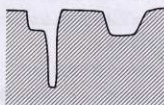


A 11.30m



A'

B 11.30m



B'

C 11.30m



C'

D 11.30m



D'

SJ63 SK1

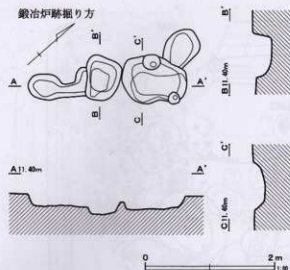
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土少ない
- 2 暗褐色土 白色粘土粒含む、鉄滓含む
- 3 暗褐色土 白色粘土粒・ロームブロック、鉄滓含む
- 4 黒褐色土 少量の白色粘土粒と鍛造剥片含む
- 5 黒褐色土 白色粘ロームブロック多量
- 6 黒褐色土 鍛造剥片多量
- 7 白色粘土 ロームブロックが混じる(掘り方に充填される)

鍛冶炉跡

- 1 暗褐色土 焼土・鍛造剥片多量
- 2 暗褐色土 焼土粒子・粘土ブロック含む
- 3 黒褐色土 焼土粒子・鍛造剥片多量
- 4 暗褐色土 焼土粒子少量含む
- 5a 青灰色粘土 粘土還元層
- 5b 赤褐色粘土 粘土酸化層
- 5c 硬褐色粘土 粘土酸化層、弱い被熱層
- 6 黄白色粘土
- 7 褐色土 ロームブロック含む
- 8 黒褐色土 鍛造剥片多く含む

0 1m 1:30

第170図 第63号住居跡鍛冶炉跡(1)



第171図 第63号住居跡鍛冶炉跡(2)

鍛冶工房であることが判明した。

平面形は長方形になるものと推定される。残存規模は長軸長5.17 m、短軸長5.01 m、深さ0.25 mである。主軸方位はN-61°-Wを指す。

床面は凹凸が見られた。住居跡中央部を中心に硬化面が形成されていたが、壁際は総じて軟弱であった。

覆土中には多量の焼土粒子と炭化物粒子が含まれていた。概ね自然堆積と推定される。

カマドは検出されなかった。本来存在したか否かも不明である。

炉跡は3箇所検出された。第1号炉跡と第2号炉跡は攪乱層にあり、床面に敷いた粘土が被熱していたものである。鍛冶の工程に伴うと予想されるが、具体的な性格は不明である。第3号炉跡は北西コーナー内側にあり、浅い掘込みを伴う(P 17)。

鍛冶炉は住居跡中央から北壁に寄った位置に設けられていた。鍛冶炉の西側約45 cmに鉄床石が据え置かれ、鍛冶炉の東30 cmには白色粘土を貼った不整形円形の土壌が掘り込まれていた。鉄床石と鍛冶炉、土壌は直線上に並んでいる。

鍛冶炉は長径1.20 m、短径0.88 m、深さ0.24 mの楕円形土壌を埋め戻してつくられていた(掘り方)。鍛冶炉の平面形は不整形円形で、長径0.45 m、短

径0.28 mの範囲に白色粘土を敷き詰め、皿状に0.08 m掘り窪めて炉跡としていた。炉跡上面は強く被熱しており、内面の凹部は青灰色に還元していた。鍛冶炉内部には鍛造剥片と焼土・炭化物粒子が多量に出土した。

鍛冶炉の断ち割り調査を実施したところ、下部にもう一面鍛冶炉が存在することが判明した。古段階の鍛冶炉は断面調査のデータであるが、長径0.57 m、短径0.50 m、深さ0.15 mで、上面は強く被熱、鍛冶炉内面は還元していた。また、その周囲は橙褐色に弱く被熱していた。

鉄床石は長さ45 cm、幅26 cm、厚さ25 cm、重量34.08 kgである。側面2面が台石として使用され、表面は強く被熱、鉄分が付着していた。

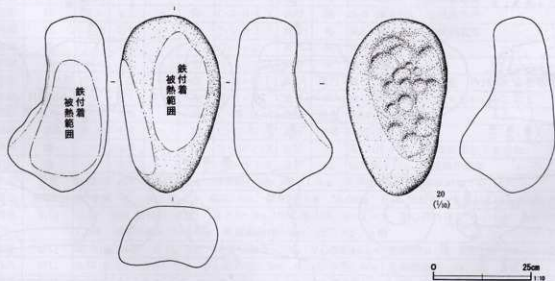
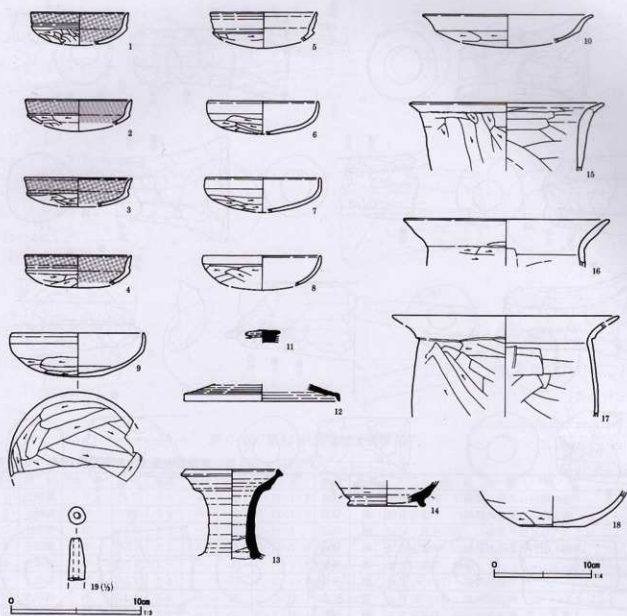
第1号土壌は鍛冶炉跡の東側に位置する。長楕円形で長さ0.87 m、幅0.48 m、深さ0.35 mである。土壌の内面には白色粘土が敷設されていた。また、土壌の周囲にも不定形に白色粘土が分布していた。

土壌埋土には焼土・鉄滓片・白色粘土とともに鍛造剥片が多量に堆積していた。性格は不明であるが、粘土貼りであること、底面に鍛造剥片が堆積していたことから水溜め用の土壌という可能性もあろうか。

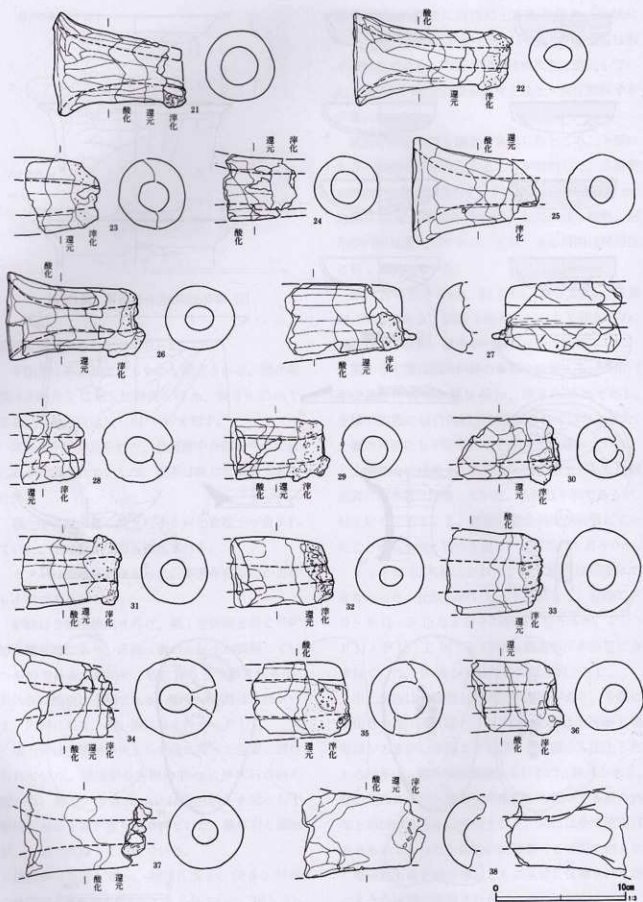
ピットは20本検出された。柱穴配置は明確にできなかった。比較的深いピットを拾うと、壁際のP 9・P 11・P 18などがその候補となろうか。P 7・P 11・P 12・P 16・P 19には鍛造剥片が多量に含まれていた。P 16からは鉄製の鋸が出土した。

出土遺物は土器類と鍛冶関係遺物があり、多量に検出された(第172～178図)。土器は土師器と須恵器があるが、床面よりも浮いた位置から出土したものが多く、鍛冶関係遺物は主に羽口と鉄滓がある。特に北西コーナー部周辺の床面から極めて多量の鉄滓と羽口がまとまって出土した。羽口は全て使用済みのものであった。鍛冶炉に装着して使用に耐えなくなったものを鍛冶滓とともに乱雑に投棄されたかのような状態が観察された。

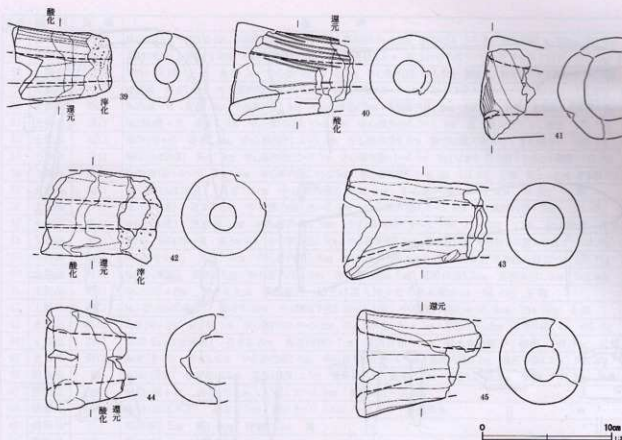
第172図1～4は統比企型の模倣坏である。5は



第172图 第63号住居跡出土遺物 (1)



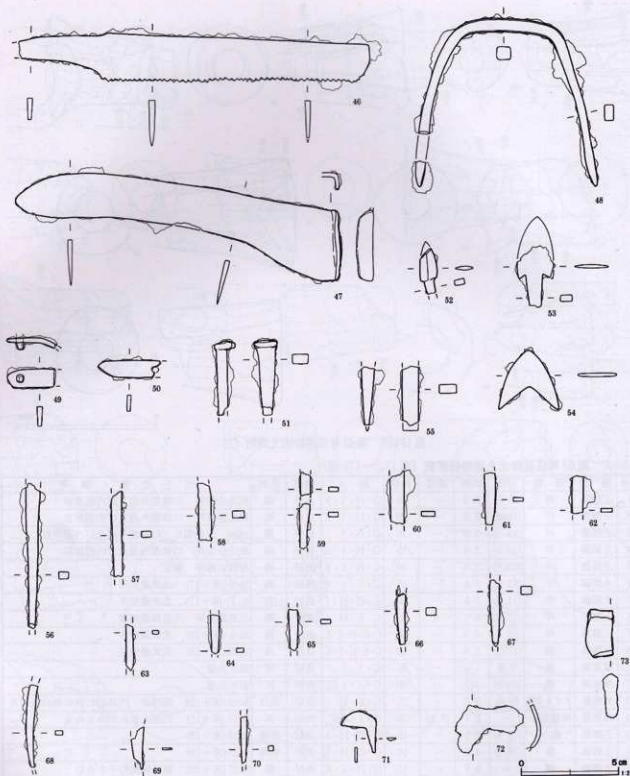
第173図 第63号住居跡出土遺物(2)



第174図 第63号住居跡出土遺物(3)

第59表 第63号住居跡出土遺物観察表(第172~175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(9.9)	3.3	—	25	G・H・I・K	良好	褐	続比金型坏 口縁部外面及び内面赤彩
2	土師器	坏	(10.8)	2.6	—	20	G・H・I・K	良好	褐	続比金型坏 口縁部外面及び内面赤彩
3	土師器	坏	(11.0)	3.0	—	10	G・H・I	良好	褐	SK64 比金型坏 口縁部外面及び内面赤彩
4	土師器	坏	(10.8)	3.0	—	15	G・H・I・K	良好	褐	続比金型坏 口縁部外面及び内面赤彩
5	土師器	坏	(10.8)	2.9	—	30	C・H・I・K	良好	褐	有段口縁坏 無彩
6	土師器	坏	(11.2)	3.4	—	35	C・G・H・I・K	良好	褐	No.2(床+17) 北武蔵型坏
7	土師器	坏	(11.6)	3.6	—	25	C・G・H・I	良好	褐	No.7(床+17) 北武蔵型坏
8	土師器	坏	(12.0)	3.1	—	45	C・E・H・I	良好	褐	北武蔵型坏 内面摩擦顯著
9	土師器	坏	13.5	4.5	—	50	C・G・H・I・K	良好	褐	No.4(床+16) 北武蔵型坏
10	土師器	皿	(17.2)	2.9	—	20	C・E・H・I・K	良好	褐	No.23(床+15) 北武蔵型皿
11	須恵器	蓋	3.6	1.3	—	90	G・I・J	良好	灰	南比企産
12	須恵器	蓋	(15.9)	1.7	—	10	G・I・J・L	良好	灰	南比企産
13	須恵器	フラスコ瓶	(9.5)	9.2	—	75	G・I・K	良好	灰白	No.12(床+12) 湖西産 内外面に自然釉が掛かる
14	須恵器	長頸瓶か	—	2.1	(7.8)	20	G・I・K	良好	灰	No.13(床+15) 内面火痕れがみられる
15	土師器	甗か	(19.4)	7.0	—	15	C・G・H・I	良好	黒褐	No.24(床+15)
16	土師器	甗	(20.8)	4.8	—	10	C・G・H・I	良好	明褐	No.25(床+16)
17	土師器	甗	—	9.7	—	15	G・H・I・K	良好	褐	No.17(床+20) 雲母状微粒子を含む
18	土師器	甗	—	3.7	—	20	C・G・H・I・K	良好	褐	No.7(床+17) 内面風化顯著
19	土製品	土鉢	No.22(床+10)	長さ3.2cm	最大径1.3cm	厚さ1.3cm	孔径0.45cm	残存率50%	4.71g	
20	石製品	鉄床石	No.35(床+3)	長さ45.6cm	幅25.6cm	厚さ25.4cm	34.08kg	石材:閃緑岩	上面および左側面に鉄分附着	
21	土製品	羽口	No.142 SK64 確認面(床直)	長さ10.2cm	中心部内径2.8~2.9cm	中心部外径5.2~5.4cm	基部内径6.5~7.0cm	基部外径8.0~8.5cm	先端部内径2.0cm	255.39g A類
22	土製品	羽口	No.120(ほぼ床直)	長さ12.3cm	中心部内径1.8~2.1cm	中心部外径4.5cm	基部内径6.1cm	基部外径7.1cm	284.07g A類	
23	土製品	羽口	No.57(床直)	長さ5.7cm	中心部内径2.3cm	中心部外径6.4cm	先端部破片	74.12g A類		
24	土製品	羽口	No.100(床直)	長さ5.6cm	中心部内径2.3~2.5cm	中心部外径4.7~4.9cm	白色粒子・砂粒を含む	89.77g A類		
25	土製品	羽口	No.138(床+3)	長さ9.8cm	中心部内径1.6cm	中心部外径5.3cm	基部内径6.4cm	基部外径8.0cm	298.49g A類	



第175図 第63号住居跡出土遺物(4)

有段口縁環、6～9は北武蔵型環である。北武蔵型環はやや扁平化し、口縁部が長く直立するタイプである。10は北武蔵型の皿である。13・14は湖西産の長頸瓶。15は甌か。異系統かもしれない。16・17は武蔵型のケズリ甕。

20は鉄床石。重量感があり、良く使用されている。石材は閃緑岩である。21～45は轆羽口。形態から5類に分かれる。

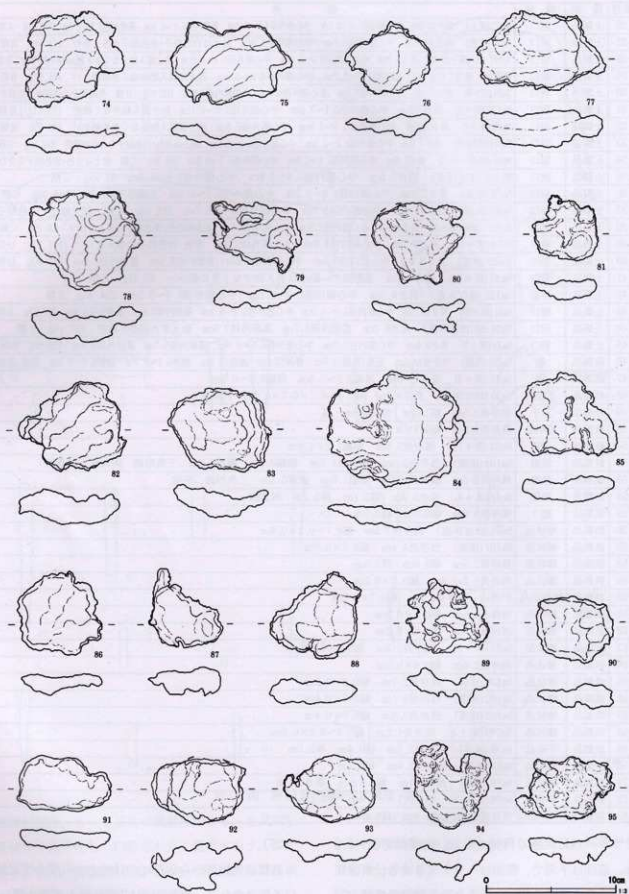
A類は体部側面が直線的で、基部が短く外開きする。通風孔部も先端から基部にかけて直通し、端部

番号	種別	器種	備考
26	土製品	羽口	№123(床+4) 長さ10.6cm 中心部内径1.9~2.1cm 中心部外径4.9~5.2cm 基部内径6.1~6.5cm 基部外径7.0~7.3cm 253.25g A類
27	土製品	羽口	№54(床直) 長さ19.9cm 中心部内径1.7cm 中心部外径5.8cm 胎土は白色粒子・赤色粒子を多く含む 111.51g A類
28	土製品	羽口	№141・247(床+3~4) 長さ5.2cm 中心部内径2.0~2.3cm 中心部外径5.1~5.5cm 胎土混入物少なくきめ細かい 82.08g B類
29	土製品	羽口	確認面 長さ7.6cm 中心部内径2.0~2.2cm 中心部外径4.5~4.6cm 胎土は混入物少なくきめ細かい 131.97g B類
30	土製品	羽口	№59(床+4) 長さ7.9cm 中心部内径1.8cm 中心部外径4.5cm 先端部内径1.6m 107.62g B類 先端部から体部中位の破片
31	土製品	羽口	№139(床+3) 長さ7.5cm 中心部内径2.1~2.2cm 中心部外径5.0~5.1cm 胎土混入物少なくきめ細かい 175.11g B類
32	土製品	羽口	№79(床+4) 長さ7.9cm 中心部内径1.5~1.8cm 中心部外径5.2cm 胎土は混入物少なくきめ細かい 188.35g B類
33	土製品	羽口	№83(ほぼ床直) 長さ7.5cm 中心部内径2.2~2.3cm 中心部外径6.1~6.5cm 胎土は赤色・白色粒子を含むが微密 212.05g C類
34	土製品	羽口	№82・88(床+0~3) 長さ7.6cm 中心部内径2.1~2.5cm 中心部外径6.1~6.3cm 161.95g C類 胎土は白色・赤色粒子を含む
35	土製品	羽口	№124(ほぼ床直) 長さ7.5cm 中心部内径2.4~2.8cm 中心部外径5.6~6.0cm 94.93g C類
36	土製品	羽口	№76(床直) 長さ7.0cm 中心部内径1.8~2.3cm 中心部外径5.2~5.5cm 先端部内径1.7cm 155.36g C類
37	土製品	羽口	№90(床直) 長さ10.1cm 中心部内径1.9cm 中心部外径5.6~5.7cm 275.88g C類 胎土緻密 赤色粒子
38	土製品	羽口	№195 S164(床+6) 長さ9.4cm 中心部内径2.5cm 中心部外径5.5cm 胎土は白色・赤色粒子の混入目立つ 120.29g C類
39	土製品	羽口	№64(床+11) 長さ7.7cm 中心部内径1.8cm 中心部外径5.3cm 赤色・白色粒子の混入目立つ 101.71g D類
40	土製品	羽口	№253(床直) 長さ9.6cm 中心部内径2.5cm 中心部外径6.2cm 基部内径5.0cm 基部外径7.0cm 243.90g D類
41	土製品	羽口	№32(床+14) 長さ4.2cm 基部破片 胎土は混入物少なくきめ細かい 56.45g E類
42	土製品	羽口	№122(ほぼ床直) 長さ9.3cm 中心部内径2.0~2.1cm 中心部外径6.4~6.5cm 294.92g E類
43	土製品	羽口	№31(床+28) 長さ10.7cm 中心部内径3.0~3.2cm 中心部外径5.8~6.3cm 基部内径5.8cm 基部外径8.4cm 297.21g E類
44	土製品	羽口	№36・58(ほぼ床直) 長さ6.2cm 基部内径3.7cm 基部外径7.8cm 胎土きめ細かく微密 137.14g E類
45	土製品	羽口	№38(床+3) 長さ9.6cm 中心部内径2.2cm 中心部外径6.5~6.7cm 基部内径5.7cm 基部外径8.3cm 239.38g E類
46	鉄製品	鋸	№251(床直) 残存長18.0cm 茎長(残長)4.5cm 背長13.5cm 歯道13.3cm 歯厚0.2~0.3cm 歯幅2.0~2.5cm 鋸歯:密着
47	鉄製品	鎌	№49(床+4) 長さ17.0cm 刃幅2.2~3.5cm 背幅0.2~0.3cm
48	鉄製品	不明品	№39(ほぼ床直) 長さ8.7cm 幅0.8~0.7×0.7×0.4cm 門金具か
49	鉄製品	刀子	残存長2.5cm 幅1.0cm 背幅0.2cm 茎
50	鉄製品	不明品	残存長3.3cm 幅0.8×0.2cm
51	鉄製品	釘	№53(床+11) 残存長3.8cm 頭幅1.2×1.0cm
52	鉄製品	鉄鏃	№102(床直) 残存長2.3cm 鏃身長1.7cm 鏃幅0.9cm 鏃厚0.2cm 三角形鏃 両刃造 鏃肩部
53	鉄製品	鉄鏃	残存長3.2cm 鏃身長1.6cm 鏃幅1.9cm 鏃厚0.2cm 三角形鏃 平造
54	鉄製品	鉄鏃	№47(床+4) 長さ3.0cm 幅3.1cm 厚0.2cm 無蓋鏃
55	鉄製品	鏃?	残存長3.0cm 幅0.9cm 幅0.5cm
56	鉄製品	棒状品	№61(ほぼ床直) 残存長7.5cm 幅0.7~0.3×0.4cm
57	鉄製品	棒状品	№101(床直) 残存長4.4cm 幅0.5×0.3cm
58	鉄製品	棒状品	残存長2.9cm 幅0.6cm 厚0.3cm
59	鉄製品	棒状品	残存長1.2+2.3cm 幅0.5×0.2cm
60	鉄製品	延板状品	伊周辺 残存長2.7cm 幅0.7×0.2cm
61	鉄製品	棒状品	残存長2.6cm 幅0.5×0.2cm
62	鉄製品	棒状品	残存長1.9cm 幅0.6×0.2cm
63	鉄製品	棒状品	№53(床+11) 残存長2.3cm 幅0.3×0.2cm
64	鉄製品	棒状品	残存長2.0cm 幅0.4×0.2cm
65	鉄製品	棒状品	№104(床直) 残存長2.1cm 幅0.5×0.2cm
66	鉄製品	棒状品	№102(床直) 残存長3.1cm 幅0.5×0.4cm
67	鉄製品	棒状品	№103(床直) 残存長3.4cm 幅0.6×0.4cm
68	鉄製品	棒状品	№249(床+3) 残存長4.2cm 幅0.4~0.2×0.2cm
69	鉄製品	不明品	№78(床直) 残存長2.2cm 幅0.6cm 厚0.1cm
70	鉄製品	棒状品	№62(床直) 残存長2.4cm 幅0.2cm
71	鉄製品	棒状品	№78(床直) 長さ2.1cm 幅1.8cm 厚0.1cm
72	鉄製品	不明品	№60(床+15) 残存長3.5×2.4cm 厚0.2cm
73	鉄製品	不明品	残存長2.5cm 幅1.4cm 厚0.8cm

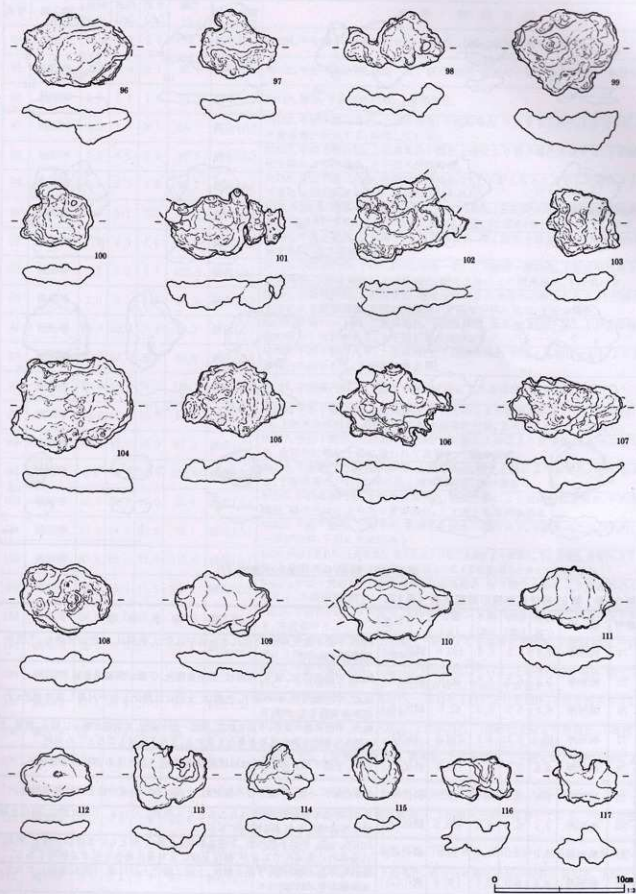
でラッパ状に大きく外開きする。内径は1.6~2.0cm。基部は平坦で、側面はヘラケズリする。断面観察により、芯棒の周囲に粘土を貼り付けた痕跡が明瞭に残る。胎土は白色粒子と砂粒を多く含む(21

~27)。

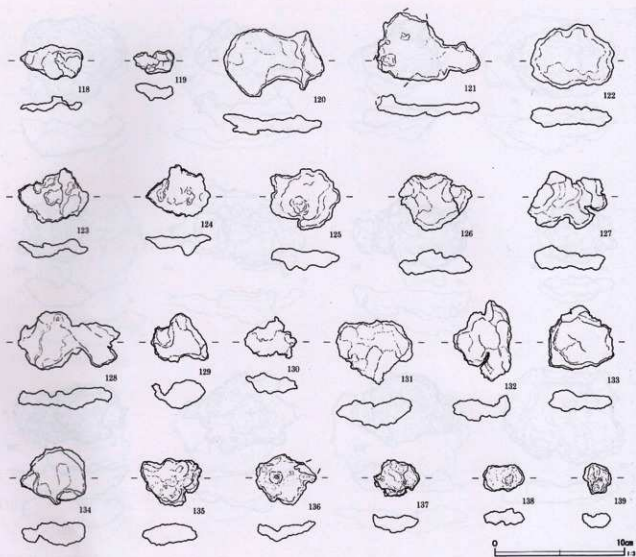
B類は先端部から体部にかけてあまり開かず延びる細身のもの。体部外面は指頭瓦痕を顕著に残し、全体的にナデを丁寧に施す。通風孔は直孔。胎土は



第176图 第63号住居跡出土遺物 (5)



第 177 图 第 63 号住居跡出土遺物 (6)



第178図 第63号住居跡出土遺物 (7)

第60表 第63号住居跡碗形観察表 (第176～178図)

番号	種別	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	メタル度	備考・特記事項
74	碗形	7.6	7.3	2.8	103.0	錆化(△)	No.33. 平面不整五角形。下面に木炭痕が目立つ。色調は、上面が黄褐色、下面が黒褐色を呈する。
75	碗形	9.2	6.3	1.3	86.9	錆化(△)	No.35. 平面楕円形。薄手。色調は、上面黄褐色、下面が黒褐色を呈する。
76	碗形	6.6	5.5	2.0	62.0	錆化(△)	No.42. 平面楕円形。やや薄手。色調は、上面には酸化土砂が付着し黄赤褐色、下面が赤褐色を呈する。
77	碗形	10.0	6.1	3.1	179.7	M(○)	No.48. 平面不整六角形。下面丸餅型。側面一面が破面。木炭痕が僅かに残る。重層。上下面とも酸化土砂により赤褐色を呈する。また下面はところどころ発泡。
78	碗形	8.6	7.5	2.3	148.7	錆化(△)	No.51. 平面不整台形。下面はほぼ丸餅状。酸化土砂により赤褐色を呈する。
79	碗形	6.8	5.5	1.3	51.2	錆化(△)	No.80. 薄手・小型。平面形は不整台形。上面に羽臼由来の粘土溶解物が付着。
80	碗形	7.1	6.2	2.3	109.6	錆化(△)	No.94. 平面不整台形。上面はところどころ発泡している。下面丸餅状。酸化土砂により赤褐色を呈する箇所がある。
81	碗形	5.0	5.0	1.7	39.9	錆化(△)	No.106. 小型。平面不整円形。下面丸餅状。上面・下面ともに木炭痕が残る。色調は全体的に黒褐色であるが、酸化土砂により黄赤褐色を呈する箇所もある。
82	碗形	8.2	6.9	2.7	130.8	錆化(△)	No.117. 平面不整台形。下面丸餅状。上面に酸化土砂付着。下面は発泡しており、木炭痕が見られる。
83	碗形	7.8	6.4	2.2	124.0	錆化(△)	No.131. 平面不整五角形。下面丸餅状。上面木炭痕あり。下面発泡、ところどころ酸化土砂により赤褐色。

番号	種 別	長さ (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	メタル度	備 考 ・ 特 記 事 項
84	碗形滓	10.6	8.9	2.1	199.8	錆化(Δ)	No134. やや薄手、平面楕円形。下面発泡。上面に木炭痕残る。
85	碗形滓	7.8	6.4	2.1	95.1	錆化(Δ)	No136. 平面不整形。側面一面が破面。上面・破面の一部が発泡。下面に裏付着。
86	碗形滓	6.5	6.4	1.6	74.3	錆化(Δ)	No148. 薄形、平面ほぼ円形。上面黒褐色。
87	碗形滓	6.0	5.7	2.1	64.1	錆化(Δ)	No154. 平面不整形三角形。上面赤褐色。下面黒褐色、うすうすと酸化土砂付着により黄赤褐色を呈する。発泡している。
88	碗形滓	6.9	6.6	2.3	97.3	錆化(Δ)	No157. 平面不整形。上面黒褐色や酸化土砂により黄赤褐色を呈する。下面酸化土砂により赤褐色。上下面木炭痕付着。
89	碗形滓	6.4	5.7	2.2	50.7	錆化(Δ)	No160. 平面不整形三角形。色調は赤黒褐色で、上下面ともところどころ発泡する。下面は一部突起状になり、木炭痕が見られた。
90	碗形滓	5.8	5.1	2.2	70.0	錆化(Δ)	No166. 平面不整形四角形。破面一面。上下面とところどころ発泡。上面黒褐色の部分と赤褐色の部分とがある。下面黒褐色、赤褐色、黄褐色の部分に分かれる。下面に羽口由来の粘土溶解物が付着している。
91	碗形滓	7.2	4.3	1.6	61.6	錆化(Δ)	No169. 平面不整形。やや薄手。上下面黒褐色、薄く酸化土砂が付着し黄赤褐色を呈する。下面木炭痕付着。
92	碗形滓	7.7	5.0	3.7	122.8	錆化(Δ)	No174. 平面楕円形。下面丸餅状。破面一面。上下破面一部発泡。上面赤褐色および黄褐色。下面赤褐色および黒褐色。酸化土砂により黄赤褐色、木炭痕付着。
93	碗形滓	7.0	5.1	2.3	68.3	錆化(Δ)	No195. 平面楕円形。上面黒褐色。酸化土砂により赤褐色の部分もある。下面酸化土砂により黄赤褐色。上面の周縁部と下面部分的に発泡。下面木炭痕。
94	碗形滓	66.4	59.3	23.0	68.3	錆化(Δ)	No187. 平面ハート形。上面黒褐色。上面黒褐色、黄褐色。酸化土砂により黄赤褐色の部分とにわかれる。上下面とも木炭痕あり。
95	碗形滓	75.0	47.7	22.0	85.8	錆化(Δ)	No188. 平面不整形四角形。上面黒褐色。下面黒赤褐色。両面とも酸化土砂により黄赤褐色の部分あり。下面木炭痕あり。
96	碗形滓	82.8	55.0	34.0	116.7	錆化(Δ)	No213. 平面楕円形。上下面とも酸化土砂により全体的に黄赤褐色。
97	碗形滓	60.0	53.0	20.0	50.8	H (○)	No210. 平面不整形。上面黒褐色、酸化土砂により黄褐色を呈する。下面赤褐色。上面木炭痕付着。羽口由来の粘土溶解物付着。上下面ともごく一部発泡。
98	碗形滓	76.0	43.8	16.0	52.9	錆化(Δ)	No217. 平面不整形。上面黒褐色。部分的に酸化土砂により黄褐色。下面地は黒褐色。全体的に酸化土砂に覆われて黄褐色。上面木炭痕。
99	碗形滓	8.0	66.0	32.0	152.8	錆化(Δ)	No218. 平面楕円形。下面丸餅形。上面黒褐色。酸化土砂により黄褐色の部分もある。下面黒褐色。羽口由来の粘土溶解物付着。木炭痕あり。
100	碗形滓	55.5	52.5	17.0	50.6	錆化(Δ)	No219. 平面不整形。上面地は黒褐色。酸化土砂により全体的に赤褐色。下面黒褐色。酸化土砂により所々黄赤褐色。上下面とも木炭痕あり。
101	碗形滓	91.0	54.0	20.0	79.1	錆化(Δ)	No226. 平面不整形。上面平坦。黒褐色と灰色の部分あり。下面黒褐色及び灰色。一部が発泡。下面に木炭痕あり。
102	碗形滓	87.6	63.0	23.0	119.9	錆化(Δ)	No226. 平面不整形。上面黄褐色、青灰色および酸化土砂により赤褐色。下面黒褐色、黄褐色。上下面とも発泡している箇所あり。上面に羽口由来の粘土片付着。黒色のガラス質付着。
103	碗形滓	56.5	55.5	17.0	58.8	錆化(Δ)	No227. 平面不整形。上面赤褐色。下面黒褐色。所々酸化土砂により黄赤褐色を呈する。木炭痕あり。
104	碗形滓	94.0	74.0	19.0	129.1	錆化(Δ)	No228. 平面楕円形。やや薄手。上面暗赤褐色。下面黒褐色、褐色、黄褐色に分かれる。木炭痕あり。
105	碗形滓	78.6	56.5	22.0	97.4	錆化(Δ)	No283. 平面不整形六角形。上面酸化土砂により全体的に黄褐色。下面黒褐色、一部酸化土砂により黄褐色。一部発泡。
106	碗形滓	85.6	63.0	33.0	96.4	錆化(Δ)	No239. 平面不整形六角形。下面は中央が隆起している。上面地は暗赤褐色、酸化土砂により黄褐色を呈する。下面は暗赤褐色。下面に木炭痕あり。
107	碗形滓	87.1	46.9	27.0	95.0	錆化(Δ)	No245. 平面楕円形。上面黒褐色、一部酸化土砂により黄褐色。下面赤褐色および黄褐色。上下面ともに木炭痕あり。
108	碗形滓	69.5	53.4	26.0	98.2	錆化(Δ)	No250. 平面楕円形。下面丸餅状。上面黒褐色。一部酸化土砂より黄褐色。下面地は褐色だが酸化土砂により全体的に黄褐色。上下面とも木炭痕。
109	碗形滓	7.4	5.0	2.1	73.1	錆化(Δ)	平面楕円形。上面褐色、赤褐色、黄褐色。下面黒褐色。上下面ともに酸化土砂により黄褐色。
110	碗形滓	8.7	5.5	1.8	85.9	錆化(Δ)	平面楕円形。上面赤褐色、黄褐色、青灰色。下面は赤褐色。上面一部発泡。
111	碗形滓	7.3	4.9	1.6	62.4	H (○)	平面楕円形。上下面とも地は黒褐色。上に酸化土砂が付着している。下面木炭痕付着。上面羽口由来の粘土片。
112	碗形滓	5.4	4.0	1.5	33.9	錆化(Δ)	平面不整形六角形。小型。上面黒褐色。下面赤褐色。酸化土砂の付着により黄褐色。
113	碗形滓	5.6	5.2	1.9	41.2	錆化(Δ)	平面不整形。上面黒褐色。下面褐色。部分的に酸化土砂が付着し黄褐色。上面に木炭痕付着。下面発泡。
114	碗形滓	5.2	4.3	1.7	27.2	H (○)	平面不整形。小型。上面褐色。下面黄褐色。部分的に発泡。

番号	種別	長さ (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	メタル度	備考・特記事項
115	桃形滓	4.4	3.7	1.2	20.6	H(○)	不整形。小型。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色を呈する。
116	桃形滓	5.6	3.4	2.2	3.8	錆化(Δ)	平面不整形。上下面灰褐色。木炭痕有り。下面一部発泡。
117	桃形滓	5.0	4.5	3.4	44.7	H(○)	平面不整形。小型。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色。下面に木炭痕。
118	桃形滓	4.7	2.6	1.0	9.6	錆化(Δ)	平面不整形。薄手、小型。上面黄褐色、下面黒褐色。上面の一部が発泡する。
119	桃形滓	31.4	1.6	1.0	7.4	H(○)	平面不整形、小型。上下とも黒褐色。上面に酸化土砂付着。発泡。
120	桃形滓	7.7	5.1	1.5	60.0	錆化(Δ)	平面不整形。破面一面。薄手。上面地は黒褐色、酸化土砂付着により赤褐色。下面黒褐色。木炭痕あり。
121	桃形滓	7.9	5.2	1.6	48.6	錆化(Δ)	平面不整形。薄手。破面二面。上面黒褐色、黄褐色、赤褐色。下面黒褐色。
122	桃形滓	6.5	5.0	1.5	68.6	H(○)	集中部。平面楕円形。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色を呈している。ほぼ平坦。
123	桃形滓	5.3	4.2	2.0	28.2	錆化(Δ)	集中部。平面不整形。上面地は黒褐色、全体的に酸化土砂が付着、黄褐色を呈する。下面に粘土溶解物付着。
124	桃形滓	4.9	4.0	1.9	19.8	錆化(Δ)	集中部。平面楕円形。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色を呈している。下面一部隆起した箇所が発泡している。
125	桃形滓	5.4	4.7	1.9	6.7	粘土溶解物	D区。平面楕円形。上面酸化土砂により赤黄褐色。羽口由来の粘土溶解物付着。下面黒褐色。表面は酸化土砂により所々赤褐色。木炭痕。
126	桃形滓	5.5	4.5	1.6	50.4	L(●)	D区。平面不整形三角形。上下面とも酸化土砂により黄褐色を呈している。下面ほぼ平坦。
127	桃形滓	6.0	4.4	1.7	44.9	錆化(Δ)	D区。平面不整形。上面酸化土砂により黄褐色。下面黒褐色、褐色。上下面ともに木炭痕見られる。
128	桃形滓	7.7	4.4	1.5	41.3	錆化(Δ)	D区。平面不整形。上下面とも黒褐色だが、酸化土砂により赤褐色を呈する。上下面に木炭痕見られる。
129	桃形滓	4.4	3.7	2.2	31.3	錆化(Δ)	D区。平面不整形。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂付着により黄褐色を呈する。
130	桃形滓	4.0	3.3	1.6	14.8	錆化(Δ)	D区。小型。平面不整形。上下面とも酸化土砂により黄赤褐色。
131	桃形滓	5.8	4.9	1.8	66.1	L(●)	SK64。平面不整形三角形。上面褐色および酸化土砂により黄褐色。下面は黄褐色。上面に木炭痕。
132	桃形滓	6.2	4.4	2.0	50.4	M(◎)	SK64。平面不整形三角形。上下面とも地は黒褐色だが、酸化土砂により全体的に黄褐色を呈する。
133	桃形滓	4.9	4.9	1.9	54.0	H(○)	SK64。平面不整形五角形。上面黒褐色。下面赤褐色。発泡している箇所あり。平坦。
134	桃形滓	5.0	4.4	2.0	46.1	H(○)	SK64。平面不整形。上下面とも地は黒褐色。酸化土砂により表面黄褐色。下面粘土溶解物付着。木炭痕あり。
135	桃形滓	45.7	35.7	14.0	28.9	H(○)	SK64。平面不整形三角形。上面褐色および酸化土砂により赤褐色。下面は黄褐色。発泡している箇所有り。
136	桃形滓	45.5	39.0	12.0	22.3	H(○)	SK64。平面不整形五角形。上面黒褐色。下面酸化土砂により赤褐色。発泡している箇所あり。
137	桃形滓	34.9	27.2	12.0	14.6	H(○)	SK64。小型。平面不整形。上下面ともに地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色を呈している。
138	桃形滓	31.0	20.0	13.0	11.1	錆化(Δ)	SK64。小型。平面楕円形。上下面ともに地は黒褐色だが、酸化土砂により黄褐色を呈している。
139	桃形滓	23.0	22.0	10.0	5.9	L(●)	SK64。小型。平面円形。下面丸餅形。上下面ともに地は黒褐色だが、酸化土砂によりやや黄褐色。

白色粒子・赤色粒子の混入が多く、緻密である (28～32)。

C類は基本的にA類と同じであるが、径が大きい。全体の形状は不明であるが、端部が外反すると思われる。断面観察では芯棒の周囲に粘土を貼り付けた痕跡が明瞭である。基部の外面には指頭圧痕を残す

(33～38)。

D類は、体部が基部に向かって直線的に開く。通風孔部は先端部から基部にかけて直孔し、端部で大きく外開きになる。体部側面に沈線状のヘラナデ痕が残る。基部は平坦に仕上げられる。胎土は白色粒子・砂粒を少量含み、全体に混入物が少ない緻密な

胎土である(39・40)。

E類は径が大きい。体部から基部に向かって直線的に開き、端部は平坦面をなす。体部外面はナデ。一部指頭痕を残す。胎土はきめ細かく緻密である(41～45)。

46～73は鉄製品。46は鉄鋸である。柄部から刃部の破片。刃部に鋸歯が付くが「あさり」はない。47は鎌。基部短刃全体が折り返される。48は門金具か。49は刀子柄部。目釘孔が開いている。51は鉄釘。52は鉄鏝で、長三角形丸造。53は三角形形式の鏝で、平造。54は無茎鏝である。55は鑿か。56～73は不明品である。56～70は断面方形の棒状製品。鉄鏝や釘などの一部となると推定される。71～73は薄い鉄板状である。

74～139は鉄滓。鉄滓は多量に出土した。全て底面に丸みをもつタイプで、鍛冶炉で使用された椀形滓と考えられる。主だったものを図化した。直径5～10 cm程度のものが多い。77は2層重なっている。79・102・111は上面に羽口に由来する粘土溶解物が付着している。詳細は一覧表を参照願いたい。

住居跡(鍛冶工房)から出土した羽口類(溶解してガラス化した粘土塊を含む)はトータル5725.0 g(図化遺物4442.9 g、図化以外1282.1 g)、椀形滓はトータル15104.7 g(図化遺物4494.7 g、図化以外10610.0 g)であった。

出土遺物の時期は8世紀前半(1/4期中心)と考えられる。出土土器は鍛冶工房焼絶後に投棄されたものが多いと思われる。鍛冶工房の操業時期は若干溯る可能性はあろう。

第64号住居跡(第179図)

第64号住居跡はG・H-6・7グリッドに位置する。第4号溝跡と攪乱が入り込み、遺構の遺存状態は悪い。

平面形は方形系と推定される。残存規模は長軸長6.94 m、短軸長5.88 m、深さ0.40 mである。主軸方位はN-71°-Eを指す。

床面は凹凸が顕著である。全体に軟質で、覆土との差異があまり見られなかった。カマドの北西側の床面に白色粘土が薄く堆積していた。

覆土はローム粒子と焼土粒子混じりの黒褐色土が厚く堆積し、大きな土層変化は見られなかった。

カマドは東壁の中央に設けられていた。全長は1.38 m、燃焼部は壁内に収まっていた。左右の袖部は地山のローム層を掘り残した上に白色粘土を積んで構築されていた。燃焼部底面は皿状に窪み、側壁は弱く被熱していた。

貯蔵穴はカマドに向かって右脇の南東コーナー部に設置されていた。攪乱を受けているが、底面付近は辛うじて残存していた。形態は楕円形で、長径1.24 m、短径0.90 m、深さ0.51 mである。

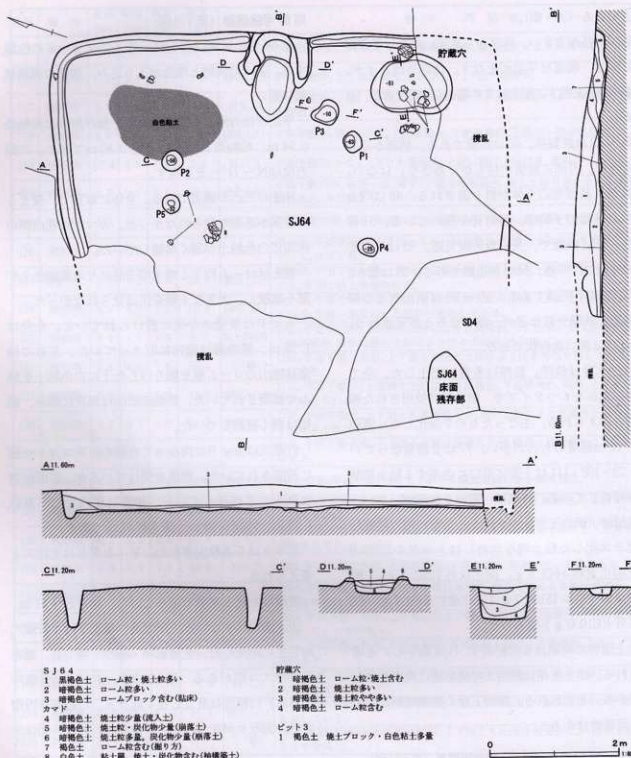
ピットは5本検出された。P1とP2は主柱穴と考えられる。

壁溝は北壁と東壁で巡っていた。深さ5～11 cm。

出土遺物は少ないが、床面及び覆土下層、貯蔵穴から主に出土した。土師器・高環・甕・壺、須恵器フラスコ瓶がある(第180図)。1～4は模倣坏である。口縁部は直立し長く延びる。口唇部は内削ぎ状の面取りがなされる。5は高環。坏部外面はケ

第61表 第64号住居跡出土遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(11.8)	4.7	—	45	C・G・I・L	良好	褐	No.5・6(床+3～5) 模倣坏
2	土師器	坏	(11.8)	4.9	—	25	C・G・H・I・K	良好	褐	貯穴 模倣坏 内面一部クレター状に剥離
3	土師器	坏	13.1	5.0	—	75	C・H・I・K	良好	褐	模倣坏
4	土師器	坏	(12.7)	4.1	—	20	C・G・H・I	良好	褐	模倣坏 器面クレター状剥離
5	土師器	高環	(19.7)	12.0	—	70	C・H・I・K	良好	明褐	No.1 カマド(床+10) 脚径13.0cm 脚部端面面取り
6	須恵器	フラスコ瓶	—	—	—	25	G・I・K	良好	灰白	湖西産 外面に一部自然釉が掛かる 図上復元
7	土師器	甕	—	(33.7)	6.8	60	C・H・I・L	良好	暗褐	No.11・14・15 貯穴(床-20～42)
8	土師器	壺	—	13.8	7.4	30	C・H・I	普通	褐	No.7(床+3～4) 脚部下端に口縁を残す 底部木炭痕
9	土師器	小型壺	—	2.3	4.0	30	C・G・H・I・K	良好	淡褐	



第179図 第64号住居跡

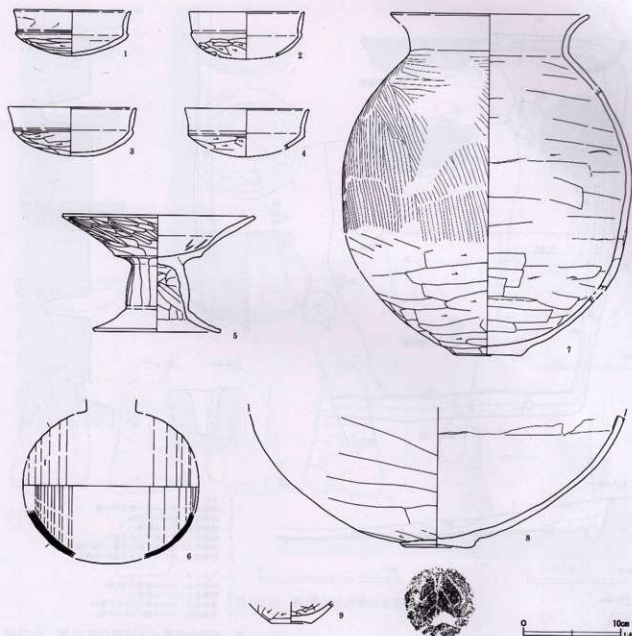
ズリ。ミガキのように光沢がある。坏部及び脚部の端面は面取りされる。6は湖西産の須恵器フラスコ瓶。混入である。7は土師器甕である。胴部粗い木口ナデ。器壁はクレーター状に剥落している。8は大型甕。底部は木炭痕。

時期は鬼高期初頭、6世紀初頭前後と考えられる。

第65号住居跡 (第181図)

第65号住居跡はE・F-6・7グリッドに位置する。第21・22号溝跡に切られていた。北東壁周辺は調査区外に延びていた。

平面形は方形系と推定される。残存規模は長軸長5.88m、短軸長5.55m、深さ0.49mである。主軸



第180図 第64号住居跡出土遺物

方位はN-39°-Wを指す。

床面は地形に沿って、僅かに北東方向に傾斜していた。一部は第21号溝跡に削平されていた。住居跡中央部付近は比較的硬化していた。壁際はやや軟弱であった。

覆土はローム粒子と焼土粒子を含む暗褐色土が厚く堆積していた。自然堆積と思われる。

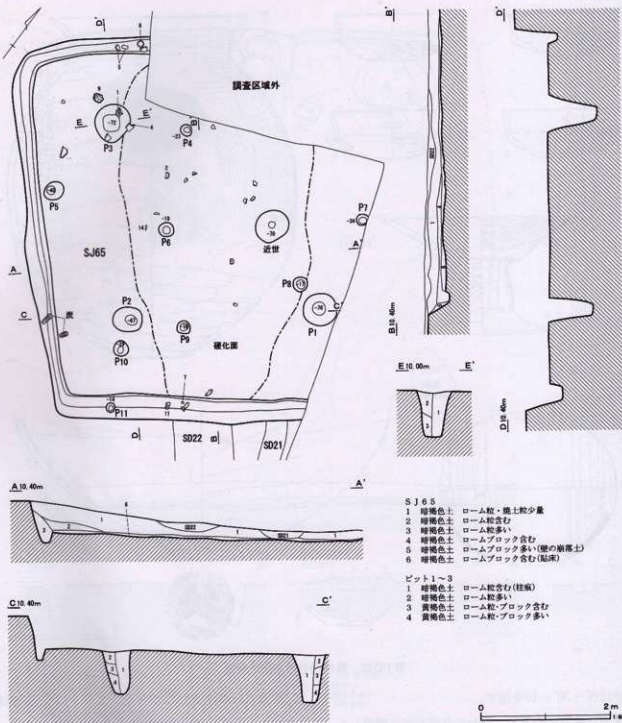
カマドは検出されなかったが、北西壁際に白色粘土や焼土が確認されたため、北西壁の調査区に接する位置に存在すると予想される。

貯蔵穴は検出されなかった。ピットは11本検出された。P1～P3が主柱穴と考えられる。

壁溝は全周する。深さ8～18cmである。

出土遺物は少ない。覆土中から出土したものが多い。土師器杯・小型壺・鉢、須恵器杯、砥石、鉄製品がある（第182図）。

1～3は統比企型の模倣杯である。口縁部外面と内面全面赤彩が施される。4は模倣杯である。5～7は有段口縁杯である。5は部分的に黒色処理の跡が残る。6・7は黒色処理される。8は須恵器杯H



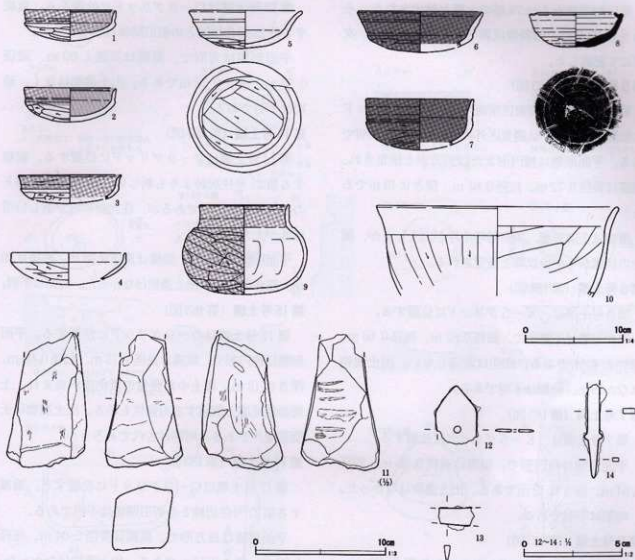
第181図 第65号住居跡

身である。口縁部の立ち上がりは低い。底部に「一」状のへう記号がある。湖西産と考えられる。9は小型壺。口縁部内面と外面全体が赤彩される。比企型の壺で、搬入品であろう。10は鉢。二次被熱し、器面は荒れている。煤が付着する。

11は砥石。石材は砂岩か。12は鉄鏝。おそらく五角形の無基鏝となろう。中心部に孔が開けられて

いる(有孔式)。13は鉄製刀子刃部片である。14は棘籠被の鉄鏝基部である。図化した以外に碗形滓が210.49g、鞆羽口が19.72g出土している。

出土遺物に明確な北武蔵型環がないが、4の模倣環は北武蔵型環の影響を受けている可能性がある。須恵器環Hは、口縁の立ち上がりが短く、湖西産中の流れから見ても最新の様相である。統比企型環



第182図 第65号住居跡出土遺物

第62表 第65号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(9.3)	3.2	—	75	E・H・I・L	良好	褐	№12(床+20) 統比企型坏 口縁部外面及び内面赤彩
2	土師器	坏	9.4	3.5	—	85	H・I・L	良好	褐	№16(床+4) 口縁部外面及び内面赤彩 統比企型坏
3	土師器	坏	(10.4)	2.5	—	20	H・I・J・K	良好	褐	統比企型坏
4	土師器	坏	(11.6)	2.8	—	15	C・G・H・I	良好	橙褐	№10(床+10) 模紋坏 器面全体に磨耗
5	土師器	坏	11.3	3.4	—	90	C・I・K	良好	淡褐	№3・4(床+4~22) 有段口縁坏 黒炭状のまだらな黒色処理を施す
6	土師器	坏	(12.2)	3.7	—	15	C・G・I・K	良好	暗褐	有段口縁坏 内外面黒色処理
7	土師器	坏	(10.9)	4.8	—	15	C・G・I・K	不良	黒褐	№26(床直) 内外面黒色処理 有段口縁坏
8	須恵器	坏	8.0	3.6	—	95	G・I・K	良好	灰白	№2(床+28) 湖西産底部「一」状のヘラ記号
9	土師器	小型壶	(9.2)	9.3	—	50	C・E・I・L	良好	明褐	№5(床+7) 口縁内面及び外面赤彩 胴部外面ヘラケズリ
10	土師器	鉢	(24.6)	9.3	—	30	C・D・H・I・L	良好	褐	内面一部煤付着
11	石製品	砥石	№28(床-2)	長さ10.4cm	幅5.9cm	厚さ6.0cm	289.94g	石材:砂岩		
12	鉄製品	鉄鏃	残長3.0cm	幅2.1cm	厚0.1cm					
13	鉄製品	刀子	残長1.8cm	刃幅0.9cm	背幅0.3cm					
14	鉄製品	鉄鏃	№18(床+15)	残長4.8cm	幅0.6cm	厚0.2cm				

と有段口縁坏のセットから、時期は7世紀中頃～後半と考えておきたい。

2. 土壌

荒川附遺跡からは74基の土壌が検出された。そのうち13基は土師器焼成土と考えられるため、次項にて記載した。

第5号土壌 (第183図)

第5号土壌は、調査区南西端部のR-9グリッドに位置する。西半は調査区外に延び、全体は不明である。平面形態は楕円形または長方形と推定され、規模は長径0.72 m、短径0.61 m、深さ0.18 mである。

遺物は土師器甕、須恵器坏小片が出土したが、覆土の状態から中世以降と推定される。

第6号土壌 (第183図)

第6号土壌は、K-5グリッドに位置する。

平面形態は不整形で、長径0.82 m、短径0.66 m、深さ0.40 mである。底面は安定しない。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第7号土壌 (第183図)

第7号土壌は、K-5グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.86 m、短径0.54 m、深さ0.12 mである。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第8号土壌 (第183図)

第8号土壌は、K-6グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.66 m、短径0.44 m、深さ0.25 mである。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第10号土壌 (第183図)

第10号土壌はO-9グリッドに位置する。重複する第26号住居跡を切っている。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.20 m、短径0.98 m、深さ0.20 mである。覆土には炭化物ブロックが多量に含まれており、隣接する土師器焼成土(第18号土壌)と関連する可能性もある。

出土遺物は土師器坏・甕小片がある。遺物の時期は7世紀後半～8世紀初頭頃と思われる。

第13号土壌 (第183図)

第13号土壌はO-9グリッドに位置する。重複する第27号住居跡との新旧関係は不明である。

平面形態は方形で、規模は長径1.00 m、短径0.94 m、深さ0.12 mである。出土遺物はなく、時期は不明である。

第14号土壌 (第183図)

第14号土壌はP-9グリッドに位置する。重複する第25号住居跡よりも新しい。第19号住居跡との新旧関係は不明であるが、住居跡の方が新しい可能性が高い。

平面形態は方形で、規模は長径0.88 m、短径0.70 m、深さ0.15 m。出土遺物はなかった。時期は不明。

第15号土壌 (第183図)

第15号土壌はO-9グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径1.15 m、短径0.60 m、深さ0.12 m。覆土中に多量の炭化物が含まれ、土師器焼成土と関連する可能性もある。出土遺物は土師器甕片がある。時期は古代であろうか。

第17号土壌 (第183図)

第17号土壌はO-9グリッドに位置する。重複する第27号住居跡との新旧関係は不明である。

平面規模は長方形で、規模は長径2.04 m、短径1.06 m、深さ0.12 mである。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第19号土壌 (第183図)

第19号土壌はM-8グリッドに位置する。

平面形態は不整形で、規模は長径1.16 m、短径1.12 m、深さ0.36 mである。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第20号土壌 (第183図)

第20号土壌はM-8グリッドに位置する。重複する第33号住居跡との新旧関係は本土壌の方が新しい可能性が高い。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.10 m、短径1.02 m、深さ0.22 mである。出土遺物は縄文土器と土師器甕片がある。時期は不明である。

第5号土壌



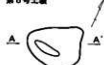
△ 8.00m △



SK 5

- 1 灰褐色土 灰色っぽい粒子混入
しまり・粘性あり

第6号土壌



△ 11.20m △



SK 6

- 1 灰褐色土 ロームブロック少量
しまり・粘性なし
2 灰褐色土 ロームブロック多量
しまり・粘性なし

第7号土壌



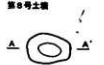
△ 11.20m △



SK 7

- 1 褐色土 しまり・粘性なし
2 灰褐色土 しまり・粘性なし
褐色粒子少量

第8号土壌



△ 11.20m △



SK 8

- 1 暗褐色土 しまり・粘性なし

第10号土壌



△ 10.00m △



SK 10

- 1 暗褐色土 炭化物ブロック状に、ロームブロック・ローム粒多量に含む。しまり・粘性なし

第13号土壌



△ 10.10m △



第14号土壌



△ 8.40m △



第15号土壌



△ 10.10m △



SK 15

- 1 暗褐色土 炭化物を極めて多量に含む。褐色土ブロック混在
2 暗褐色土 褐色土混じる

第17号土壌



△ 10.00m △



SK 17

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・微土粒子や砂多
2 褐色土 ローム粒子多、微土粒多・炭化物粒子少
3 暗褐色土 ローム質土

第19号土壌



△ 10.70m △



SK 19

- 1 暗褐色土 炭化物含む
2 暗褐色土 ロームブロック含む
3 暗褐色土 微土・炭化物少量
4 暗褐色土 微土・炭化物多量
(上面割く状態)

第20号土壌



△ 10.60m △



SK 20

- 1 暗褐色土 炭化物少量(灰色がかかる)
2 暗褐色土 ロームブロック含む
3 暗褐色土 炭化物多
4 暗褐色土 炭化物・微土多
5 暗褐色土 ローム粒少量

第21号土壌



△ 10.70m △



SK 21

- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒多
微土少量(灰色がかかる)
2 暗褐色土 ロームブロック多

第22号土壌



△ 10.80m △



SK 22

- 1 灰褐色土 ローム粒含む

0 2m 1:40

第183図 土壌 (I)

第21号土壌 (第183図)

第21号土壌はM-8グリッドに位置する。重複する第33号住居跡との新旧関係は、土壌の方が新しい可能性が高い。

平面形態は円形で、規模は長径0.96 m、短径0.90 m、深さ0.14 mである。出土遺物は縄文土器や土師器杯・台付甕・壺が出土している。第190図10は統比企型環。土壌の時期は7世紀後半以降である。

第22号土壌 (第183図)

第22号土壌はM-7グリッドに位置する。

平面形態は円形で、長径0.78 m、短径0.74 m、深さ0.16 mである。出土遺物はなかった。時期は不明。

第24号土壌 (第184図)

第24号土壌はK-7グリッドに位置する。

平面形態は円形で、長径0.44 m、短径0.44 m、深さ0.15 mである。出土遺物は須恵器杯・甕・長頸瓶・瓶類・磨鉢 (第190図11～16) などが出土しているが、時期的にまとまりがなく、二次的に集積されたと考えた。土壌の時期は中・近世以降と考えられる。

第25号土壌 (第184図)

第25号土壌はL-8グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、長径1.00 m、短径0.79 m、深さ0.19 mである。覆土には焼土粒子と炭化物粒子が目立った。出土遺物は土師器壺がある。時期は古代に遡る可能性がある。

第26号土壌 (第184図)

第26号土壌はL-7・8グリッドに位置する。グリッドビット5・6と重複しており、L-7グリッドビットの方が新しい。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.86 m、短径0.64 m、深さ0.06 mである。埋土は焼土、ローム粒子を含む褐色土である。出土遺物は土師器壺小片がある。時期は不明であるが、古代か。

第28号土壌 (第184図)

第28号土壌はJ-6グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.74 m、短径

1.00 m、深さ0.33 mである。出土遺物はなかった。

時期は不明である。

第29号土壌 (第184図)

第29号土壌はJ-7グリッドに位置する。

平面形態は方形で、規模は長径0.80 m、短径0.72 m、深さ0.18 mである。埋土は焼土とローム粒子を含む褐色土で、出土遺物はなかった。時期は不明。

第30号土壌 (第184図)

第30号土壌はM-9グリッドに位置し、ビット1に切られている。

平面形態は長楕円形で、規模は長径1.26 m、短径0.38 m、深さ0.30 mである。埋土は4層に分かれ、上層ほど炭化物を多く含む。出土遺物はなかった。時期は不明である。

第31号土壌 (第184図)

第31号土壌はM-9グリッドに位置する。

平面形態は不整楕円形で、規模は長径1.80 m、短径0.90 m、深さ0.22 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第32号土壌 (第184図)

第32号土壌はM-9グリッドに位置する。

平面形態は円形、規模は長径0.87、短径0.76 m、深さ0.22 mである。

出土遺物は鉄製品細片がある。時期は不明である。

第35号土壌 (第184図)

第35号土壌はO-10グリッドに位置する。

平面形態は円形、規模は長径0.85 m、短径0.76 m、深さ0.15 mである。埋土には炭化物が多量に含まれていた。

出土遺物は土師器壺、須恵器長頸壺がある。時期は古代 (7世紀後半～8世紀) の可能性がある。

第36号土壌 (第184図)

第36号土壌はO-10・11グリッドに位置する。

平面形態は円形、規模は長径0.70 m、短径0.62 m、深さ0.30 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第37号土壌 (第184図)

第37号土壌はO-10・11グリッドに位置する。

平面形態は円形、規模は長径0.80 m、短径0.76 m、深さ0.11 mである。

出土遺物は土師器甕である。時期は不明確であるが、8～9世紀頃か。

第38号土壌 (第184図)

第38号土壌はO-10グリッドに位置する。第47号住居跡と重複し、土壌の方が新しい。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.90 m、短径1.75 m、深さ0.14 mである。

出土遺物は高環、土師器環・壺、縄文土器がある。

時期は不明確であるが、7世紀後半頃と推定しておきたい。

第41号土壌 (第184図)

第41号土壌はO-11グリッドに位置し、調査区外に掛かっている。

第46号住居跡と重複し、土壌の方が新しい。平面形態は楕円形で、規模は長径0.62 m、短径0.18 m、深さ0.26 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第42号土壌 (第184図)

第42号土壌はO・P-11グリッドに位置し、第53号住居跡を切っていた。

平面形態は円形で、規模は長径0.72 m、短径0.70 m、深さ0.32 mである。

出土遺物は土師器甕、縄文土器である。時期は不明である。

第43号土壌 (第184図)

第43号土壌はL-9グリッドに位置する。

平面形態は円形で、規模は長径1.00 m、短径0.94 m、深さ0.07 mである。埋土中に浅間A軽石を含む。

出土遺物は土師器甕がある。時期は近世であろう。

第44号土壌 (第185図)

第44号土壌はM-9グリッドに位置する。

平面形態は不整形で、規模は長径1.10 m、短径0.84 m、深さ0.35 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第45号土壌 (第185図)

第45号土壌はN-9グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.82 m、短径0.64 m、深さ0.15 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第48号土壌 (第185図)

第48号土壌はO-10グリッドに位置し、重複する第47号住居跡を切っていると考えられる。

平面形態は楕円形で、残存規模は長径0.76 m、短径0.42 m、深さ0.18 mである。

出土遺物はなかった。時期は古墳時代以降である。

第49号土壌 (第185図)

第49号土壌はK-9グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.70 m、短径0.56 m、深さ0.10 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第52号土壌 (第185図)

第52号土壌はB-4グリッドに位置する。第55号住居跡と重複し、住居跡に切られている。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.08 m、短径0.40 m、深さ0.25 mである。

出土遺物はなかった。時期は古墳時代中期～後期と推定される。

第53号土壌 (第185図)

第53号土壌はB-4グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.54 m、短径1.20 m、深さ0.20 mである。

出土遺物は土師器環・壺 (第190図17) が出土している。時期は古墳時代後期～古代であろう。

第54号土壌 (第185図)

第54号土壌はB-3グリッドに位置する。

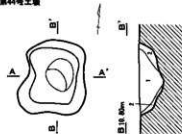
平面形態は楕円形で、規模は長径0.98 m、短径0.82 m、深さ0.16 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第55号土壌 (第185図)

第55号土壌はD-3グリッドに位置する。第2

第44号土壌



A 10.80m



S K 44

- 1 暗褐色土 しまりなし
2 暗褐色土 腐土・炭化物少量

第45号土壌



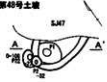
A 18.40m



S K 45

- 1 黄褐色土 ロームブロック多
2 赤褐色土 腐土多量、炭化物含む
3 暗褐色土 腐土少量
4 暗褐色土 炭土少量、炭化物少量

第46号土壌



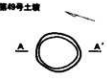
A 8.60m



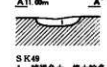
S K 46

- 1 暗褐色土 ローム粒多
2 暗褐色土 ロームブロック少量(柱状)(ピット)
3 暗褐色土 ロームブロック(掘り方)(ピット)

第49号土壌



A 11.00m



S K 49

- 1 暗褐色土 腐土粒多

第52号土壌



A 8.40m



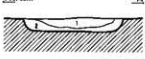
S K 52

- 1 暗褐色土 ローム粒多

第53号土壌



A 8.60m



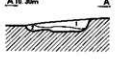
S K 53

- 1 黒褐色土 白色粘土含む
2 黒褐色土 ローム粒多い

第54号土壌



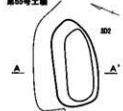
A 18.30m



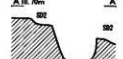
S K 54

- 1 暗褐色土 ローム粒多
2 黄褐色土 ローム多量

第55号土壌



A 18.70m



S K 55

- 1 暗褐色土 ローム粒多

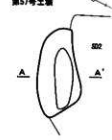
第56号土壌



A 18.50m



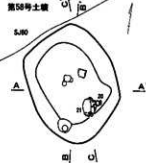
第57号土壌



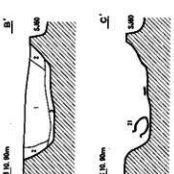
A 10.20m



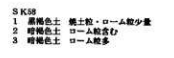
第58号土壌



A 18.90m



A 18.50m



S K 59

- 1 黄褐色土 腐土粒・ローム粒少量
2 暗褐色土 ローム粒含む
3 暗褐色土 ローム粒多

0 2m 1m

第185図 土壌 (3)

号溝跡北岸に沿って作られていた。関連するものであろう。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.34 m、短径0.66 m、深さ0.55 mである。

出土遺物は土師器壺、縄文土器、黒曜石（剥片）である。時期は第2号溝跡との関係から近世後期と推定しておきたい。

第56号土壌（第185図）

第56号土壌はD-4グリッドに位置する。第55号土壌と同様、第2号溝跡と関連すると思われる。

平面形態は楕円形、規模は長径1.46 m、短径0.80 m、深さ0.36 mである。出土遺物はなかった。時期は近世後期と推定しておきたい。

第57号土壌（第185図）

第57号土壌はD-4グリッドに位置する。第55・56号土壌と同様、第2号溝跡と関連するであろう。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.24 m、短径0.64 m、深さ0.36 mである。出土遺物はなかった。時期は近世後期と推定しておきたい。

第58号土壌（第185図）

第58号土壌はD・E-4グリッドに位置する。

平面形態は隅丸長方形で、規模は長径1.64 m、短径1.36 m、深さ0.45 mである。

出土遺物は土師器環と壺（第190図18～21）が出土した。18・19は土師器模倣杯。シャープなつくり。21は胴部上位木口ナデ、中位はナデ、一部ミガキ、下位にはナデを施し、上げ底気味である。時期は6世紀初頭頃である。

第62号土壌（第186図）

第62号土壌はD-4グリッドに位置し、重複する第60号住居跡を切つてつくられていた。

平面形態は楕円形で、規模は長径2.40 m、短径2.00 m、深さ0.30 mである。底面は硬化していた。

出土遺物は鉄鎌1点（第190図22）のほか、土師器壺・壺、埴がある。鎌は基部短辺全体が折り返されるとされる。時期は古代以降であろう。

第64号土壌（第186図）

第64号土壌はF-5グリッドに位置する。重複する第63号住居跡を切っている。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.48 m、短径1.10 m、深さ0.35 mである。

出土遺物は土師器環（第190図23・24）と桃形滓が出土した。いずれも第63号住居跡に帰属するものであろう。時期は不明である。

第66号土壌（第186図）

第66号土壌はG-7グリッドに位置する。

平面形態は不整形で、南端は攪乱を受ける。小土壌が複合する形態である。一部は被熱していた。規模は長径2.60 m、短径1.30 m、深さ0.18 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第67号土壌（第186図）

第67号土壌はD-3グリッドに位置する。第1号溝跡底面に掘り込まれていた。

平面形態は長方形で、規模は長径1.26 m、短径0.68 m、深さ0.66 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明確であるが、第2号溝跡と関連すれば近世後期となろう。

第68号土壌（第186図）

第68号土壌はN-9グリッドに位置する。第11号溝跡の下面から検出された。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.22 m、短径0.84 m、深さ0.18 mである。覆土に炭化物和焼土粒子が多量に含まれる。出土遺物はなかった。時期は不明であるが、古代に遡る可能性がある。

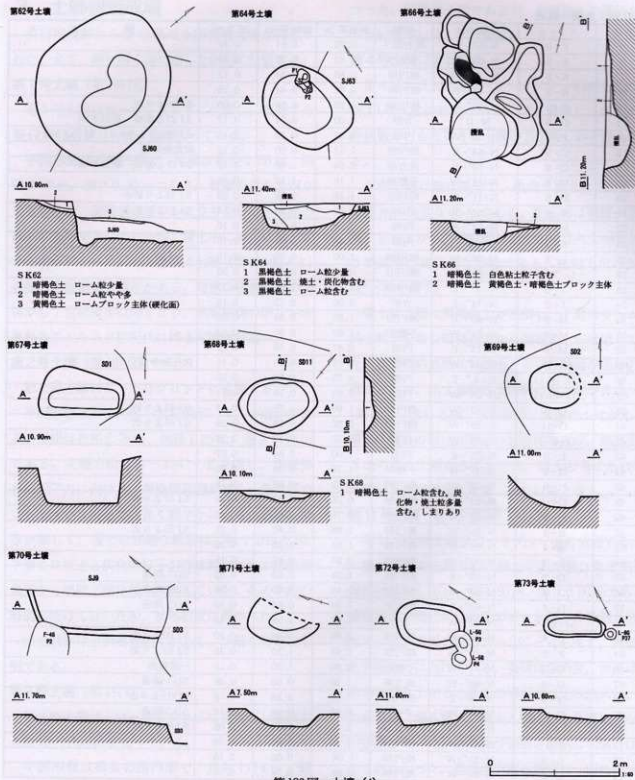
第69号土壌（第186図）

第69号土壌はD-3グリッドに位置する。第2号溝跡屈曲部底面に掘り込まれていた。第2号溝跡と関連する遺構と考えられる。

平面形態は円形で、規模は長径0.80 m、短径0.68 m、深さ0.16 mである。出土遺物はなかった。時期は近世後期と推定しておきたい。

第70号土壌（第186図）

第70号土壌はF-4グリッドに位置する。第9



第186図 土壌 (4)

号住居跡上面に乗っていた。第3号溝跡と関連する可能性が高い。

平面形態は長方形で、規模は長径2.06 m、短径0.62 m、深さ0.80 mである。

出土遺物はなかった。時期は近世後期と推定して

おきた。

第71号土壌 (第186図)

第71号土壌はP-11グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.10 m、短径0.60 m、深さ0.25 mである。

第63表 土壌一覧表

番号	グリッド	主軸方位	形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)	備 考
5	R-9	N-67°-W	長方形?	0.72	0.61	0.18	
6	K-5	N-67°-E	不整形	0.82	0.66	0.40	
7	K-5	N-5°-W	楕円形	0.86	0.54	0.12	
8	K-6	N-74°-E	楕円形	0.66	0.44	0.25	
10	O-9	N-37°-W	楕円形	1.20	0.98	0.20	SJ 26より新
13	O-9	N-0°	方形	1.00	0.94	0.12	SJ 27と重複 新旧不明
14	P-9	N-35°-W	円形	0.88	0.70	0.15	SJ 19よりも古か? SJ 25より新しい
15	O-9	N-64°-E	楕円形	1.15	0.60	0.12	炭化物多量
17	O-9	N-59°-E	長方形	2.04	1.06	0.12	SJ 27と重複 新旧不明
19	M-8	N-15°-W	不整形	1.16	1.12	0.36	
20	M-8	N-11°-E	楕円形	1.10	1.02	0.22	SJ 33より新か
21	M-8	N-61°-E	円形	0.96	0.90	0.14	SJ 33より新か
22	M-7	N-74°-E	円形	0.78	0.74	0.16	
24	K-7	N-0°	円形	0.44	0.44	0.15	
25	L-8	N-28°-W	楕円形	1.00	0.79	0.19	
26	L-7・8	N-25°-W	楕円形	0.86	0.64	0.06	
28	J-6	N-2°-E	楕円形	1.74	1.00	0.33	
29	J-7	N-74°-E	方形	0.80	0.72	0.18	
30	M-9	N-85°-E	楕円形	1.26	0.38	0.30	
31	M-9	N-51°-W	不整形	1.80	0.90	0.22	
32	M-9	N-13°-E	円形	0.87	0.76	0.22	
35	O-10	N-24°-W	円形	0.85	0.76	0.15	炭化物多量
36	O-10・11	N-5°-E	円形	0.70	0.62	0.30	
37	O-10・11	N-24°-W	円形	0.80	0.76	0.11	
38	O-10	N-53°-W	楕円形	1.90	1.75	0.14	SJ 47より新
41	O-11	N-25°-W	楕円形	0.62	0.18	0.26	SJ 46より新
42	O・P-11	N-35°-W	円形	0.72	0.70	0.32	
43	L-9	N-75°-E	円形	1.00	0.94	0.07	
44	M-9	N-6°-W	不整形	1.10	0.84	0.35	
45	N-9	N-52°-W	楕円形	0.82	0.64	0.15	
48	O-10	N-53°-W	楕円形	0.76	0.42	0.18	SJ 47より新
49	K-9	N-16°-W	楕円形	0.70	0.56	0.10	
52	B-4	N-51°-W	楕円形	1.08	0.40	0.25	SJ 55より古
53	B-4	N-39°-W	楕円形	1.54	1.20	0.20	
54	B-3	N-32°-W	楕円形	0.98	0.82	0.16	
55	D-3	N-59°-E	楕円形	1.34	0.66	0.55	SD2関連
56	D-4	N-64°-E	楕円形	1.46	0.80	0.36	SD2関連
57	D-4	N-62°-E	楕円形	1.24	0.64	0.36	SD2関連
58	D・E-4	N-37°-W	方形	1.64	1.36	0.45	
62	D-4	N-28°-W	楕円形	2.40	2.00	0.30	SJ 60より新
64	F-5	N-26°-W	楕円形	1.48	1.10	0.35	SJ 63より新
66	G-7	N-37°-W	不整形	2.60	1.30	0.18	一部被熱
67	D-3	N-88°-W	長方形	1.26	0.68	0.66	SD1関連
68	N-9	N-49°-E	楕円形	1.22	0.84	0.18	SD11より古
69	D-3	N-64°-W	円形	0.80	0.68	0.16	SD2関連
70	F-4	N-40°-W	長方形	2.06	0.62	0.08	SJ 9より新
71	P-11	N-17°-W	楕円形	1.10	0.60	0.25	
72	L-5	N-31°-W	楕円形	1.04	0.66	0.18	
73	L-8	N-61°-W	楕円形	0.96	0.64	0.15	

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第73号土壌(第186図)

第72号土壌(第186図)

第72号土壌はL-5グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.04 m、短径

0.66 m、深さ0.18 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第73号土壌はL-8グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.96 m、短径0.34 m、深さ0.15 mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

3. 土師器焼成墳

荒川附遺跡からは13基の土師器焼成墳が発見された。全て、南に開く谷に面した斜面に位置する。

第1号土墳 (第187図)

第1号土墳はR-9グリッドに位置し、重複する第17号住居跡コーナー部を切っている。

平面形態は長楕円形で、規模は長径1.56 m、短径0.80 m、深さ0.30 mである。奥壁の立ち上がり角度が急で、前壁側は緩やかに立ち上がる。底面の被熱は確認できなかったが、覆土中に炭化物粒子が多く含まれていた。出土遺物は土錘(第190図-1)の他、土師器甕の破片がある。時期は住居跡との関係から7世紀後半以降となる。武蔵型甕の破片が含まれることから8世紀代に降る可能性が高い。

第2号土墳 (第187図)

第2号土墳はR-10グリッドに位置する。

平面形態は長楕円形(無花果形)で、手前が窄まる。規模は長径2.76 m、短径1.25 m、深さ0.72 mである。主軸方位はN-134°-Eを指し、奥壁側を斜面下方に向ける。奥壁側底面が深く、急角度で立ち上がり、前壁部は長く緩やかに立ち上がる。湧水が激しく、覆土の詳細な観察は困難であったが、下層には焼土と炭化物粒子が含まれていた。底面最奥部から奥壁下端は強く被熱していた。その手前の底面は焼けてはいたが、被熱程度は弱かった。

出土遺物は土師器甕細片がある。詳細な時期は不明である。

第3号土墳 (第187図)

第3号土墳は、Q-9グリッドに位置し、重複する第18号住居跡を切っている。

平面形態は横長の楕円形で、長さ1.14 m、幅1.38 m、深さ0.30 mである。当初は焼成墳と認識していなかったが、住居跡と重複する部分(奥壁)内側が弱く被熱し、焼土と炭化物粒子が多量に含まれていた。また、斜面に位置し、奥壁部を斜面下方に向けるため、前壁部が削平されたと考えれば、本来は無花果形の焼成墳の可能性がある。出土遺物はな

かった。時期は不明であるが、住居跡との関係から6世紀後半以降という設定はできる。

第4号土墳 (第187図)

第4号焼成土墳はQ-9・10グリッドに位置する。第19号住居跡南東コーナー部と重複し、床面の遺存状態などから第4号土墳の方が新しいと考えられる。

平面形態は無花果形で、規模は長さ2.22 m、幅1.15 m、深さ0.63 mである。断面形は奥壁が急角度で立ち上がり、前壁部は緩やかに立ち上がるという焼成墳の典型的な形態である。主軸方位はN-52°-Wを指す。

覆土は上層に黒褐色土が堆積し、下層はロームや焼土粒子を含む暗褐色土から明褐色土が堆積していた。奥壁側の底面には焼土と弱い被熱面が部分的に確認された。出土遺物は土師器の壺と埴が2点(第190図2・3)の他、須恵器平・長頸壺小片がある。第190図2の埴は完形近いものであるが、確認面下8 cmの覆土上層から出土した。混入と考えられる。時期は8世紀前半または、それ以降となる。

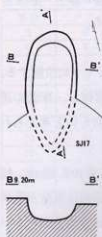
第11号土墳 (第187図)

第11号焼成土墳はO-9グリッドに位置する。

最大規模の土師器焼成墳で平面形態は無花果形、規模は長さ3.06 m、幅1.80 m、深さ0.90 mである。遺構内及び周辺には後世のピット群が多数掘り込まれていた。主軸方位はN-19°-Wを指す。奥壁側を斜面上方に向けている。奥壁は急角度、前壁は緩やかに立ち上がる。底面の平坦面は比較的広い。覆土最下層(第6層)に焼土と炭化物を多量に含む層が堆積していた。底面及び側壁の被熱は明確には認められなかった。奥壁部下端と側壁の一部は弱い被熱箇所が観察された。

出土遺物は土師器平小片が4点(第190図4~7)である。遺物の時期は7世紀後半~8世紀前半と考えられる。4~6は北武蔵型環で、焼成墳の時期を反映すると考えても違和感はない。7は異系統の環である。

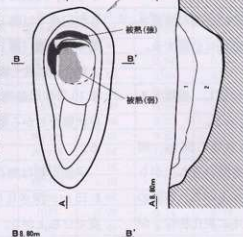
第1号土壌



SK1

- 1 暗褐色土 炭化物を少量含む。しまりなし
2 茶褐色土 ロームブロックを多量に含む
炭化物含む。粘性・しまりあり

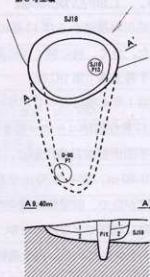
第2号土壌



SK2

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む
炭化物少量。しまりなし
2 黒褐色土 ロームブロック、
ローム粒含む。焼
土粒子・炭化物粒
子含む

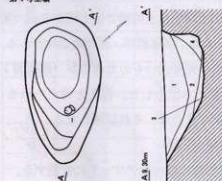
第3号土壌



SK3

- 1 黒褐色土 炭化物少量。焼土粒子多
2 黒褐色土 炭化物・焼土粒子多

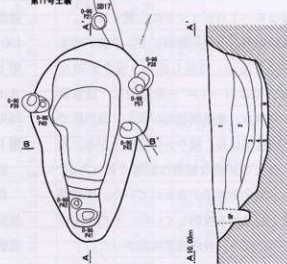
第4号土壌



SK4

- 1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子やや多
焼土ブロック少量
3 暗褐色土 焼土粒子多量。部分的に底面被熱
4 明褐色土 ロームブロック多量。焼土・炭化物
少量混じる

第11号土壌



SK11

- 1 黒褐色土 ローム粒多
2 暗褐色土 ローム粒多。焼土粒若干
3 黒色土 ローム粒多
4 暗褐色土 炭化物・焼土多
5 暗褐色土 ロームブロック多い
6 暗褐色土 炭化物・焼土粒多量
5層より暗い

第12号土壌



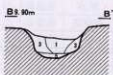
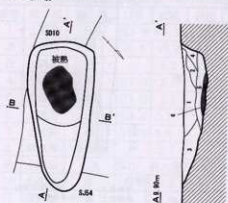
SK12

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量
しまりあり
2 褐色土 上の暗褐色土少量含む
しまり・粘性あり
3 暗赤褐色土 焼土ブロック・焼土粒多量
しまり少ない。粘性なし



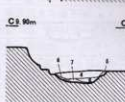
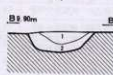
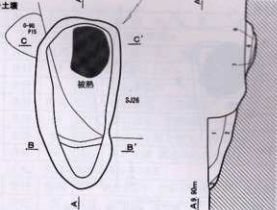
第187図 焼成土壌(1)

第16号土壌



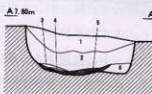
- SK 16
- | | |
|---------|--------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物含む |
| 2 暗褐色土 | 炭化物多量、焼土粒少量 |
| 3 暗褐色土 | 粘性あり、焼土粒少量含む |
| 4 暗赤褐色土 | ロームブロック含む |
| 5 暗赤褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量含む |
| 6 赤色焼土 | 焼土粒・焼土ブロック多量含む(被熱) |

第18号土壌



- SK 18
- | | | | |
|--------|---------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒多 | 4 暗褐色土 | 炭化物・焼土含む(下面被熱) |
| 2 暗褐色土 | ローム粒少量 | 5 暗褐色土 | ロームブロック含む |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック多 | 6 暗褐色土 | 被熱焼土(被熱) |
| | | 7 暗褐色土 | ローム主体、焼土粒子少量含む |

第39号土壌



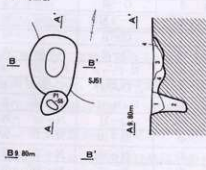
- SK 39
- | | |
|--------|-----------------|
| 1 暗褐色土 | 上層の砂を少量含む、炭化物含む |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒極少、しまり弱 |
| 3 暗褐色土 | 焼土ブロック多 |
| 4 暗褐色土 | 炭化材の層 |
| 5 暗褐色土 | 焼け面 |
| 6 暗褐色土 | ロームブロック含む(縦り方) |

第40号土壌



- SK 40
- | | |
|--------|---------------------|
| 1 暗褐色土 | 砂・炭化物粒子を少量含む |
| 2 暗褐色土 | 焼土ブロックを少量、炭化材を多量に含む |
| 3 暗褐色土 | 被熱、焼土面 |
| 4 暗褐色土 | 縦り方? |

第46号土壌



- SK 46
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 炭化物粒子多、焼土粒少量 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒少量、ローム粒子・炭化物粒子微量含む |
| 3 暗褐色土 | |
| 4 暗褐色土 | |



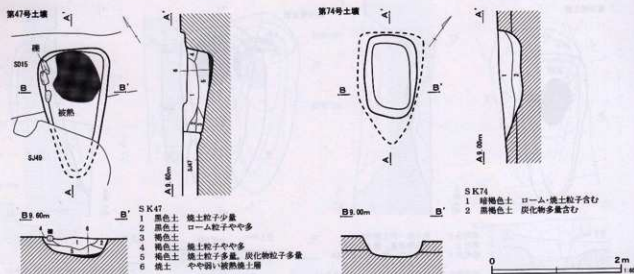
第188図 焼成土壌 (2)

第12号土壌 (第187図)

第12号土壌はO-9グリッド、第11号土壌と第18号土壌の2基の焼成土壌の間に位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長径1.60m、短径1.02m、深さ0.12mである。主軸方位は図示した

位置で、N-36°-Wを指すが、おそらく上面が削平されており、正確な形態とはいえない。断面形から判断すると図上の右側(北東壁)が奥壁になるのかもしれない。底面は一部被熱箇所が確認された。但し、被熱程度は弱いものであった。



第189図 焼成土壌 (3)

第64表 土器焼成墳一覧表

番号	グリッド	主軸方位	形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)	備考
1	R-9	N-14°-E	長楕円形	1.56	0.80	0.30	SJ17より新
2	R-10	N-134°-E	無花果形	2.76	1.25	0.72	底面被熱
3	Q-9		楕円形	1.14	1.38	0.30	SJ18より新 本来無花果形か
4	Q-9-10	N-52°-W	無花果形	2.22	1.15	0.63	SJ19より新 増は混入か
11	O-9	N-19°-W	無花果形	3.06	1.80	0.90	SD17より古
12	O-9	N-36°-W	楕円形	1.60	1.02	0.12	
16	N・O-9	N-137°-W	長三角形	2.30	1.02	0.36	SJ28より新か
18	O-9	N-143°-E	無花果形	2.64	1.29	0.69	SJ26より新
39	Q・R-11	N-44°-E	不明	1.02	1.68	0.66	長三角形か 底面強く被熱
40	Q-11	N-63°-W	長三角形	1.68	0.81	0.28	焼土・炭化材多量
46	O-10	N-7°-W	楕円形	0.96	0.72	0.18	SJ51より新 壁が弱く被熱
47	N-10	N-33°-E	長三角形	1.32	1.10	0.50	SJ49より新
74	R-9	N-38°-W	長方形	1.29	0.81	0.36	SJ17より新 本来長三角形か

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第16号土壌 (第188図)

第16号土壌はN・O-9グリッドに位置し、第28号住居跡・第10号溝跡と重複する。新旧関係は第10号溝跡に上面を削平されており、第28号住居跡との関係は判然としませんが、第16号焼成土壌の方が新しいと判断した。

平面形態は長三角形で、規模は長さ2.30m、幅1.02m、深さ0.36mである。奥壁が急角度、前壁に向かって緩やかに立ち上がる典型的な土器焼成墳の形態である。出土遺物は須恵器長頸瓶、土玉(第190図8・9)の他、土器器蓋・壺がある。時期は8世紀代と推定しておきたい。

第18号土壌 (第188図)

第18号土壌はO-9グリッドに位置する。第26号住居跡と重複する。当初、焼成墳との認識がなく、新旧関係は不明確であったが、住居跡床面に焼成墳の被熱面が検出されたことから、第18号土壌の方が新しいことが確定した。

平面形は無花果形、奥壁を斜面下方に向ける焼成墳と考えられる。規模は長さ2.64m、幅1.29m、深さ0.69mである。奥壁は住居跡調査に伴い削平してしまったが、前壁部は遺存していた。焼成墳の通例どおり、前壁部に向かって緩やかに立ち上がる。主軸方位はN-143°-Eを指す。

覆土は上層に黒褐色土が厚く堆積していた。奥壁

第65表 土壌出土遺物観察表 (第190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土製品	土器	SK1	長さ7.3cm	最大径1.7cm	厚さ1.7cm	孔径0.5cm	18.26g	残存率95%	
2	土器	壺	11.4	10.9	5.1	95	C・E・I	良好	橙褐	SK4 №1 (床-8) 胴部ヘラケズリ 内面指ナデ
3	土器	壺	—	3.7	(9.0)	25	C・I	良好	褐	SK4 胴部粗いミガキ
4	土器	坏	(11.6)	2.1	—	5	C	良好	褐	SK11 北武蔵型坏
5	土器	坏	(11.6)	2.5	—	5	C・E・I	良好	橙褐	SK11 器面風化 北武蔵型坏
6	土器	坏	(13.2)	3.3	—	20	E・I・L	良好	褐	SK11 粗い胎土 初期模倣坏か
7	土器	鉢	(11.8)	4.6	—	20	C・D・E・I・L	良好	褐	SK11 SK11-6と同じ胎土 源初坏か
8	須恵器	長頸瓶	—	2.1	8.7	75	I・J	良好	灰	SK16 南北企業 高台中心凹む
9	土製品	土玉	SK16	最大径2.2×2.4cm	最大高2.2cm	10.6g	孔径0.5cm	残存率100%		
10	土器	坏	(10.8)	3.2	—	15	C・I・J	良好	暗褐	SK21 純比企型坏 赤彩不明(無彩) 白色針状物質入る
11	須恵器	壺	—	8.6	—	25	I	良好	灰	SK24 湖西産 肩部平行叩き 自然釉 口縁欠損
12	須恵器	瓶類	—	2.4	(5.0)	25	I	良好	灰	SK24 湖西産 長頸瓶または平瓶
13	須恵器	長頸瓶	—	3.3	(8.0)	25	I・K	良好	灰	SK24 湖西産 内面当具痕 胴部下端〜底部回転ヘラケズリ
14	須恵器	磨鉢	—	6.0	(10.0)	20	C・I	良好	灰	SK24 外面濃緑色の自然釉 未野産?
15	須恵器	坏	—	1.7	(7.5)	20	C・J	良好	灰	SK24 南北企業 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ
16	須恵器	壺	—	—	—	5	I	良好	灰	SK24 湖西産大壺 標指波状文・列点文
17	土器	壺	(17.7)	8.1	—	20	C・E・H・I・L	良好	明褐	SK53 №1 (床+5) 胴部ヘラケズリ後ナデか
18	土器	坏	(12.8)	4.2	—	15	C・I	良好	褐	SK58 胎土精良
19	土器	坏	(12.8)	4.4	—	20	C・H・I	良好	明褐	SK58 胎土精良
20	土器	壺	—	1.5	8.0	95	A・C・E・H・I・L	普通	褐	SK58 №2 (床+5) 雲母多い 常陸産か 凹みあり
21	土器	壺	17.0	26.8	6.0	90	A・B・E・C・H	良好	暗褐	SK58 №1 (床+3) 底部内面及び外面の一部に煤が付着
22	鉄製品	鏝	SK62	現存長4.0cm	現存幅2.2cm	厚0.3cm				
23	土器	坏	(11.4)	3.2	—	65	C・E	良好	橙	SK64 北武蔵型坏
24	土器	坏	(11.0)	2.6	—	5	H・I	良好	褐	SK64 純比企型模倣坏 赤彩

側底面は焼土と炭化物が堆積し、下底は被熱面を形成していた。出土遺物はなかった。時期は住居跡との関係から7世紀中葉以降という限定はできる。

第39号土壌 (第188図)

第39号土壌はQ・R-11グリッドに位置する。B区とC区に調査を分割したため、部分調査に留まったが、谷に平行するように掘り込まれたと推定される。

平面形態は不明であるが、長三角形となるものと予想される。残存規模は長さ(奥行き)1.02m、幅1.68m、深さ0.66mである。覆土上層には炭化物混じりの黒色土、下層にはローム混じりの暗褐色土が堆積していた。底面は良く焼けた被熱層が形成されていた。

出土遺物は土器器表細片がある。時期は不明である。

第40号土壌 (第188図)

第40号土壌はQ-11グリッド、谷部斜面に位置する。第39号土壌(土器器表焼成)は南西約2.5mにある。

平面形態は長三角形で、規模は長さ1.68m、幅0.81m、深さ0.28mである。奥壁側を斜面上方にに向けて掘削されていた。奥壁は急角度、前壁側は緩やかに立ち上がる。覆土中層から下層にかけて炭化材と焼土が多量に検出された。炭化材は燃料の薪と考えられる。底面は弱い被熱面は見られたが、第39号土壌のような焼け面は検出されなかった。

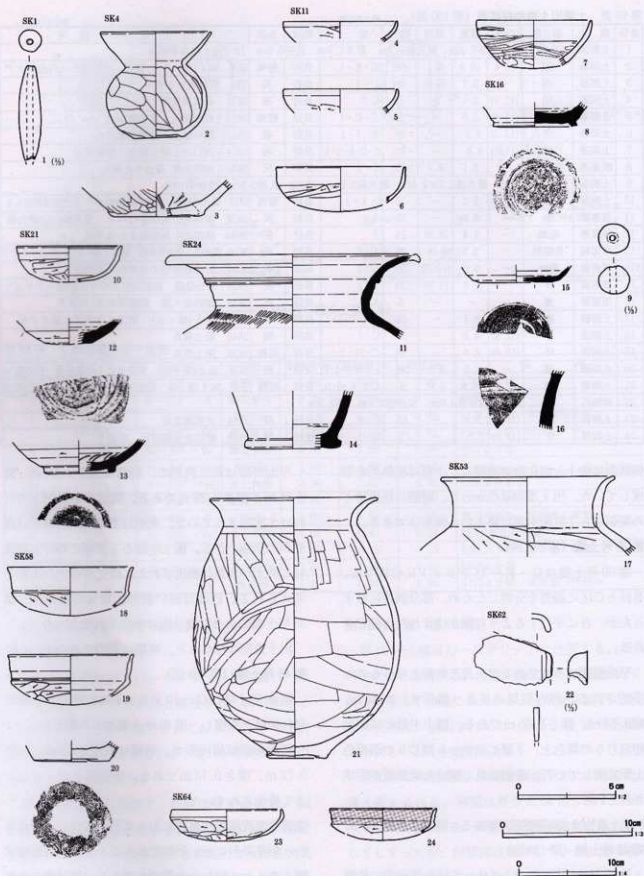
出土遺物はなかった。時期は不明である。

第46号土壌 (第188図)

第46号土壌はO-10グリッドに位置する。第51号住居跡と重複し、第46号土壌の方が新しい。

平面形態は楕円形で、規模は長径0.96m、短径0.72m、深さ0.18mである。前壁側をビットによって攪乱されていた。

遺構確認段階で、奥壁に沿って弱い被熱面が確認され、無花果形に近い形態であることから土器器表焼成と考へた。但し、小型であること、奥壁側の立ち上がりがあり急角度にならない、また底面の被熱層は検出されないなど典型例とはやや異なる点もある。



第190図 土墳出土遺物

る。

出土遺物は土師器壺細片がある。時期は不明確であるが、第51号住居跡との関係から8世紀前半またはそれ以降という限定は可能である。

第47号土壌 (第189図)

第47号土壌はN-10グリッドに位置する。重複する第49号住居跡に切られていた。また、上面に第15号溝跡が乗っていた。

平面形態は長三角形と推定され、残存規模は長さ1.32m、幅1.10m、深さ0.50mである。傾斜変換点付近に構築されていたが、奥壁側は斜面上方に向いていた。奥壁は直立し、底面は平坦であるが、前壁側に向かって僅かに傾斜していた。左側壁に沿って礫が3個検出された。当初、遺構に伴うと考えていたが、第15号溝跡に帰属する可能性もあろうか。

覆土上層には炭化物、下層には焼土粒子を多量に含む褐色土が堆積していた。奥壁側の底面は焼土粒子と共に、弱い被熱面が観察された。

出土遺物は土師器壺細片がある。時期は不明確であるが、第49号住居跡との関係から7世紀後半またはそれ以前という限定はできる。

第74号土壌 (第189図)

第74号土壌はR-9グリッドに位置し、重複する第17号住居跡を切っている。住居跡内部に掘り込まれていたため、焼成壊と気付かず調査を進めてしまった。

床面で確認した形態は隅丸長方形で、規模は長さ1.29m、幅0.81m、深さ0.36mである。断面形は奥壁側が直立し、前壁側が緩やかに立ち上がる焼成壊通有の形態である。また、覆土中に炭化物が多量に含まれ、奥壁側の立ち上がり付近に弱い被熱面が観察されたことから土師器焼成壊の可能性が高いと考えた。おそらく点線で示したような長三角形の形態を探るものと考えている。

出土遺物はなく、時期は不明である。第17号住居跡との関係から7世紀後半またはそれ以降との限定は可能である。

4. 溝跡

第1号溝跡 (第191図)

第1号溝跡はD-3グリッドに位置する。SD2の西側に位置し、ほぼ平行して南に延びる。両者は覆土も近似しており、関連する可能性が高い。第5号住居跡と第67号土壌とに重複しており、第5号住居跡より新しく、第67号土壌は溝跡と関連する土壌の可能性もある。規模は長さ6.50m、幅2.20m、深さは0.10mほどである。出土遺物はない。時期は不明であるが、近世後期と推定しておきたい。

第2号溝跡 (第191図)

第2号溝跡は、C-4・5、D-3・4、E-3・4グリッドに位置する。

規模は南北辺30m、東西辺13m、幅3m、深さ0.60mで、鍵の手状に屈曲する。重複する第6・7・60号住居跡よりも新しい。東西辺に取り付く第55・56・57号土壌とコーナー部に位置する第69号土壌は溝跡に関連する遺構と推定される。

出土遺物は陶器の鐙鉢、釘・鉄製棒状品 (第197図1～3) がある。時期は近世後期であろう。

第3号溝跡 (第192図)

第3号溝跡はE-5・6、F-4・5グリッドに位置する。調査区を北東から南西に横断し、途中で2条に分岐する。規模は長さ28.20m、幅2.65m、深さ0.50mで、断面は逆台状である。重複する第9・13・62号住居跡を切っていた。第70号土壌は本溝跡と関連する可能性がある。

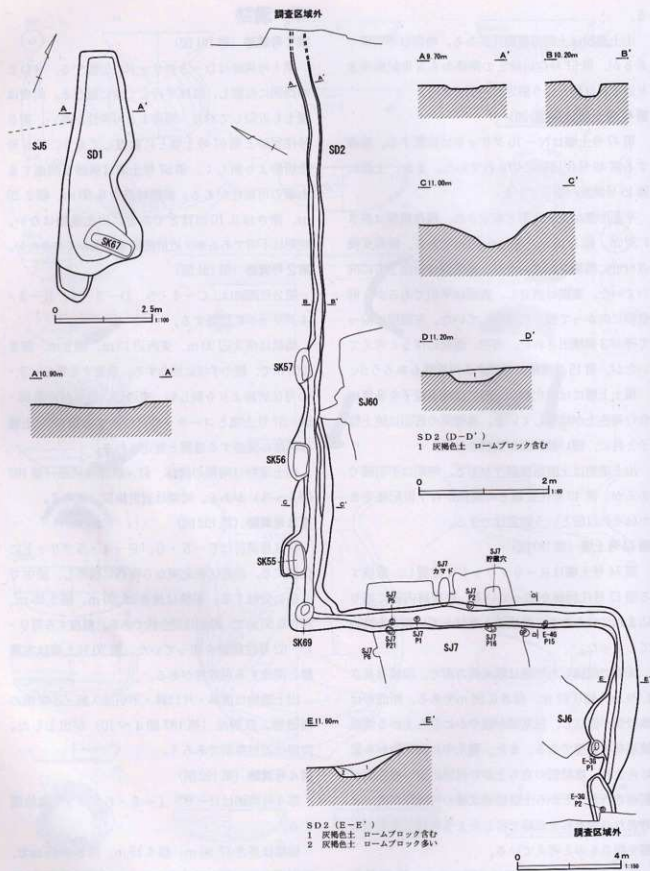
出土遺物は鐙鉢・片口鉢・不明品・碗・小型碗の陶磁器、鉄製品 (第197図4～10) が出土した。時期は近世後期であろう。

第4号溝跡 (第192図)

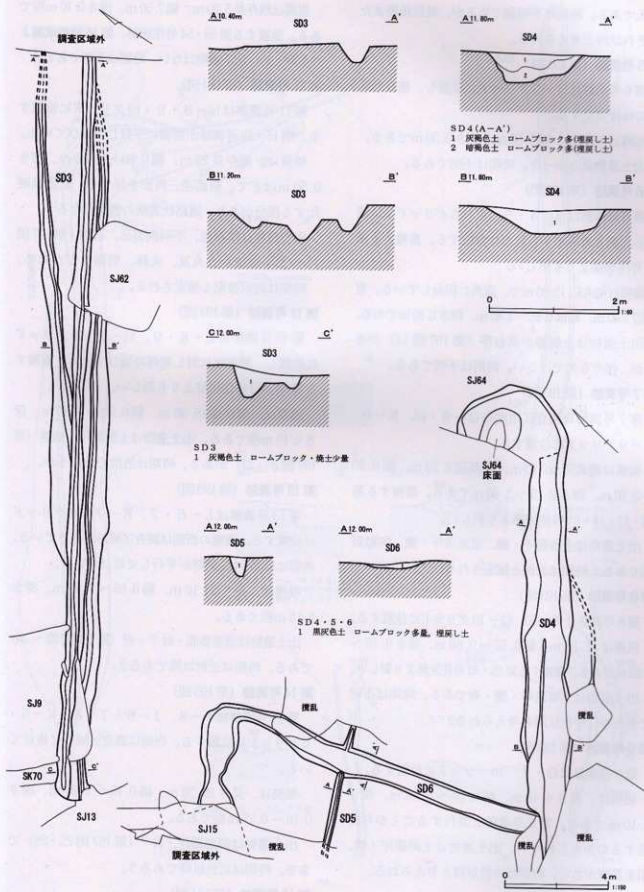
第4号溝跡はH-6、I-5・6グリッドに位置する。

規模は長さ17.90m、幅4.15m、深さ0.45mで、断面逆台形に掘り込まれていた。重複する第64号住居跡よりも新しい。

出土遺物は須恵器環 (第197図-11) があるが、



第191図 溝跡(1)



第192図 溝跡(2)

混入である。時期は不明であるが、近世後期またはそれ以降と考えられる。

第5号溝跡 (第192図)

第5号溝跡はH-5グリッドに位置し、第6号溝跡にほぼ直交する。

規模は5.20m、幅1.50m、深さ0.30mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第6号溝跡 (第192図)

第6号溝跡はH-4・5、I-5グリッドに位置する。第4号溝跡から北方に分岐する。重複する第15号住居跡よりも新しい。

規模は南北辺13.20mで、直角に屈曲している。東西辺3.60m、幅は0.55～1.45m、深さ0.10mである。

出土遺物は土師器の高台杯 (第197図12) があるが、伴うものではない。時期は不明である。

第7号溝跡 (第193図)

第7号溝跡は調査区南端のQ-9・10、R-9、S-9グリッドに位置する。

規模は南北辺16.10m、東西辺8.20m、幅0.30～2.20m、深さ0.15～3.50mである。重複する第16・17・18・21号住居跡より新しい。

出土遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕、陶磁器碗である。時期は近世と推定される。

第8号溝跡 (第193図)

第8号溝跡はP-10、Q-10グリッドに位置する。

規模は11.25m、幅0.55～0.80m、深さ0.10～0.20mである。重複する第25・43号住居跡より新しい。

出土遺物は土師器杯・甕・壺である。時期は不明であるが、中世以降と考えられる。

第9号溝跡 (第193図)

第9号溝跡はO・P-10グリッドに位置する。

規模は、長さ4.40m、幅0.20～0.90m、深さ0.10mである。第8号溝跡と直行することから関連するのかもしれない。出土遺物は土師器杯・甕、須恵器甕がある。時期は中世以降と考えられる。

第10号溝跡 (第193図)

第10号溝跡はN-9、O-9グリッドに位置する。

規模は残存長5.90m、幅7.50m、深さ0.10m程である。重複する第28・54号住居跡、第16号焼成坑よりも新しい。出土遺物はない。時期は不明である。

第11号溝跡 (第194図)

第11号溝跡はN-8・9・10グリッドに位置する。第15・16号溝跡が南側に平行して延びている。

規模は、現存長23m、幅0.80～1.85m、深さ0.50mほどで、断面逆三角形を呈する。底面は硬化する部分があり、道路状遺構の側溝となろう。

出土遺物は陶器皿、不明鉄製品、石鏃 (第197図17～19) のほか、丸瓦、火鉢、焙烙などがある。

時期は近世後期と推定される。

第12号溝跡 (第194図)

第12号溝跡はL-8・9、M-7・8グリッドに位置し、調査区に対し東西に延びている。重複する第33・40号住居跡よりも新しい。

規模は、現存長19.90m、幅0.90～1.50m、深さ0.10m程である。出土遺物は土師器杯、焙烙 (第197図20・21) がある。時期は近世であろうか。

第13号溝跡 (第195図)

第13号溝跡はL-6・7、K-7・8グリッドに位置する。遺構の西側は調査区域外に抜けている。南側には第14号溝跡が平行して延びている。

規模は、長さ33.10m、幅0.65～1.95m、深さ0.15m程である。

出土遺物は須恵器皿・鉢?・壺 (第197図22～24) である。時期は近世以降であろう。

第14号溝跡 (第195図)

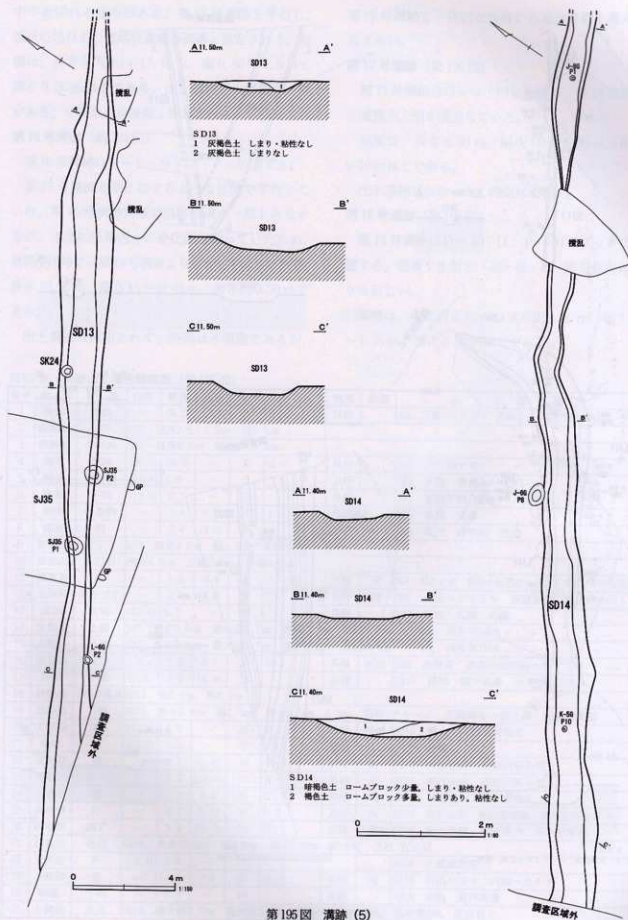
第14号溝跡はI-8、J-6・7・8、K-5・6グリッドに位置する。西側は調査区域外に抜けている。

規模は、長さ39.70m、幅0.15～1.90m、深さ0.10～0.25m程である。

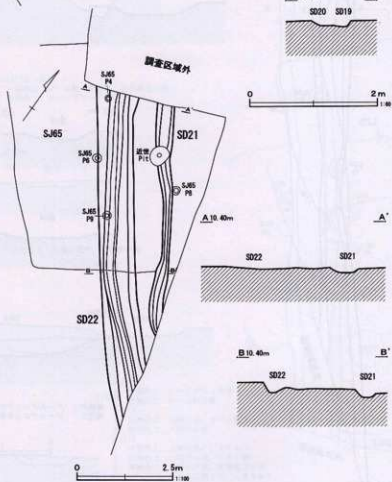
出土遺物は須恵器杯・鉢? (第197図25・26) である。時期は近世以降であろう。

第15号溝跡 (第194図)

第15号溝跡はN-8・9グリッドに位置し、途



第195図 溝跡 (5)



中で途切れる箇所がある。第11号溝跡と平行し、弧状に延びる。道路状遺構の側溝と推定される。規模は、長さ7.70m+13.10m、幅0.30～1.30m、深さ0.20mほどである。出土遺物は土師器・甕がある。時期は近世後期と推定される。

第16号溝跡 (第194図)

第16号溝跡はN-8・9グリッドに位置する。

第15号溝跡北側に接するような位置で平行していた。第15号溝跡同様道路跡側溝の一部とみなせるが、上面に灰褐色土の硬化面が乗っていたため、最終使用時には第15号溝跡よりも古い可能性がある。長さ10.95m、幅0.15～0.45m、深さ約0.30mである。

出土遺物は検出されず、時期は不明確であるが、

第15号溝跡と一体的な性格から近世後期と考えておきたい。

第17号溝跡 (第196図)

第17号溝跡はO-9・10に位置し、第11号焼成土壌覆土上面を通過していた。

規模は、長さ6.30m、幅0.15～0.30m、深さ0.10mほどである。

出土遺物はなかった。時期は不明。

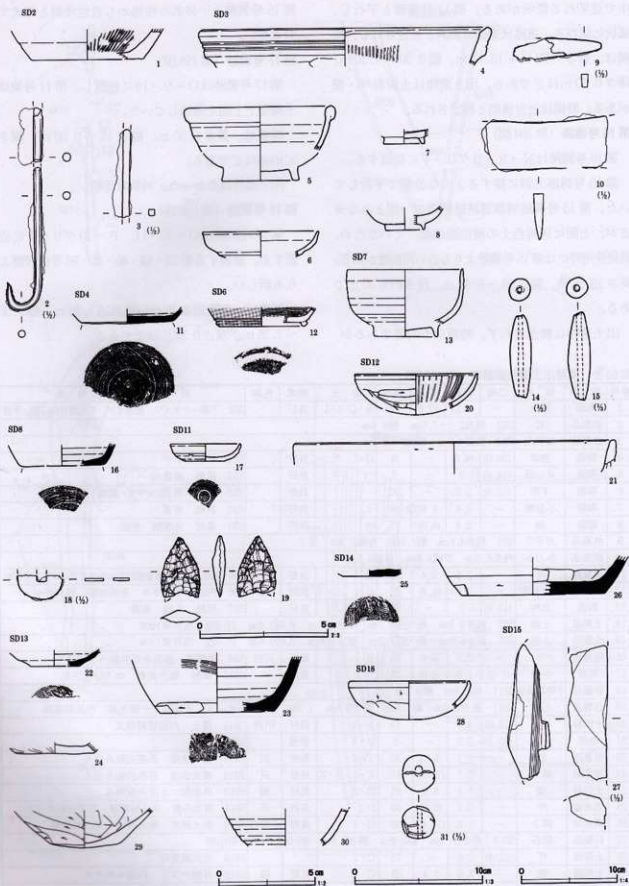
第18号溝跡 (第196図)

第18号溝跡はO-10・11、P-10グリッドに位置する。重複する第23・44・46・47・50号住居跡よりも新しい。

規模は、南北辺8.70m、東西辺3.30m、幅7.50～1.35m、深さ0.30mほどである。

第66表 溝跡出土遺物観察表 (第197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	陶器	擂鉢	—	(3.2)	12.0	20	E・G・I・L	良好		SD2 下堀ヘラケズリ 底面ナデ 内面覆目7本1組 平滑
2	鉄製品	釘	SD2	残長2.2+7.5cm	径0.4cm					
3	鉄製品	棒状品	SD2	残長4.6cm	幅0.3×0.3cm					
4	陶器	擂鉢	(30.0)	(4.0)	—	5	G・I	良好		SD3 片口部ナデ
5	陶器	片口鉢	(14.8)	4.6	—	5		良好		SD3 灰釉 美濃か
6	陶器	不明	(12.0)	2.7	—	20		良好		SD3 器種不明(皿か?) 錆釉
7	陶器	小型碗	—	1.4	4.3	90	I	良好		SD3 鉄釉 美濃
8	磁器	碗	—	2.4	(4.0)	15		良好		SD3 染付 透明釉 肥前
9	鉄製品	刀子?	SD3	残長4.6cm	幅1.0cm	青幅0.3cm	蓋?			
10	鉄製品	小刀か		残長6.5cm	刀幅2.5cm	青幅0.5cm				
11	須恵器	坏	—	1.5	9.4	40	D・I・J	良好	灰	SD4 南北企産 底部全面回転ヘラケズリ ロクロ右回転
12	土師器	高台付坏	—	2.0	(8.8)	25	C・I	良好	褐	SD6 内面ヘラミガキ 全面赤彩 盤状坏か
13	陶器	丸鉢	(12.0)	5.7	—	20		良好		SD7 灰釉 丸鉢 美濃
14	土製品	土鉢	SD7	長さ6.5cm	最大径1.7cm	厚さ1.7cm	孔径0.4cm	17.58g	残存率100%	
15	土製品	土鉢	SD7	長さ6.9cm	最大径1.7cm	厚さ1.6cm	孔径0.4cm	17.92g	残存率100%	
16	須恵器	坏	—	2.2	8.4	20	B・I	良好	灰白	SD8 末野産 底部全面回転ヘラケズリ
17	陶器	小皿	(7.2)	1.8	(4.0)	25		良好		SD11 錆釉 瀬戸美濃 ロクロ右回転
18	鉄製品	不明鉄製品	SD11	径2.3cm	厚0.1cm					
19	石製品	石鉢	SD11	長さ2.4cm	幅1.5cm	厚さ0.5cm	1.38g	石材:チャート	正脚部を一部欠損 凹蓋無蓋蓋	
20	土師器	坏	(12.8)	3.6	—	15	E・I	良好	明褐	SD12 覆土 内面放射状暗文
21	焙烙		(33.3)	3.3	—	5	C・I	普通		SD12 瓦質
22	須恵器	皿	—	1.7	(5.1)	30	I・J	良好	灰	SD13 南北企産 底部回転系切り
23	須恵器	鉢?	—	5.7	(12.0)	15	E・I・J・K	良好	灰	SD13 南北企産 底部回転系切り
24	土師器	壺	—	1.1	8.0	85	D・E	良好	褐	SD13 外面粗いミガキ痕残る
25	須恵器	坏	—	0.7	(5.6)	50	I・J	良好	灰	SD14 南北企産 見込部摩滅 底部回転系切り
26	須恵器	鉢?	—	3.8	(15.0)	30	H・I	良好	灰黄白	SD14 胎土緻密 東海産か 見込部摩滅
27	石製品	砥石	SD15	長さ10.3cm	幅3.0cm	厚さ2.8cm	96.04g	石材:安山岩		
28	土師器	坏	(12.4)	2.8	—	15	C・I			SD18 北武蔵型坏
29	土師器	壺	—	3.9	7.4	55	C・I	良好	褐	SD18 外面ケズリ 内面ヘラナデ
30	陶器	不明	—	3.9	—	10		良好		SD18 灰釉 瀬戸美濃
31	土製品	土玉	SD18	最大径2.5cm	最大高2.5cm	孔径0.4cm	8.48g	残存率50%	圧痕有り	



第 197 図 溝跡出土遺物

出土遺物は土師器環・壺、古瀬戸器種不明、土玉(第197図28～31)のほか、須恵器環がある。時期は15～16世紀であろうか。

第19号溝跡(第196図)

第19号溝跡はJ-8・9グリッドに位置する。溝の東は調査区外に抜け、西側は攪乱によって切られている。重複する第20号溝跡を切っていた。規模は、長さ5.20m、幅0.30m、深さ0.10mほどである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第20号溝跡(第196図)

第20号溝跡はI-9、J-8・9グリッドに位置し、第19号溝跡に切られていた。規模は長さ5.80m、幅1.00m、深さ0.10m程である。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

第21号溝跡(第196図)

第21号溝跡はF-7グリッドに位置する。平行する第22号溝跡と関連すると思われる。第3号溝跡とほぼ直交する位置関係である。重複する第65号住居跡を切っていた。規模は、長さ6.00m、幅0.20～0.50m、深さ0.10m程である。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

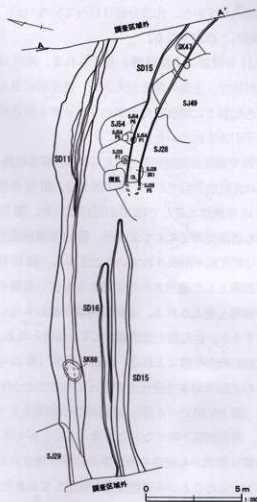
第22号溝跡(第196図)

第22号溝跡はF-7グリッドに位置する。第21号溝跡と平行し、重複する第65号住居跡よりも新しい。規模は、長さ8.90m、幅1.10m、深さ0.15m程である。出土遺物はなく、時期は不明である。

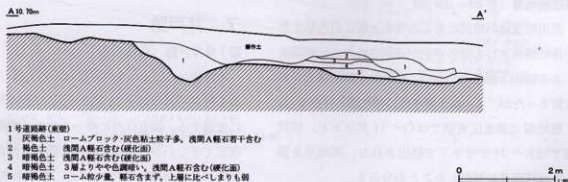
5. 道路跡

第1号道路跡(第198・199図)

第1号道路跡は調査区南域のN-8～10グリッドに位置する。平坦な台地から谷部に移行する傾斜変換点にほぼ一致し、谷を取り巻くように緩やかな弧を描いて延びている。道路は第11号溝跡と第15



第198図 第1号道路跡見取り図



第199図 第1号道路跡(東壁)

号溝跡を側溝とし、調査区を横断するように東西に抜けていた。

道路路面の幅は1.50 m～2.55 m、削平された部分もあるが、第16号溝跡上面及び東半部を中心に灰褐色で非常に硬く締まった面（硬化面）が観察された。灰褐色の硬化面には白色火山灰と思われる粒子が混入していた。化学分析は行っていないが、浅間A軽石と推定される。

第11号溝跡は北側側溝と考えられる。断面は逆三角形状で、上部の開きが大きい。硬化面に見られる灰色粘質土に類似した土壌のブロックと灰色粘質土粒子が含まれていた。

第15号溝跡は南側側溝と考えられる。深さは浅く、底面は比較的平坦である。西半部では、第16号溝跡が第15号溝跡と並んで約10 m延びていた。第16号溝跡も道路側溝と考えてよいが、第16号溝跡覆土上面には硬化面が形成されていたことから、第15号溝跡が側溝として使用された段階よりも古い段階の道路跡側溝と考えられる。北側側溝幅が変わらないと仮定すると、古段階の道路幅は1.5 m前後となる。

東端の断面観察によれば、南側の側溝（第15号溝跡）の北側半分まで硬化面が覆っていることが判明した（第199図2～4層）。道路路面が側溝上まで進出し、南側側溝が狭くなったと考えることができる。

時期は側溝から焙烙や瀬戸系の錆釉の施された小皿が出土したことから近世後期と推定しておきたい。

6. 谷部整地層

谷部整地層（第200・201図）

荒川附遺跡の南側にある谷部の上層に白色粘土を主体に構成される層の存在が確認された。分割調査による制約と湧水のために、やむなく断面調査のみに留まったが、この粘土層を仮に整地層と呼称した。

整地層は調査区東壁ではO-11グリッド、南壁部ではR-11グリッドで検出された。両地点を繋ぐとほぼ南北に展開したことが分かる。

まず東壁の第200図A-A'断面からみると、古

代の住居跡埋没後につくられていることがわかる。

第8層が白色粘土を主体とする層で、上面は平坦面が形成されている。第9層は灰色の粘質土が主体となる。白色粘土ブロックも多量に混入するが、不規則に混じりきれいな面はつからない。第9層底面は波状で起伏が顕著である。第8・9層堆積土の北側にある第10・11層と、南側の第12・13層は土壌状の掘込みと思われる。

第11層は灰色粘土ブロック、第11層は白色粘土の大ブロックがランダムに混じっていた。第12・13層には鉄分が多量に含まれていた。鉄分は第2・6層にも多量に含まれており、その影響なのかもしれない。第5層には白色粘土ブロックが多量に含まれていた。

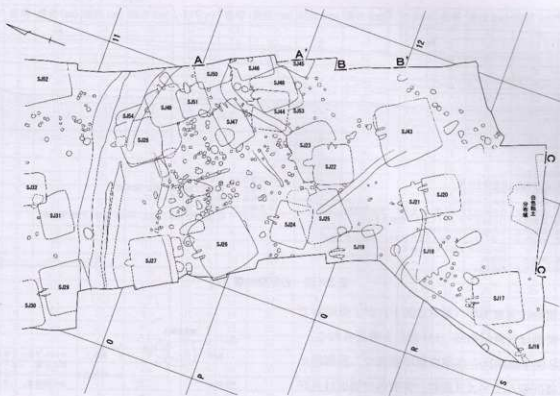
南壁部では大きく2枚の白色粘土層がある。下面は第201図第14層である。その分布範囲は第200図に示した。調査区際の谷部黒色有機質土層を切り込むように検出された。上層の白色粘土帯は第8～12層（13層も含むか）が相当しよう。全体に地形に沿って西から東に傾斜しており、底面は起伏が顕著であった。

性格は不明である。白色粘土ブロックがランダムに混じる状況からは洪水等の影響も想定されるが、断定できなかった。また、帯状に分布する状況からは、道路的性格も考えておく必要はあろう。白色粘土の由来も現状では不明である。時期は堆積層の関係から中世またはそれ以降（近世まで）と推定される。

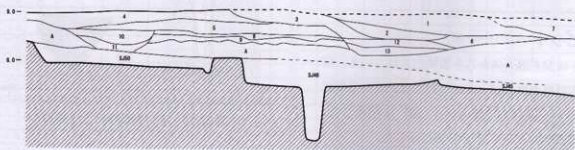
7. 井戸跡

第1号井戸跡（第202図）

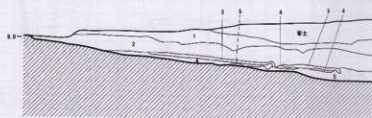
本遺跡から出土した井戸跡はこの1基のみである。第1号井戸跡はO-11グリッド、第46号住居跡内に位置する。調査区外に掛かるため、遺構の全体は確認できないが、住居廃絶後に設置されたものと考えられる。規模は直径0.60 m、深さ1.20 mと小型井戸跡である。



1:50m



1:50m



谷部B-B'

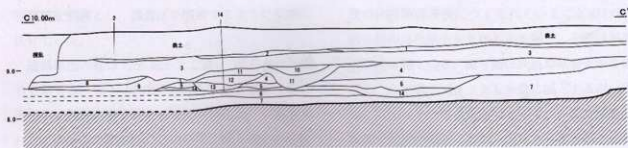
- 1 黒色土 粘性有、鉄分を含む
- 2 黒色砂層 粘性なし。ロームブロック・砂鉄を含む(土器包含層)
- 3 黄褐色土 粘性なし。しきりあり。ロームブロック大量に含む
- 4 黒色砂層 砂鉄とローム粒子の層が互層をなす(水成堆積、湧水による影響)
- 5 黒色土 粘性なし。しきりなし。緻密であり、ローム粒子を少量含む

実地A-A'

- 1 灰褐色土 鉄分少量
- 2 白色土 鉄分含む。粘性強
- 3 灰褐色土 1層に厚く。粘性強
- 4 暗褐色土 白色粘土ブロック多
- 5 黒褐色土 白色粘土ブロック多
- 6 白色土 鉄分極多。粘性強
- 7 灰褐色土 炭化物少量。しきり有
- 8 白色土 粘土層。上面に鉄分多(壙地層)
- 9 灰褐色土 白色粘土ブロック多(壙地層)
- 10 暗褐色土 白色粘土ブロック極多(壙地層)
- 11 灰褐色土 粘性強。暗褐色土ブロック含む(壙地層)
- 12 灰褐色土 粘性強。鉄分含む(壙地層)
- 13 灰褐色土 粘性強。鉄分少量(壙地層)
- A 暗褐色土 黒色土ブロック。白色粘土粒子若干含む

0 2m 1:100

第200図 谷部整地層 (1)



南壁C-C'

- 1 灰褐色土 赤色粘土少量
- 2 褐色土 白色粘土含む
- 3 褐色土 白色粘土含む
- 4 暗褐色土 白色粘土ブロック多い、土層片・炭化物含む
- 5 暗褐色土 白色粘土ブロック(4層より厚が大きい)
- 6 黒褐色土 白色粘土ブロック少量
- 7 黒褐色土 しまりなし。少量の土層片を含む、斜面上方よりの流れ込みの土層と考えられる
- 8 灰色土 粘り有
- 9 暗褐色土 粘性弱い

- 10 灰褐色土 しまり有(整地層)
- 11 白色土 粘土質で鉄分多く含む(整地層)
- 12 暗褐色土 粘土質で鉄分多く含む
- 13 黒褐色土 白色粘土含む
- 14 白色土 粘土質で鉄分多く含む。平坦に整地した層(整地層)



第201図 谷部整地層 (2)

出土遺物は須恵器環(第202図1)が1点のみである。時期は8世紀初頭(1/4期)と考えられる。

第202図1は南比企産須恵器環底部で、底部静止糸切り後回転ヘラズリ調整。青灰色で焼成は良好である。胎土に白色針状物質を多量に含む。図示部の35%残。

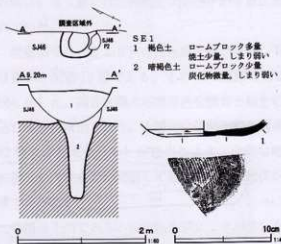
8. ビット

ビットは調査区全体から多数検出されている。住居跡柱穴以外の単独ビットについてはグリッド毎に番号を付し、全体図(第8～13図)に記載した。また、規模等のデータは第68表に示した。

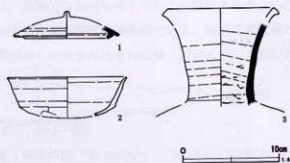
いくつかの集中地点はあるが、明確な建物群を構成するには至らなかった。出土遺物が極めて少なく、時期は確定できないが、覆土の状態などから、その大半は中・近世のものと推定している。

ビット出土遺物(第203図)

1は須恵器のかえり蓋としたが、小片であるため不明確。坏H身の可能性もあろう。湖西産である。2は土師器有段口縁環で、推定口径12.4cm。3は須恵器長頸瓶頸部である。南比企産。



第202図 第1号井戸跡・出土遺物



第203図 ビット出土遺物

第67表 ビット遺物観察表(第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	須恵器	蓋	(10.6)	1.3	—	15	I	良好	灰	K-6G P2 湖西産
2	土師器	環	(12.4)	4.0	—	10	C・I	良好	明褐	O-10G P1
3	須恵器	長頸瓶	—	(8.6)	—	55	H・I・J	良好	灰	K-6G P3 南比企産 胎土精良

第68表 グリッドピット一覧表

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
A-4	1	25	24	29
A-4	2	(16)	26	12
A-4	3	26	(8)	14
A-4	4	23	(15)	22
A-4	5	34	29	52
A-4	6	20	18	26
A-4	7	18	(16)	43
A-4	8	24	22	49
B-3	1	56	44	33
B-3	2	42	39	19
B-3	3	31	28	29
B-3	4	32	30	15
B-3	5	58	51	23
B-3	6	41	39	11
B-3	7	50	49	10
B-4	1	29	26	28
B-4	2	27	26	31
B-4	3	34	17	36
B-5	1	(28)	27	30
B-5	2	(28)	(21)	27
B-5	3	35	(16)	22
B-5	4	46	39	63
B-5	5	41	23	62
B-5	6	46	41	18
B-5	7	44	36	75
C-2	1	52	41	28
C-3	1	36	31	16
C-3	2	38	38	67
C-3	3	38	37	10
C-3	4	36	34	11
C-3	5	31	29	24
C-3	6	31	30	20
C-4	1	41	28	25
C-4	2	48	46	27
C-5	1	19	15	23
C-5	2	41	(23)	44
C-5	3	32	27	68
C-5	4	38	28	62
D-2	1	31	29	28
D-2	2	22	21	29
D-2	3	31	30	33
D-4	1	34	27	37
D-4	2	37	29	27
D-4	3	32	27	36
D-4	4	29	26	18
D-4	5	39	35	22
D-4	6	26	25	49
D-4	7	23	21	25
D-4	8	34	30	32
D-4	9	35	31	28
D-4	10	29	26	48
D-4	11	31	28	40
D-4	12	33	30	35
D-4	13	41	38	75
D-5	1	27	26	44
D-5	2	28	26	29
D-5	3	40	30	56
D-5	4	19	15	14
D-5	5	34	28	41
D-5	6	33	32	33
D-5	7	33	32	36
D-5	8	39	23	37
D-5	9	33	21	17
D-5	10	34	29	66
D-5	11	47	38	19
D-5	12	47	42	14

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
D-5	13	25	23	20
D-5	14	40	28	16
D-6	1	30	27	45
D-6	2	29	27	27
D-6	3	34	27	29
D-6	4	21	19	47
E-3	1	55	45	36
E-3	2	21	20	22
E-4	1	22	18	37
E-4	2	30	29	36
E-4	3	24	18	31
E-4	4	28	24	42
E-4	5	31	26	27
E-4	6	32	(29)	34
E-4	7	24	23	43
E-4	8	35	32	57
E-4	9	58	43	39
E-4	10	36	31	74
E-4	11	38	31	60
E-4	12	27	25	26
E-4	13	34	29	47
E-4	14	35	34	47
E-4	15	32	18	31
E-4	16	22	20	17
E-4	17	48	32	66
E-4	18	38	28	36
E-5	1	31	20	24
E-5	2	24	23	19
E-5	3	27	26	20
E-5	4	31	29	45
E-5	5	32	26	27
E-5	6	39	27	31
E-5	7	21	20	31
E-5	8	33	28	27
E-5	9	38	37	37
E-5	10	30	21	38
E-5	11	31	26	23
E-5	12	27	25	29
E-5	13	66	37	16
E-6	1	32	28	21
E-6	2	40	30	51
E-6	3	(18)	36	33
E-6	4	42	35	52
E-6	5	36	(28)	48
E-6	6	(30)	23	58
E-6	7	41	37	25
E-6	8	45	32	66
E-6	9	21	20	37
E-6	10	43	36	52
E-6	11	30	29	67
E-6	12	(35)	(23)	30
E-6	13	40	27	59
E-6	14	(26)	(13)	43
E-6	15	(42)	26	18
F-4	1	(76)	63	20
F-4	2	88	61	22
F-5	1	27	25	36
F-5	2	38	31	52
F-5	4	21	19	87
F-5	5	36	27	60
F-5	6	24	24	39
F-5	7	(35)	28	30
F-5	8	14	22	31
F-5	9	26	24	30
F-5	10	(38)	31	29
F-6	1	37	29	45

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
F-6	2	33	20	47
F-6	3	35	29	69
F-6	4	38	28	67
F-6	5	25	23	72
F-6	6	42	37	28
F-6	7	40	33	56
F-6	8	42	41	73
F-6	9	30	27	69
F-6	10	24	23	56
F-6	11	32	28	52
F-6	12	36	36	21
F-6	13	36	27	35
F-6	14	24	24	38
F-6	15	32	31	39
F-6	16	45	34	51
F-6	17	39	32	56
F-6	18	29	27	59
F-6	19	61	57	35
F-6	20	39	32	57
F-6	21	29	26	12
F-6	22	35	(28)	38
F-6	23	38	26	68
F-6	24	40	44	65
G-5	1	26	25	14
G-5	2	23	21	28
H-5	1	28	27	40
H-6	1	27	25	23
H-6	2	24	22	97
H-6	3	28	27	45
H-6	4	35	30	35
H-6	5	44	33	28
H-6	6	44	32	36
I-6	1	30	27	68
J-6	1	26	21	29
J-6	2	31	19	17
J-6	3	46	43	16
J-6	4	66	33	38
J-6	5	30	29	9
J-6	6	27	22	43
J-6	7	45	24	20
J-6	8	91	71	22
J-7	1	29	29	53
J-7	2	16	12	31
J-7	3	37	27	33
J-7	4	25	22	34
J-8	1	21	20	24
J-8	2	25	24	31
J-8	3	32	19	20
J-8	4	20	17	16
J-8	5	24	21	25
J-9	1	31	25	28
J-9	2	21	16	36
K-5	1	35	19	8
K-5	2	38	24	9
K-5	3	16	15	16
K-5	4	35	(16)	12
K-5	5	32	30	15
K-5	6	40	(15)	16
K-5	7	60	56	38
K-5	8	54	35	21
K-5	9	56	34	19
K-5	10	25	19	15
K-5	11	42	40	5
K-5	12	22	22	23
K-5	13	26	20	24
K-5	14	24	39	15

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
K-5	15	39	(30)	15
K-5	16	44	42	27
K-5	17	35	30	16
K-6	1	32	26	12
K-6	2	47	32	51
K-6	3	(40)	32	27
K-6	4	26	20	37
K-6	5	31	30	74
K-6	6	36	29	17
K-6	7	25	22	31
K-6	8	35	29	38
K-6	9	32	21	29
K-6	10	31	25	28
K-6	11	37	35	20
K-6	12	57	27	22
K-6	13	29	28	13
K-6	14	31	25	19
K-6	15	20	19	34
K-6	16	28	24	40
K-6	17	26	22	14
K-6	18	(19)	18	7
K-6	19	20	(15)	20
K-6	20	56	34	13
K-6	21	24	24	51
K-8	1	39	20	23
K-9	1	24	21	8
K-9	2	33	32	12
K-9	3	18	17	19
K-9	4	22	20	21
K-9	5	21	15	20
K-9	6	44	40	25
L-5	1	28	22	29
L-5	2	30	23	39
L-5	3	38	25	41
L-5	4	31	—	16
L-5	5	47	28	15
L-5	6	36	34	13
L-5	7	35	30	52
L-5	8	40	34	16
L-5	9	31	30	42
L-5	10	30	22	7
L-5	11	27	—	11
L-5	12	30	—	10
L-6	1	50	40	55
L-6	2	42	32	35
L-6	3	53	21	17
L-6	4	24	24	18
L-6	5	30	27	19
L-6	6	44	41	15
L-6	7	37	28	10
L-6	8	36	25	16
L-6	9	23	22	23
L-6	10	34	22	12
L-6	11	29	20	17
L-6	12	28	26	13
L-6	13	37	35	12
L-6	14	45	37	40
L-7	1	32	25	7
L-7	2	31	23	13
L-7	3	32	28	10
L-7	4	29	25	29
L-7	5	26	22	11
L-7	6	34	29	8
L-7	7	31	30	23
L-7	8	35	30	20
L-7	9	(26)	26	12

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
L-7	10	28	21	43
L-8	1	27	23	14
L-8	2	26	22	16
L-8	3	28	23	35
L-8	4	29	26	26
L-8	5	32	30	37
L-8	6	25	24	28
L-8	7	31	25	9
L-8	8	23	20	13
L-8	9	22	20	29
L-8	10	25	22	32
L-8	11	23	17	36
L-8	12	23	22	31
L-8	13	22	20	39
L-8	14	30	27	46
L-8	15	16	15	21
L-8	16	26	21	7
L-8	17	26	25	11
L-8	18	42	36	20
L-8	19	25	21	12
L-8	20	38	(23)	14
L-8	21	58	29	10
L-8	22	41	(34)	17
L-8	23	34	33	14
L-8	24	39	36	10
L-8	25	40	35	4
L-8	26	37	35	14
L-8	27	30	27	13
L-8	28	38	28	7
L-8	29	33	27	12
L-8	30	31	(21)	7
L-8	31	24	22	8
L-8	32	33	26	17
L-8	33	27	20	10
L-8	34	30	(17)	9
L-8	35	35	24	11
L-8	36	28	26	14
L-8	37	20	17	9
L-8	38	(25)	23	19
L-8	39	(22)	23	10
L-9	1	20	17	11
L-9	2	32	21	48
L-9	3	21	19	15
L-9	4	25	22	31
L-9	5	25	24	16
L-9	6	21	21	22
L-9	7	21	15	38
L-9	8	26	16	23
L-9	9	36	29	48
L-9	10	26	25	37
L-9	11	27	24	20
L-9	12	20	15	19
L-9	13	17	17	13
L-9	14	24	19	27
L-9	15	34	28	33
L-9	16	29	26	63
L-9	17	26	20	38
L-9	18	31	30	35
L-9	19	21	20	23
L-9	20	22	20	38
L-9	21	22	16	43
L-9	22	24	22	23
L-9	23	27	24	34
L-9	24	20	19	15
L-9	25	26	21	22
L-9	36	22	22	20

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
L-9	37	22	21	35
L-9	38	21	(12)	34
L-9	39	38	38	38
L-10	1	21	14	17
L-10	2	29	20	33
L-10	3	27	21	29
L-10	4	23	20	25
L-10	5	23	17	20
L-10	6	20	21	23
L-10	7	28	28	20
M-7	1	31	26	11
M-7	2	45	20	14
M-7	3	30	27	31
M-7	4	26	21	14
M-7	5	30	22	15
M-7	6	40	(25)	18
M-8	1	(50)	45	17
M-8	2	48	30	38
M-8	3	41	34	53
M-8	4	50	33	16
M-8	5	46	31	15
M-8	6	35	(20)	7
M-8	7	40	28	20
M-8	8	41	24	17
M-8	9	36	35	19
M-8	10	32	31	28
M-8	11	34	31	40
M-8	12	25	24	29
M-8	13	37	36	29
M-8	14	29	28	33
M-8	15	39	25	45
M-8	16	39	29	31
M-8	17	40	26	31
M-8	18	32	29	21
M-8	19	40	28	55
M-8	20	34	26	40
M-9	1	72	29	63
M-9	2	39	28	22
M-9	3	24	(21)	16
M-9	4	41	30	31
M-9	5	28	27	37
M-9	6	54	33	55
M-9	7	24	19	27
M-9	8	39	14	20
M-9	9	34	21	32
M-9	10	20	20	15
M-9	11	23	(18)	8
M-9	12	36	26	9
M-9	13	27	25	44
M-9	14	31	(21)	37
M-9	15	43	41	27
M-9	16	29	27	14
M-9	17	35	32	27
M-9	18	29	29	32
M-9	19	46	22	32
M-9	20	34	26	16
M-9	21	26	22	24
M-9	22	44	37	14
M-9	23	31	28	15
M-9	24	58	51	19
M-9	25	29	22	24
M-10	1	28	18	19
M-10	2	39	32	54
M-10	3	39	25	51
M-10	4	33	32	34
M-10	5	33	(15)	41

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
M-10	6	42	42	54
M-10	7	32	31	30
M-10	8	22	22	17
M-10	9	35	29	45
M-10	10	48	26	44
M-10	11	23	21	38
M-10	12	42	36	45
M-10	13	24	21	34
M-10	14	46	37	49
M-10	15	31	27	39
M-10	16	32	25	35
M-10	17	28	25	30
M-10	18	32	26	22
M-10	19	28	21	10
N-8	1	41	32	25
N-9	1	47	43	15
N-9	2	23	20	23
N-9	3	46	25	38
N-9	4	72	28	28
N-10	1	18	17	9
N-10	2	38	21	61
N-10	3	26	21	37
N-10	4	31	29	13
N-10	5	25	23	25
N-10	6	40	40	37
N-10	7	30	29	48
N-10	8	26	24	29
N-10	9	25	23	55
O-9	1	40	34	17
O-9	2	55	31	57
O-9	3	30	30	50
O-9	4	20	20	30
O-9	5	59	50	54
O-9	6	53	50	84
O-9	7	32	31	39
O-9	8	36	25	15
O-9	9	42	36	45
O-9	10	27	23	16
O-9	11	31	29	40
O-9	12	58	32	35
O-9	13	31	31	41
O-9	14	47	42	49
O-9	15	67	(61)	50
O-9	16	55	(52)	47
O-9	17	(34)	34	62
O-9	18	36	32	20
O-9	19	37	37	20
O-9	20	39	29	70
O-9	21	25	23	28
O-9	22	47	37	71
O-9	23	67	26	51
O-9	24	72	39	43
O-9	25	49	37	37
O-9	26	43	42	40
O-9	27	35	23	21
O-9	28	32	28	40
O-9	29	27	27	17
O-9	30	24	24	37
O-9	31	30	29	33
O-9	32	47	31	55
O-9	33	24	23	18
O-9	34	36	28	46
O-9	35	41	25	51
O-9	36	25	20	48
O-9	37	18	17	45
O-9	38	37	(24)	20

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
O-9	39	30	26	4
O-9	40	23	—	4
O-9	41	33	20	20
O-9	42	16	16	15
O-9	43	34	26	21
O-9	44	34	15	13
O-9	45	27	22	10
O-9	46	27	23	19
O-9	47	34	33	39
O-9	48	46	(31)	23
O-9	49	31	23	46
O-9	50	31	(24)	40
O-9	51	28	26	29
O-9	52	24	22	31
O-9	53	30	25	39
O-9	54	23	23	69
O-9	55	34	28	17
O-9	56	52	38	17
O-9	57	26	24	46
O-9	58	42	35	68
O-9	59	(38)	24	66
O-10	1	39	39	35
O-10	2	21	20	38
O-10	3	30	30	60
O-10	4	26	25	30
O-10	5	20	19	49
O-10	6	37	30	39
O-10	7	43	28	48
O-10	8	45	29	9
O-10	9	37	29	7
O-10	10	40	25	59
O-10	11	42	35	66
O-10	12	35	34	36
O-10	13	26	(16)	29
O-10	14	29	27	55
O-10	15	31	20	21
O-10	16	35	33	32
O-10	17	(42)	34	64
O-10	18	46	38	59
O-10	19	48	44	52
O-10	20	33	29	40
O-10	21	33	30	40
O-10	22	20	19	75
O-10	23	44	35	37
O-10	24	38	22	33
O-10	25	30	24	33
O-10	26	28	(25)	16
O-10	27	24	23	41
O-10	28	35	29	61
O-10	29	33	32	43
O-10	30	44	42	44
O-10	31	33	25	11
O-10	32	29	26	17
O-10	33	23	21	31
O-10	34	25	22	83
O-10	35	20	(8)	43
O-10	36	20	20	30
O-10	37	20	17	30
O-10	38	21	19	39
O-10	39	27	24	60
O-10	40	22	20	29
O-10	41	50	35	52
O-10	42	21	18	22
O-10	43	24	20	55
O-10	44	23	22	20
O-10	45	46	28	63

グリッド	番号	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
O-10	46	33	24	57
O-10	47	36	29	30
O-10	48	30	26	42
O-10	49	19	19	26
O-10	50	36	32	37
O-10	51	26	25	42
O-10	52	47	26	11
O-10	53	—	23	44
O-10	54	51	46	35
O-10	55	42	41	76
O-10	56	24	22	21
O-10	57	38	37	48
O-10	58	37	36	74
O-10	59	31	27	35
O-10	60	30	28	25
O-10	61	37	32	48
O-10	62	27	26	22
O-10	63	34	30	35
O-10	64	36	28	22
O-10	65	37	36	37
O-10	66	22	21	47
O-10	67	22	(18)	33
O-10	68	41	27	70
O-10	69	54	49	48
O-10	70	31	(17)	21
O-10	71	29	25	41
O-10	72	27	(14)	30
O-10	73	31	(17)	41
O-10	74	24	(22)	49
O-10	75	27	26	46
O-11	1	43	24	38
P-9	1	37	34	18
P-9	2	56	54	38
P-9	3	65	49	73
P-9	4	44	28	60
P-9	5	23	17	38
P-9	6	20	19	21
P-9	7	31	27	32
P-9	8	34	26	76
P-9	9	41	34	64
P-9	10	38	(20)	35
P-10	1	(26)	22	16
P-10	2	(26)	22	13
P-10	3	37	26	35
P-10	4	(42)	26	29
P-10	5	—	26	32
P-10	6	39	30	52
P-10	7	21	21	25
P-10	8	38	37	66
P-10	9	28	22	98
P-10	10	27	26	20
P-10	11	26	21	24
P-10	12	30	29	18
P-10	13	32	29	55
P-10	14	22	21	36
P-10	15	25	22	33
P-10	16	26	24	43
P-10	17	36	35	50
P-10	18	35	25	55
P-10	19	31	24	50
P-10	20	30	21	30
P-10	21	19	16	36
P-10	22	40	32	61
P-10	23	55	26	46
P-10	24	30	28	28
P-10	25	45	42	29

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P-10	26	93	32	18
P-10	27	28	(12)	27
P-10	28	33	(26)	47
P-10	29	(18)	18	22
P-10	30	28	27	37
P-10	31	(41)	34	46
P-11	1	22	20	35
P-11	2	23	22	27
P-11	3	26	21	19
P-11	4	29	29	36
P-11	5	40	36	37
P-11	6	32	28	18
P-11	7	20	19	15
P-11	8	43	30	30
P-11	9	31	25	22
P-11	10	42	39	26
P-11	11	25	21	27
P-11	12	59	45	31
Q-9	1	29	25	70
Q-9	2	33	32	28
Q-9	3	38	(26)	40
Q-10	1	29	15	27
Q-10	2	27	26	37
Q-10	3	21	14	28
Q-10	4	16	15	17
Q-10	5	22	17	21

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
Q-10	6	12	11	13
Q-10	7	20	19	61
Q-10	8	17	14	71
Q-10	9	26	25	62
Q-10	10	10	9	17
Q-10	11	24	20	46
Q-10	12	44	39	42
Q-10	13	37	29	27
Q-10	14	25	22	55
Q-10	15	30	26	28
Q-11	1	46	36	11
Q-11	2	34	26	44
Q-11	3	44	36	19
Q-11	4	60	47	17
Q-11	5	54	46	25
Q-11	6	47	46	24
Q-11	7	49	41	18
Q-11	8	49	(27)	78
Q-11	9	31	—	15
Q-11	10	57	—	23
Q-11	11	50	31	21
Q-11	12	36	26	11
Q-11	13	34	32	19
R-9	1	37	36	42
R-9	2	28	15	15
R-9	3	31	30	44

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
R-9	4	27	23	31
R-9	5	55	33	35
R-9	6	29	22	94
R-9	7	23	23	41
R-9	8	23	22	40
R-9	9	47	28	37
R-9	10	29	29	37
R-9	11	33	31	27
R-9	12	42	31	22
R-9	13	33	31	28
R-9	14	15	(10)	10
R-10	1	27	26	31
R-10	2	30	26	21
R-10	3	35	25	15
R-10	4	52	42	34
R-10	5	22	17	15
R-10	6	15	14	20
R-10	7	22	19	20
R-11	1	43	40	52
R-11	2	69	67	18
R-11	3	41	(30)	20
R-11	4	41	35	19
R-11	5	(39)	33	21
R-11	6	23	22	14
S-9	1	26	24	37

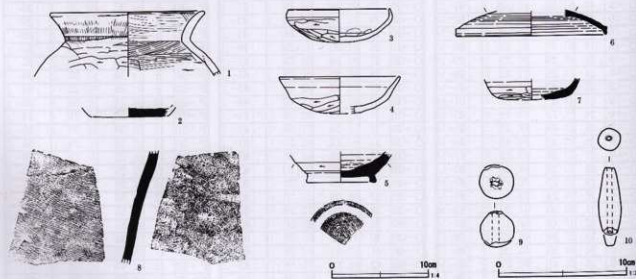
9. その他の遺物

(1) グリッド出土遺物 (第204図)

1は土師器甕で、古墳時代中期のものと思われる。推定口径15.8cmである。2は須恵器坏。底部は平底で手持ちへラゲズリ調整。胎土に雲母が多量に含まれ、新治窯跡群産と考えられる。

3・4は土師器坏。3は北武蔵型坏で、底部は丸底、口縁部は内屈する。4は模倣坏である。体部の

稜をへラゲズリで作り出している。5は須恵器長頸瓶で、湖西産。6は須恵器蓋。ロクロ右回転で、内面に自然釉が見られる。湖西産。7はいわゆる須恵器坏Gと思われる。底部から体部手持ちへラゲズリ。砂っぽい胎土で焼きはやや甘い。上野産か。8は須恵器大甕。器壁は薄く外面細かい平行叩き、内面は無文当て具後、ナデ。南比企産である。9は土玉。10は土錘である。



第204図 グリッド出土遺物

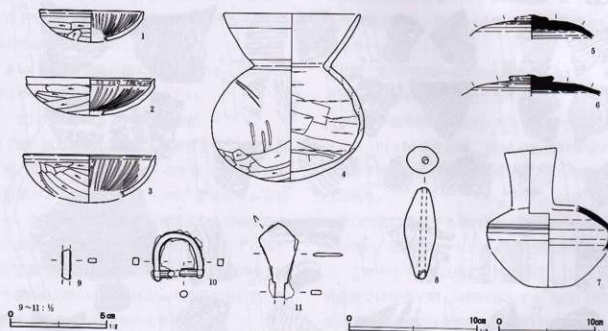
第69表 グリッド遺物観察表 (第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	壺	(15.8)	6.7	—	30	H・K	良好	褐	Q-11G 黒色層 口縁部ハケ目後ヨコナデ 内面木口ナデ
2	須恵器	坏	—	0.8	(8.0)	20	A・E・I	良好	褐灰	D区 C-4 新治産 底部手持ちヘラケズリ
3	土師器	坏	(10.6)	3.4	—	40	C・E・I	良好	橙	L-7G 北武蔵型坏 底部黒斑あり
4	土師器	坏	(12.5)	3.8	—	15	C・I	良好	明褐	P-11G 体部ヘラケズリ
5	須恵器	長頸瓶	—	3.2	(7.1)	30	I・K	良好	灰	Q-11 砂層 湖西産 胴部下端〜底部回転ヘラケズリ
6	須恵器	蓋	(15.7)	2.6	—	15	I・K	良好	灰	L7G 湖西産 外面に自然降灰
7	須恵器	坏	—	2.2	—	20	I	良好	灰	L7G 体部下端〜底部手持ちヘラケズリ 上野産?
8	須恵器	大甕	—	12.3	—	5	C・I・J	良好	灰	P11 黒色土 南北産 外面平行叩き 内面無文当て具
9	土製品	土玉	O-10G	2.2×2.4cm	最大高2.7cm	孔径0.5cm	12.91g	残存率80%		
10	土製品	土鍾	L-5G	長さ5.3cm	最大径1.8cm 厚さ1.7cm	孔径0.3cm	13.91g	残存率85%		

(2) 表探遺物 (第205図)

1〜3は土師器暗文坏。暗文は全て放射状に入る。
4は土師器小型壺。胴部中位に刃傷状の条線が見られる。5・6は須恵器蓋。5は胎土に雲母が多量に

含まれ、新治窯跡群産である。6は末野産である。
7は須恵器平瓶で、湖西産。8は土鍾。9〜11は五角形鏝と思われる。



第205図 表探遺物

第70表 表探遺物観察表 (第205図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
1	土師器	坏	(10.9)	3.1	—	15	C・I	普通	橙	一括 外面風化 内面放射暗文
2	土師器	坏	(13.4)	3.9	—	30	C・D・H・I	良好	褐	内面放射暗文
3	土師器	坏	(13.7)	4.3	—	20	C・D・H・I	良好	褐	Q-11G 内面放射暗文
4	土師器	小型壺	14.1	17.9	—	70	C・E・G・H・I	良好	褐	試掘6トレンチ 外面肩部に削痕 中位にヘラ掻き?
5	須恵器	蓋	—	2.4	—	70	A・C・D・I	普通	灰	試掘6トレンチ 新治産 つまみ器表面剥落
6	須恵器	蓋	—	2.2	—	75	B・C・D・I	普通	黄灰	試掘5トレンチ 末野産
7	須恵器	平瓶	—	4.6	—	10	I・K	良好	灰白	試掘5トレンチ 外面自然釉 湖西産
8	土製品	土鍾	試掘6トレ	長さ7.2cm	最大径2.5cm 厚さ2.1cm	孔径0.5cm	30.2g			
9	鉄製品	棒状品	遺構不明	現長1.5cm	幅0.4×0.2cm					
10	鉄製品	鉸具か	遺構不明	長さ2.5cm	幅2.6cm					
11	鉄製品	鉄鏝	遺構不明	現長3.8cm	鏝身長3.0cm 鏝幅2.0cm 厚0.2cm					五角形鏝

(3) 縄文時代の遺物 (第206図)

第206図は遺構外や後世の遺構に混在して出土した縄文土器である。

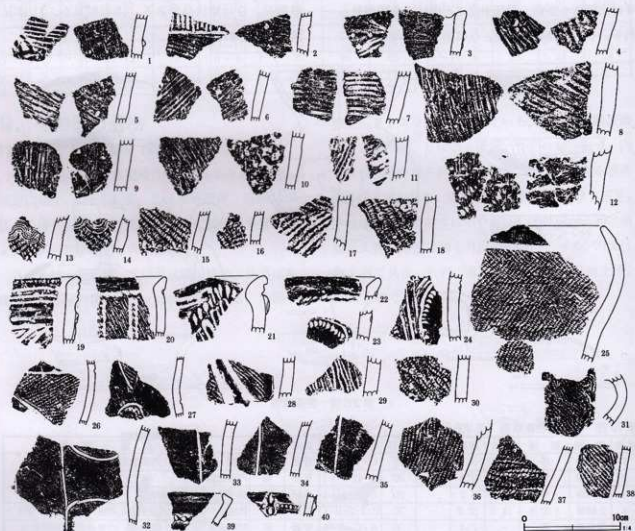
1～12は早期後葉の条痕文系土器である。1・2は野島式である。1は隆帯と沈線、2は沈線を施す。3は鶴ヶ島台式である。細隆起線文に刺突を施す。4～12は内外面に条痕文を施した胴部破片である。11・12は特に多くの繊維を含む。早期末の土器であろう。

13～18は前期の土器である。繊維を含む。13～16は関山Ⅱ式である。13・14はコンパス文を施す。

いずれも単節の縄文を施す。17・18は黒浜式である。17は無節、18は単節の縄文を施す。

19～31は中期の土器である。19～24は勝坂式である。19は隆帯、角押文を施し、胎土に雲母を含む。25～31は加曽利Ⅱ式である。25～27は沈線、28は撫糸文、29は縄文を施す。31は両耳壺の把手部分である。

32～40は後期前葉の土器である。32～35は沈線、36～38は縄文を施した胴部破片である。39・40は堀之内Ⅱ式である。口縁部に刺突のある隆帯、「8」の字状の貼付文を施す。



第206図 縄文時代の遺物

V 調査のまとめ

はじめに

今回報告した荒川附遺跡第20次調査では古墳時代中期から平安時代に至るまでの竪穴住居跡65軒、土師器焼成坑13基などが検出された。当事業団第1～3次報告分(木戸1992)では、97軒の竪穴住居跡が発見された。隣接する泉道上尾蓮田線関係で当事業団が調査した荒川附遺跡第21次調査では竪穴住居跡が13軒検出されている(未報告)。更に蓮田市教育委員会・蓮田市遺跡調査会で調査された竪穴住居跡111軒を加えると、現時点で286軒の竪穴住居跡が検出されている。大宮台地でも屈指の集落のひとつである。

まず、第20次調査出土土器の変遷について整理し、その上で、事業団第1～3次報告分と合わせて、集落の時間的な変遷を示したい。

次に、荒川附遺跡の最大の特徴である土師器焼成坑について概略をまとめておきたい。

1. 荒川附遺跡(20次)の土器様相

第1期 概ね和泉期に属する土器群を当てる。土師器壺、埴、小型埴、平底壺・小型甕(鉢)・高坏の各器種がある(第207図1～30)。器種組成から見ると、小型器台と台付壺が器種組成から脱落すること、源初坏(中村1979)や供膳器に相当する鉢や碗が定量で組成に加わらないことから、和泉期を古・中・新の3段階に分ければ古～中段階が中心で、新段階まで降るものは少ないと考えている。

第20次30・31・34・42・52・54・62号住居跡の7軒が該当する。壺は複合口縁のもの(1・2・4・5)と単口縁であるが接合痕を残し、複合口縁風に仕上げるもの(6)がある。1は複合部が三角形形状を呈し、第1～3次第95号住居跡から、同タイプの線刻壺が検出されている(木戸1992)。3は口縁部を欠くが、球形胴で胴部を丁寧にヘラミガキする。古相であろう。9の平底壺は胴部が球形で刷毛目整形を顕著に残す。比較的古い様相と考えられる。10は胴部ハケ目を残すが、やや長胴化している点は新

しい様相と思われる。

高坏は第31号住居跡から、坏部下端の縁が弱く、脚部が細長い長脚タイプの完形品が出土している(11)。第30号住居跡にも同形があるが、脚部の開きがやや大きい(14・16・17)。19は第54号住居跡出土で、やや短脚化している。伴出遺物が少なく、不明確ではあるが、該期としても新しい様相とできようか。18は脚部全体がラッパ状に開くタイプで異質である。銀(白)雲母を含み東関東系かもしれない。

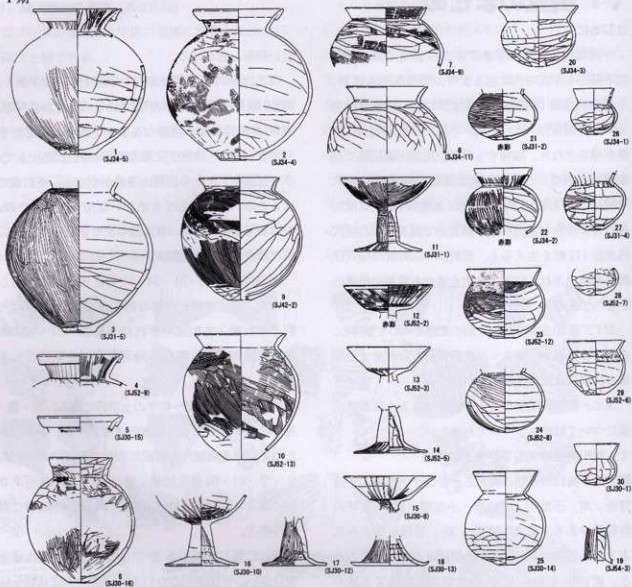
小型埴は第30・31・34・52号住居跡から出土している。住居跡群に明確な時期差を抽出し難いが、敢えて新相・古相に分ければ、第30・31・34・42号住居跡が古相、第52・54号住居跡を新相としておきたい。

第II期 鬼高期初頭～前半の土器群である。壺・甕・高坏・坏・鉢がある(第207図31～41)。定型化した須恵器坏蓋模散坏が組成に加わる段階である。第2・7・61・64号住居跡、第58号土壌が該当するが、第7号住居跡は出土遺物が少なく、不明確な部分が残る。

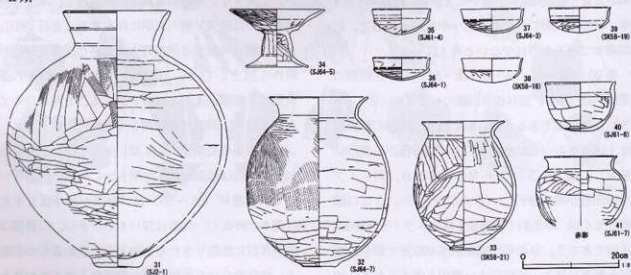
壺は二重口縁型がある(31)。口縁部中程の段表現は弱い。伴出遺物が少ないため、時期比定は難しいが、このタイプの壺は鬼高I期に盛行し、本庄市後張遺跡では後張V期・VI期に存在する(立石1983)。また、周辺地域では伊奈町大山遺跡C区第3号住居跡から出土している(高橋他1979)が、いずれも太頸で、細頸の本例とはやや異なる。II期に含めておいたが、I期新段階に属する可能性はある。

土師器甕の長胴化(32・33)と高坏脚部が太く短い(34)点は前期に比して明らかに新出の様相といえる。模散坏(35～39)は口縁部が長く直立または僅かに外反し、体部は深いものが多い。口唇部は内削ぎ状に面取りされるものと丸く収めるものがある。年代的には6世紀初頭～前半代と考えておきたい。

I 期



II 期



第207図 荒川附遺跡20次 I・II期の土器群

第Ⅲ期 第5・18・25・47・50号住居跡が該当する。土師器環・甕・甔・鉢がある(第208図1～25)。1～9は坏蓋模倣坏である。口径は13cm大の比較的大振りのものが主体となる。7は皿形で口径が16.8cmと大きい。小針型環に似るが、色調は白くない。8・9はいわゆる有段口縁環。10～13は坏身模倣坏で基本的に黒色処理される。14・15は比企型環である。14は口径が大きく、口唇部内面の沈線はない。2は内面に放射暗文状の粗いヘラミガキがあり、下野系か。17も同類と思われる。16は内面に松葉状となる放射暗文状のヘラミガキが施されている。やはり下野系譜の土器かもしれない。口径は不安定である。

18・20～24は甕。18は広口で、胴部は光沢のあるナデ。非在地(非武蔵)系で、東関東系譜と思われる。20～24は長甕。20・21・24は胴部に膨らみをもつ。23は胴部の膨らみが少なく長胴化が進行している。このなかでは後出的な特徴である。坏身模倣坏と有段口縁環を含むことから従来の鬼高Ⅱ期に相当する段階である。およそ6世紀後半頃と考えておきたい。第18号住居跡が古相、第25号住居跡が新相といえよう。

第Ⅳ期 第10・23・26・48・55・56号住居跡の6軒が該当する。土師器環・甕・壺・鉢・小型甕、須恵器蓋・環などがある(第208図26～62)。26～45は土師器模倣坏である。26・28～32は坏蓋模倣坏。口縁部は直立または外反する。29は内面に暗文状ヘラミガキがあり、下野系譜であろうか。30は底部中心部に糸切り痕と思われる痕跡が残る。33～39はいわゆる有段口縁環である。33・34は口径13cm大と大きく、古相を示すが、同じ住居跡から口径11～12cmに縮小したものも含まれる。

27・40～44は比企型環である。40～42は口縁部が「S」字状を呈し、本来の形状を留めるが、27・43・44は模倣坏型に転換した段階(純比企型環)である。いずれにせよ、模倣坏類(有段口縁環・比企型環を含む)は口径が第Ⅲ期よりも縮小傾向にあり、11～

12cm大が中心になる。45は口縁部下に沈線を巡らし、模倣坏と考えられるが、深手で、内外面にヘラミガキ、内面に黒色処理がなされている。混入品でⅡ期に遡上するのではないかという疑念もあるが、ヘラミガキを多用するという点で下総地域の土器に似る。系譜の特定は今後の課題としておきたい。

該期以降、須恵器が定量で組成に加わるようになる。本期では須恵器環H蓋(46～48)と環H身(49・50)のほか、甕の破片が出土している(第23号住居跡)。46の蓋と49の坏身は胎土が非常に良く似ており、おそらくセットになるものと推定される。坏蓋は稜をもち口縁部が外反する。坏身は手持ちヘラケズリ調整される。薄手で胎土も焼きも良いことから武蔵産とは思われない。産地は不明であるが、上野(西毛)産の可能性を想定しておきたい(註1)。47・48・50は胎土や形から湖西産と考えてよからう。坏身(50)の口縁部の立ち上がりはまだ高い。

土師器甕は前期よりも長胴化が進行している(51～58)。基本的に胴部ヘラケズリ調整の「ケズリ甕」が主体を占めるが、56は胴部ナデ調整、53・57は削り後ヘラミガキされている。60は小型の甕で煤と被熱痕が観察される。胴部は粗いヘラミガキ調整されている。雲母はないが、形態的、技法的には常陸型甕に類似する。これらは東関東や南関東の土器様相の影響があるのではないかという印象を持っているが、更に検討を要する。いずれにせよ、一定程度非在地系土器群が組成に加わる点は注意しておきたい。

土師器環類は模倣坏が主体であること、まだ北武蔵型環がなく、比企型環が残存することなどから、第Ⅳ期は7世紀前半～中頃の年代と考えておきたい。第Ⅴ期 第4・9・17・27・28・33・35・36・43・45・46・49・57・58・60・65号住居跡の16軒が本期に含まれる。土師器環・皿・碗・甕・小型甕・甔・壺、須恵器環・蓋・高盤・瓶・甕などがある(第209図)。

該期の土師器環類では、坏蓋模倣坏(第209図1～9)と有段口縁環(10～17)は前期に引き続き